

第2章

教育・保育課程

< 3 > 0歳児から5歳児の発達に応じて経験させたい内容

【0歳児～2歳児（育てたい子どもの姿）】

クラス		0歳児（0歳～1歳11か月）								
		1歳児（1歳～2歳11か月）		2歳児（2歳～3歳11か月）						
子ども の発達に 応じて経験 させたい内容 の視点	発達 の 主な特徴	おおむね6か月未満		おおむね6か月から1歳3か月未満		1歳3か月から2歳未満		おおむね2歳から3歳		
		<p>たっぷり飲んで、ぐっすり眠れるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。 ○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の要求を表現し、これに応答的にかかわる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。 		<p>身の回りへの興味の芽生えを大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人やものに興味を示し、探索活動が活発になる。 ○特定の大人との応答的なかかわりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやりとりが盛んになる一方で人見知りをするようになる。 ○身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 ○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。 		<p>自分からかかわろうとする姿を大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りのものに自発的に働きかけていく。 ○歩く、押す、つまむ、めくるなどの様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、ものをやりとりしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人ともとのかかわりが強まる。 ○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという意欲が高まる。 ○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。 		<p>自分でできた！を大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱などの身の回りのことを自分でしようとする。 ○排泄の自立のための身体的機能が整ってくる。 ○発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。また、行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして強く自己主張する姿が見られる。 ○盛んに模倣し、物事間の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。 		
生きる力の基礎	まなびの力	思考	○音を聞く、ものを見る、握る、つかむ、しゃぶるなどの動きを十分に作る。		○戸外に出ることや散歩に行くことを喜び、周囲の物事や小動物などに興味を示す。		○戸外の自然に触れながら、植物や小動物に関心をもつ。		○戸外で花や石など、自分の気に入ったものを手にとって遊ぶことを喜ぶ。	
		言葉	○機嫌のよい時には盛んに喃語で話す。		○興味のあるところへ自分で移動し、触る、なめる、見る、登る、降りる、押す、引っ張るなどして遊ぶ。		○室内や戸外で探索活動を十分に楽しむ。		○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉でのやりとりを楽しむ。	
		創造			○保育者に見守られながら、遊具や身の回りのもので一人遊びを十分に作る。		○保育者の話しかけや絵本を読んでもらうことなどにより言葉を理解したり、簡単な単語を使ったりする。		○保育者に話しかけられることを喜び、自分も同じ言葉を使ってみようとする。	
	かかわりの力	協同	○あやされることを喜び、声を出したり笑ったりする。		○保育者のすることに興味をもって、動作を真似たり、いろいろな音声や音節を繰り返したりする。		○ちぎる、破る、クレヨンでなぐり描きをするなどの手や指先を使った遊びを十分に楽しむ。		○保育者の話しかけや絵本を通じて、リズムのある言葉や繰り返しの言葉に興味をもち、自分で言うことを楽しむ。	
		信頼	○声や泣き声で自分の欲求を表し、なだめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。		○保育者に優しく語りかけられることにより、喜んで声を出したり、応えようとしたりする		○砂遊びや水遊びなどを楽しみ、様々なものの感触を楽しむ。		○のりやハサミなどに興味をもち、保育者と一緒に使いながら、遊びを楽しむ。	
		規範	○落ち着いた雰囲気の中で、安心した気持ちと喜びを味わう。		○保育者と一緒に、水、砂、土、紙、小麦粉粘土など様々な素材に触れる。		○保育者と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びを楽しんだりする。		○保育者と仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な単語やもののやりとりをする。	
からだの力	生活	○安心して寝入ったり目覚めたりする。		○保育者と視線を合わせ、表情や喃語などを通してやりとりを喜ぶ。		○生活や遊びの中で保育者を仲立ちとして、簡単な単語やもののやりとりをする。		○一人遊びを楽しみながら、保育者が仲立ちとなり、友達に関心をもって遊ぶ。		
	運動	○活発に手足を動かしたり、腹ばいで体の前に手をつけて上体をそらしたり、寝返りをしようとしたりする。		○心地よい時は笑ったり微笑んだりし、不快な時は泣いて欲求を表す。		○表情や身振りなどで自分の気持ちを表したり、簡単な言葉を使ったりする。		○自分がしてほしいことを身振りや言葉で伝える。		
		○オムツが濡れたり汚れたりした時に、取り替えてもらう気持ちよさを感じる。		○保育者の語りかけや働きかけに、声を出したり答えようとしたりする。		○保育者が歌ったり手遊びをしたりしてくれるのを喜ぶ。		○自分で表した気持ちや欲求を受け止めてもらうことを喜ぶ。		
		○安心して寝入ったり目覚めたりする。		○ほぼ決まった時間に眠り、機嫌よく目覚める。		○一定時間午睡をする。		○楽しい雰囲気の中で、様々な食べ物を食べてみようとする。		
		○乳汁以外のものを飲んだりスプーンに慣れたりする。		○一人一人の状態に応じた離乳食を食べることで、いろいろな食品の味や形態に慣れる。		○いろいろな食べ物に興味をもって口に入れてみる。		○食べ物の種類により、スプーン、フォークなどを使って食べる。		
		○オムツが濡れたり汚れたりした時に、取り替えてもらう気持ちよさを感じる。		○食べることに期待をもち、お腹がすいたら催促をする。		○スプーンやフォークを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。		○保育者に見守られ、トイレでの排泄に慣れる。		
						○おしっこが出ると言葉や仕草で教えたり、嫌がらずにオマルや便器に座ったりする。		○パンツやズボン、前開きやかぶりものの服の着脱の仕方を知り、一人でしてみようとする。		
						○歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど、全身運動を使った遊びを十分に楽しむ。		○自分の所持品（タオル、コップなど）を保育者と一緒に支度する。		
						○おしっこが出ると言葉や仕草で教えたり、嫌がらずにオマルや便器に座ったりする。		○保育者の表情や声かけで、危ないことに気付く。		
						○歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど、全身運動を使った遊びを十分に楽しむ。		○保育者と一緒に、戸外で十分に体を動かす。		
						○歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど、全身運動を使った遊びを十分に楽しむ。		○保育者と一緒に、身近な遊具や用具にかかわって遊ぶ。		
						○歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど、全身運動を使った遊びを十分に楽しむ。		○走る、跳ぶ、上る、止まるなど、全身を使った様々な体の動きを楽しむ。		

< 4 > 0歳児から5歳児の発達に応じて経験させたい内容 【3歳児～5歳児】

発達の 主な特徴		3歳児	4歳児	5歳児	
		自分なりの表し方やかかわり方を十分に楽しめるように	保育者や友達と一緒に生活する楽しさを大切に	友達と力を合わせて生活を進めていけるように	
子ども の発達に 応じて経験 させたい内容 の視点	まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の美しさに触れて感動したり、自然物を使って遊ぶことを楽しんだりする。 ○身の回りのものの色、形などに興味をもち、集める、分ける、組み合わせるなどしながら遊ぶ。 ○重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなどのものの性質に気付き、遊びに取り入れる。 ○身近な道具の使い方がほぼ分かり、様々な場面で積極的に使おうとする。 ○気に入った絵本や図鑑などに興味をもち、繰り返し見て楽しむ。 ○具体的なものを通して、数や量などに関心をもち、簡単な数の範囲を数えたり比べたりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近に起こる様々な事象に関心をもち、疑問に思ったことなどを試したり調べたりする。 ○ものの性質や仕組みについて気付いたり考えたりして、遊びに生かす。 ○目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなどして工夫して取り組む。 ○ゲームや遊びの中で数を数えたり、文字に触れたりすることなどを通して、数や文字に興味をもち、必要感をもって遊びに使う。 	
		言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達の話に親しみをもって聞く。 ○遊びや生活に必要な言葉の意味が分かり、進んで使う。 ○保育者や友達に親しみをもってあいさつをしたり、会話を楽しんだりする。 ○絵本、歌などの中で言葉のおもしろさに気付き、繰り返し声に出して楽しむ。 ○絵本や紙芝居などの内容やストーリーに興味をもち、イメージを広げて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の言うことを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら話すことを楽しむ。 ○遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるような話し方や言葉を考えて伝えようとする。 ○聞いて心地よい言葉や嬉しい言葉があることに気付き、自分も使おうとする。 ○進んであいさつをしたり、みんなの前で話をしたりする。 ○様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。 ○絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わったり自ら表現したりして、言葉のおもしろさや美しさを味わう。 	
		創造	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な素材や用具を使って、好きなように描いたりつくったりして楽しむ。 ○動物や乗り物など、身近なものの動きを模倣して、体で表現することを楽しむ。 ○保育者と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりなどして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な素材にかかわり、つくったものを使って遊んだり、保育者や友達と一緒に身の回りを飾ったりして楽しむ。 ○自分なりに工夫して表現することを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、体を動かす、簡単なリズム楽器を鳴らすなどして楽しむ。 ○絵本などの中の人や身近な動物などになりきって遊んだり、音楽やリズムに合わせて動いたりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な素材や用具を利用して、描いたりつくったりすることを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、踊る、楽器を鳴らすなど、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。 ○友達と一緒に工夫して描いたりつくったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり飾ったりする。 ○物語のストーリーに沿って遊びを進めたり、友達とイメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。
	生きる力の基礎	協同	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と一緒に活動することを喜ぶ。 ○同じ場所にいる友達とかかわり、触れ合って遊ぶことを楽しむ。 ○保育者や友達と、使うものを一緒に運んだり片付けをしたりする。 ○安心感をもって、伸び伸びと自分を表して行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仲のよい友達の中で、思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○うまくいかないことや葛藤を通じて、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ○自分から友達に何かをしてあげたり、してもらったりすることを喜ぶ。 ○クラスの友達と声や動きなどがそろって心地よさを感じる。 ○簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との考えの違いやうまくいかない経験を通して、友達と工夫したり折り合いをつけたりしながら、問題や課題を乗り越えようとする。 ○友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げる充実感を味わう。 ○共通の目的をもって遊ぶ中で、友達の思いや考えを受け入れ、一緒に遊びを進めることを楽しむ。 ○友達と活動する中で、互いのよさを認め合う。 ○一人ではできないことでも、友達と一緒にだとできるという喜びや満足感を味わう。
		信頼	<ul style="list-style-type: none"> ○したことや感じたことなどを、保育者に受け止められ、安心感をもつ。 ○自分の思ったことや感じたことを言葉や行動など、自分なりに表現しようとする。 ○身近な様々な人と触れ合うことを喜ぶ。 ○自分なりにやってみて、できた喜びを十分に味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達の言っていることや考えていることを受け止めて行動しようとする。 ○異年齢の子どもに親しみをもったり、進んで遊んだりする。 ○園内の身近な職員や地域の方などに親しみをもち、一緒に活動する楽しさを感じる。 ○自分なりにやり遂げた満足感や身近な人に認められることを通じて自信をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ○身近な友達とのかかわりを深めるとともに、異年齢の子どもなど、様々な友達とかかわり、思いやりや親しみをもつ。 ○高齢者をはじめ地域の方など、自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 ○繰り返し挑戦して達成したり、様々な人に認められたりすることを通して自信をもつ。
		規範	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や遊びの中での簡単なきまりがあることを知り、それを守ろうとする。 ○友達の反応や保育者の働きかけから、やってよいことと悪いことが分かる。 ○遊具や用具の貸し借りや、交代する、順番を待つなどをする中で、楽しく遊べるのが分かる。 ○みんなで使うものがあることが分かり、一緒に使おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き守ろうとする。 ○やってよいことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 ○協同のものを大切に、みんなで使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に遊びを発展させる中で、自分達で遊び方やきまりをつくり出し、守って遊ぶ。 ○やってよいことと悪いことがあることが分かり、考えながら行動する。 ○協同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。 ○生活に必要なことを友達と一緒に進め、自分の役割を果たすことに喜びを感じる。
	からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい雰囲気の中で、食べ物を進んで食べようとする。 ○身の回りの清潔や衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要なことが自分でできることを喜ぶ。 ○保育者の援助を受けながら、危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○食べることを楽しみ、食べ慣れないものや嫌いなものでも少しずつ食べようとする。 ○遊びや生活に必要な準備や片付けなど、やり方が分かり、進んで行おうとする。 ○自分の健康に関心をもち、うがい、手洗いや衣服の調節などを進んで行う。 ○園生活のきまりや危険なことが分かり、約束を守って行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康と食べ物の関係に関心をもち、何でも残さず食べようとする。 ○身の回りのものの始末や片付けの必要性が分かり、見通しをもって進んで行く。 ○うがいや手洗いなど、病気の予防に必要な活動を理解し、進んで行う。 ○危険なものや場所、遊び方が分かり、状況を判断して安全に気を付けて遊ぶ。
		運動	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者と一緒に、戸外で体を動かすことを喜ぶ。 ○身近な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ○自分なりに体を動かす心地よさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ○遊具、用具などを使い、様々な体を調整して積極的に遊ぶ。 ○簡単なルールのもとで、体を動かす遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で友達と一緒に進んで様々な運動や遊びをする。 ○様々な運動遊具を進んで使い、工夫して遊ぶ。 ○自分のめあてに向かって繰り返し挑戦したり、チーム対抗の遊びを楽しんだりする。

教育・保育課程の見方

第2章の教育・保育課程では、乳幼児期の子どもに「生きる力の基礎」を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な環境・援助を示しました。

4歳児 I期 (4月～5月)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、保育者との関わりを基盤に、自分の思いをまっすぐに表現し生活しをりする。 保育者や友達と関わり、自分の思いを表現し生活しをりする。
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、保育者や友達と関わり、自分の思いを表現し生活しをりする。 自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 保育者や自分の身近な者の言葉に反応し、自分の思いを表現し生活しをりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に自分の思ったことや困ったことを言葉で伝えようとする。 自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 保育者や仲の良い友達と挨拶する。 保育者の読む絵本や紙芝居などを見たり聞いたりすることを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 身近な素材や材料に興味をもち、自分なりにつくって遊ぶことを楽しむ。 感じたままに表したり、何かのつもりになって遊んだりする。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 好きな友達と同じ遊びを楽しむ。 クラスのみならず、園全体で遊ぶ楽しさを味わう。 友達と楽しく遊ぶためには、ルールを守ることが大切である。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達に親しみをもって、遊ぶ。 困った時などに自分から保育者に伝える。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なきまりが分かり、約束を守る。 集団行動や安全のルールを知り、自ら実践する。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活の中で、生活の仕方や流儀を学ぶ。 新しいクラスでの生活の場や仕方を学ぶ。 新しい遊具や用具の安全な遊び方を学ぶ。 危険なものや場所を知り、安全に気を付ける。 保育者や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で生活する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児の時に経験した遊びをしながら、戸外で体を動かして遊ぶことの心地よさを味わう。 保育者や友達の動きを真似て、同じ動きをする。 遊具や用具などに自らかかわり、遊ぶ。
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> 進級による喜びや不安に対して、共感したり励ましたり。 4歳児は友達とのかかわりが増えるので、トラブルやけんかなどがあることを伝え、1年間の成長を見守っていきけるような環境づくりを伝える。 家庭での様子や園での様子を見守っていきけるような環境づくりを伝える。

【ねらい】
 各時期の子どもの発達を踏まえた成長の実現に向けたねらいを示しています。

【経験させたい内容】
 生きる力の基礎【3つの力】を育成する観点から、各時期に子どもに経験させたい内容を示しています。

【発達の姿】
 各時期の子どもの発達に即した望ましい子どもの姿をあげています。

【環境・援助】
 生きる力の基礎（3つの力）を育成する観点から、子どもに確実に経験させたい内容の視点に基づき、その時期の「子どもの姿」「環境」「援助」を示しています。

【身に付く力と経験させたい運動遊び】
 「長浜市運動遊びプログラム」に基づいた遊びを紹介しています。

【家庭との連携】
 家庭への伝え方や連携のポイントを示しています。

- ◆ 支持力
- あざらし

- ◆ 跳躍力
- カンガルージャンプ (フープヘジャンプ)

- ◆ 懸垂力
- ぶたの丸焼きパイパイ

- ◆ その他感覚 (回転感覚)
- 前回り下り

50

0歳児(57日頃～3か月頃)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・あやされたり、声をかけられたりすることを喜ぶ。 ・保育者に欲求を受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。 ・音のする方や動くものを目で追う。
まなびの力	<p style="text-align: center;">思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機嫌のよい時に鼻から出ていた音声が喉からも出るようになり、「アウー」「ウー」などの発生が聞かれる(喃語の始まり『クーイング』)。 ・光(明るい光、優しい光など)に反応する。 ・周りの保育者を意識したような泣き方をする。 <p style="text-align: center;">言葉</p> <p style="text-align: center;">創造</p>
かかわりの力	<p style="text-align: center;">協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不快感が芽生え、空腹になったりオムツが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて泣きやんだり、安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・あやしたり声をかけられたりするとよく笑う。 ・授乳の合間や保育者に抱かれている時に、自分から目を見つめ、機嫌がよいと声を出してくる。 <p style="text-align: center;">信頼</p> <p style="text-align: center;">規範</p>
からだの力	<p style="text-align: center;">生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲む。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握る。 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回す。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合わずなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをする。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくる。 <p style="text-align: center;">運動</p>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳のやりとりをしたり、お迎えの時に温かく対応したりすることで、保護者との信頼関係をつくっていく。 ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排泄、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。 ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいので、一人一人に合わせて哺乳瓶の乳首のサイズなどを保護者と確認していく。 ・首がすわる前の乳児は、頭を支えるだけの筋肉や骨がまだ十分育っていないので、水平にして首と頭を支えて抱くように知らせていく(縦抱きを続けると、体に「反り」や硬さが現われる)。 ・この時期の「泣き」は、乳児の思いの訴えであることを伝え、まずはその子がどうしてほしいのかをその子の気持ちになって考え、優しく語りかけてみるよう伝える。また、保護者の不安な気持ちを十分受け止めていく。

0歳児(3か月頃～6か月頃)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・あやされたり、声をかけられたりすると喜び、受け止めてもらう心地よさを知る。 ・飲む、寝る、遊ぶの安定したリズムで機嫌よく過ごす。 ・意欲的に注視や追視をし、欲しいものをつかもうとして手を出したり、寝返りをしようとする。
まなびの力	<p style="text-align: center;">思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。 ・首がすわり、手足の動きが活発になり、玩具を見せると手を伸ばして握ろうとする。 ・泣き方に表情が出てき、眠い時はぐずり泣き、お腹がすいた時は怒ったように泣き、人を求めて甘え泣きもする。 <p style="text-align: center;">言葉</p> <p style="text-align: center;">創造</p>
かかわりの力	<p style="text-align: center;">協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。 ・目の色が変わり始め、「見つけた」という表情がでてくる。 <p style="text-align: center;">信頼</p> <p style="text-align: center;">規範</p>
からだの力	<p style="text-align: center;">生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃の入り口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を食べる。 ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っている時と目覚めている時がはっきりと分かれ、昼夜の区別がつき始めてリズムが定まってくる。 ・体温調節は安定し始めるが、まだ周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいになると肘で上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる（お座りの姿勢では、もう少し後になる）。 <p style="text-align: center;">運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の正中線で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、ものをしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・昼は起きて明るいところで生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。 ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子どもの手の届くところに危険なものは置かない、子どもは大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きている時には応答的にかかわる、準備食の内容や時期など）を知らせ、保護者が安心して子どもの動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。 ・あやしたり、話しかけたりすると笑いや喃語を促すことを知らせ、玩具やわらべ歌などの紹介をして、家庭での遊び方を伝える。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">発達 の 姿</p>	<p>【3か月頃】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たいていの原始反射が消失する。 ・首がすわり、仰向けでは左右、上下約180度の往復追視ができるようになる。 <p>【4か月頃～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹ばいでは、肘で体を支え頭を上げ、上体を支えるようになる。 ・目の前のものがほしいという思いで2つのものの見比べができ、5か月頃になるとほしいものをつかもうとする（『欲』の誕生）。 ・手は、親指を外に出して握りが開いてきて、やがてモミジのように手のひらが開く。 ・あやしてもらいと、手足が活発に動き、声を出して笑うようになる（おはしゃぎ反応）。 ・寝返りをする。 	
	環境	援助
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま な び の 力</p>	<p>□ 温度変化に弱く、体温の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、温度調節をする。音や光などを考慮し、できるだけ静かな環境で安定して過ごせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 泣いて訴えている時は、何が原因で泣いているか探って理解し、その気持ちを言葉にしつつ、その子の願いが実現できるように丁寧に援助する。 ※ なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使うものは個別にし、使ったらその都度清潔にしておく。 ※ 優しい言葉、声（子どもの喃語への反復）、まなざし、笑顔での働きかけなどを通して、子どもの情緒の安定や人との心地よいかかわり、周囲への関心を育んでいく。 ※ 起き上がりこぼし、コロコロと回転するもの、オルゴールなど、じっくりと目で追う遊びができるようにする。 ※ 機嫌のよい時（授乳後30分以内は避ける）や、オムツを替える時に、ベビーマッサージなどを通して体に優しく触れ、その感触を心地よいと感じさせるとともに、愛着関係を深めていく。 ※ 子どもを腹ばいにして、お互いに顔を見合えるようにして、真ん中に玩具を置き、子どもが視線や声で自分が見つけたものを他者に伝えようとする時、保育者はそれを見逃さず、受け止めて応答を返していくようにする。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">か か わ り の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 個人差に応じて睡眠がとれるように環境を整える。 □ 準備食（注1）の目安は、授乳リズムが3時間半から4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃とする。 □ 準備食を食べる時は、静かで落ち着いた環境を整える。 □ 腹ばいの姿勢で溢乳やよだれが多くなるので、プレイマットのカバーを多く用意し、こまめに取り換える。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 衣類を調節し、着せすぎには気を付ける。暑さ寒さに気を付けながらも、冷暖房を使いすぎないようにして、できるだけ自然の気温の中で体温調節の力を養う。 ※ 着替えや沐浴、オムツ交換などで体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。 ※ 準備食のスプーンは、口に合った大きさで浅いものを選び、正面から直角に与える。スプーンで下唇を刺激し、口を開いたら、食べ物を舌の中央から前の方に乗せる。口を開かなかつたり、舌で押し出したりする場合は、無理に食べさせようとしない。 ※ 腹ばいにして両肘が胸より下へ下がってしまう時や、胸が上がらない場合は、バスタオルなどを丸めてつくったロールクッションを、両肘をクッションの前に出して胸の下に入れ両足が床につくようにして、腹ばいを援助していく。 ※ 首がすわったら、機嫌のよい時に、保育者の膝の上に向こう向きに座らせて、子どもの腰から太腿にかけてのところを持って体を支えて支え座りを始める。また、仰向けから上になる方の足を曲げてお腹につけるようにして、ゆっくりと支え寝返りをして、芽生えてきている立ち直りの力を充実させる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">か ら だ の 力</p>	<p>注1：準備食…果汁、野菜スープ、重湯、乳汁（母乳、育児用ミルク）以外の味や香り、乳首以外のスプーンから飲み、えん下できるように、その違いを学習させる。</p>	
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆手・腕の力 にぎっておすわり ◆足の力 足の裏、ピーン ◆その他感覚 寝返りレッスン おひざでおすわり 		

0歳児(6か月頃～9か月頃)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の語りかけを喜び、自分でも声を出すことを楽しむ。 ・ 保育者と十分にかかわり、欲求を受け止めてもらいながら、親しみをもって安定して過ごす。 ・ 腹ばいや寝返り、座位など、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・ いろいろな食品の味や形態に慣れる。
まなびの力	<p style="text-align: center;">思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ものを落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・ 名前を呼ばれると振り向く。 ・ 箱や引き出しの中のものをつまみ出して遊ぶ。 ・ 言われていることを少しずつ理解できるようになってくる。 ・ 「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・ 保育者の口元を見て真似る。 <p style="text-align: center;">言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のほしいものがある時、そのことを視線や発声や表情で伝える。 ・ 戸外に出ることを喜ぶ。 ・ 機嫌がよいと一人遊びをする。 ・ 曲に合わせて体を動かす。 ・ 周囲のものを触ってみたり、口に持っていったりする。 ・ 様々なものに触れて、いろいろな感触を経験する。〈事例1〉 <p style="text-align: center;">創造</p>
かかわりの力	<p style="text-align: center;">協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の真似が上手になってくる。 ・ 同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・ 名前を呼ばれたら応じようとしていたり、知っている人に抱いてもらおうとしていたりする。〈事例13〉 <p style="text-align: center;">信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イヤイヤ、バイバイなどの動作をする。 ・ 要求があると声を上げる。 ・ 人見知りをしたり、後追いをしたりする。 ・ 人の動きを目で追う様子がある。 <p style="text-align: center;">規範</p>
からだの力	<p style="text-align: center;">生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者が手を添えるとコップを持って飲む。 ・ 保育者の膝で支え座りをしてもらったり、椅子に座ったりして食べる。 ・ 上顎と舌を使ってつぶして食べる。 ・ 保育者にオムツを交換してもらったり、手や顔などを拭いてもらったりして、心地よさを感じる。 ・ 午前と午後、だいたい同じ時間に寝起きをするようになる。 ・ 背中を反らして手足を上げる（グライダーポーズ）。 ・ うつ伏せの状態で爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する（ピボットターン）。 ・ 寝返り、ハイハイ、お座りなど、活発に動くようになる。 ・ 支えて立たせると足を踏ん張る。 ・ 手でものをつかんだり、手を打ち合わせたりする。〈事例25〉 <p style="text-align: center;">運動</p>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ うつ伏せ状態でつま先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に回転するという行動をたくさんすることが、その後のハイハイや歩行に向けて重要になることを伝える。 ・ 衛生、安全面に気を付け、子どもが十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。 ・ 離乳食を進めるに当たり、飲み込みや舌で潰すなど、一つ一つの段階が十分できているかを確認し合い、焦らずゆっくと進められるようする。また、アレルギー反応などが無いかな確認してもらいながら、食材を増やしていく。 ・ 母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。 ・ 後追いや夜泣きが愛着の力の形成を示す発達の過程の大切な特徴であることを知らせ、保護者が安心して子どもとかかわれるよう支援する。

<p>発達 の姿</p>	<p>【6か月～7か月頃】</p> <ul style="list-style-type: none"> 左右どちらへも自由度の高い寝返りができたり、片手でものを手に取って左右自由に持ち換えたりすることができるようになる。腹ばいになって、手のひらで上半身を支えられるようになったり、ものにつかまって二足座位ができたりするようになってくる。 強弱・高低をつけて喃語を発するようになり、自分がほしいものがある時など、視線や発声、表情で思いを表現する。 乳汁以外のものを飲んだり食べたりできるようになり、乳歯が生え始める。 <p>【8か月～9か月頃】</p> <ul style="list-style-type: none"> ハイハイが左右対称の動きになり、高ばいや座った姿勢で両手を自由に使い、立体的なものを三本指でつまめるようになる。 「マンマン」「バァ」などの要求や意味を伴った『志向の音声』が出始める。また、バイバイと手を振ることを真似ることができるようになる（模倣の始まり）。 後追いや人見知りが多く見られるようになる一方、特別な人の温かいかわりで安心感を得て、愛着関係が深まっていく（8か月不安）。 日中の睡眠が減り、1日の生活のリズムが整ってくる。 	
<p>まな びの 力</p>	<p style="text-align: center;">環 境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 何でも口の中に入れてたり舐めたりしてものを確かめる時期なので、玩具などは常に清潔に保ち、安全面にも留意する。 □ 直径3.5cm以下の玩具は、誤飲の危険があるので避け、床の小さなゴミにも注意するなど、安全で清潔を保てる環境を整える。 □ 散歩は同じ場所やコースを選び、子どもと共通のものや事象を共感し合う機会を増やす。 	<p style="text-align: center;">援 助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 遊びや生活を通して具体的に身の回りのものの名前、動作などを語りかけていく。 ※ 玩具などは、保育者が手に取って十分に遊ぶところを見せて、興味をもって子どもが自ら遊び始めるきっかけをつくっていく。 ※ 子どもが見つけた玩具などは、自分で取れるようにし、保育者が先取りしないようにする。 ※ 戸外では、見たものや感じたことを言葉にして、優しく語りかける。
<p>か か わ り の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 揺さぶり遊びや「いないいないばあ」などの隠れ遊びを多く取り入れ、保育者とかわることを楽しめるようにする。 □ 「8か月不安」の時期は、担当保育者ができるだけ子どものそばを離れず、安心感を与えられるような体制となるよう、保育者間の連携をとる。 □ オムツ交換は場所を清潔に保ち、一人一人とゆったりとかかわりながら行える環境を整える。 □ 食事は、座位が安定してきたら、足の裏が床につくようにし、自ら食べようとする姿勢を保つようにする。スプーンは溝の浅いものか、平らなものを使う。 □ 日中の睡眠が減ってくるとともに、眠りが浅くなり始めるので、十分に眠れる静かな環境を保つよう心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者が笑顔で名前を呼び、優しい声で歌いかけたり、ゆるやかな動作で揺さぶり遊びをしたりする。また、子どもの目の前で「レロレロ」などの口の動きを見せて、模倣を引き出す。 ※ 「8か月不安」の時期は、担当以外の保育室への不要な出入りは避け、子どもが不安感を表現した時には温かく受け止めながら、子どもが自ら不安を乗り越えていけるように援助していく。 ※ オムツを交換することを語りかけで知らせ、子どもと視線を合わせ、優しくゆったりとかかわりながら行う（顔や手を拭く時なども同様にする）。 ※ スプーンを下唇の上に半分のせ、上唇で食べ物を取り込めるようにする。「モグモグ」と保育者の口の動きを見せたり、食品を知らせたりして、食べようとする気持ちを高めていく。
<p>か ら だ の 力</p>	<p>□ 十分にはうことができる空間をつくり、玩具も自分で手に取りやすい場所に置き、そこに向かってはっていき意欲を引き出せるようにする。</p> <p>□ 座位が不安定な時期は、前後や横に転倒しないよう、腰の高さのクッションなどで体を支える。</p> <p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <p>◆手・腕の力 わにさん・いぬさん</p> <p>◆足の力 1、2、ジャンプ</p> <p>◆その他感覚 だるまさんコロソ</p>	

0歳児(9か月頃～12か月頃)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人やものに対する興味や関心をもち、好きな遊びを楽しむ。 ・保育者と十分にかかわって、欲求を受け止めてもらい、親しみをもちながら安定して過ごす。 ・ハイハイから座位、つかまり立ちから伝い歩き、さらに一人立ちになるなどの運動機能が発達し、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 						
まなびの力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">思考</td> <td style="border-left: 1px solid black;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなった保育者が出てくるのが分かり期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">言葉</td> <td style="border-left: 1px solid black;"> <ul style="list-style-type: none"> ・要求したり援助を求めたりする時に、周りの関心を引こうとして、手差し指差しをしたり発語したりする。(事例2) ・容器のものを出す、容器にもものを入れる、かぶせる、のせる、合わせるなどをするようになる。 ・ものを布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・保育者の言葉を少しずつ理解する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">創造</td> <td style="border-left: 1px solid black;"></td> </tr> </table>	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなった保育者が出てくるのが分かり期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・要求したり援助を求めたりする時に、周りの関心を引こうとして、手差し指差しをしたり発語したりする。(事例2) ・容器のものを出す、容器にもものを入れる、かぶせる、のせる、合わせるなどをするようになる。 ・ものを布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・保育者の言葉を少しずつ理解する。 	創造	
思考	<ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなった保育者が出てくるのが分かり期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 						
言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・要求したり援助を求めたりする時に、周りの関心を引こうとして、手差し指差しをしたり発語したりする。(事例2) ・容器のものを出す、容器にもものを入れる、かぶせる、のせる、合わせるなどをするようになる。 ・ものを布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・保育者の言葉を少しずつ理解する。 						
創造							
かかわりの力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">協同</td> <td style="border-left: 1px solid black;"> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者のしていることに興味を示し、自分もしようとする。(事例14) ・保育者から「ちょうだい」と求められると、ものを渡そうとする。 ・ものを打ち合わせたり積んだりする。 ・イヤイヤをしたり、バイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">信頼</td> <td style="border-left: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">規範</td> <td style="border-left: 1px solid black;"></td> </tr> </table>	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者のしていることに興味を示し、自分もしようとする。(事例14) ・保育者から「ちょうだい」と求められると、ものを渡そうとする。 ・ものを打ち合わせたり積んだりする。 ・イヤイヤをしたり、バイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 	信頼		規範	
協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者のしていることに興味を示し、自分もしようとする。(事例14) ・保育者から「ちょうだい」と求められると、ものを渡そうとする。 ・ものを打ち合わせたり積んだりする。 ・イヤイヤをしたり、バイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 						
信頼							
規範							
からだの力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">生活</td> <td style="border-left: 1px solid black;"> <ul style="list-style-type: none"> ・舌を左右に動かして歯茎で咀嚼する。 ・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持ってすすり飲みをする。 ・保育者がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、つたい歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的にもものを投げたり置いたりする。 ・両手でものを持ち、手渡す。 ・臥位、座位、つかまり立ち、つたい歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。(事例26) </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">運動</td> <td style="border-left: 1px solid black;"></td> </tr> </table>	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・舌を左右に動かして歯茎で咀嚼する。 ・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持ってすすり飲みをする。 ・保育者がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、つたい歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的にもものを投げたり置いたりする。 ・両手でものを持ち、手渡す。 ・臥位、座位、つかまり立ち、つたい歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。(事例26) 	運動			
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・舌を左右に動かして歯茎で咀嚼する。 ・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持ってすすり飲みをする。 ・保育者がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、つたい歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的にもものを投げたり置いたりする。 ・両手でものを持ち、手渡す。 ・臥位、座位、つかまり立ち、つたい歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。(事例26) 						
運動							
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・つかまり立ちやつたい歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意することを伝える。 ・離乳食が後期食に移行する時に、家庭と連携して、早寝早起き、朝食・夕食を食べる生活リズムが親子でつくれるよう、保育園での午睡時間を見直しながら援助する。 ・ハイハイが十分ではない子どもには歩かせることを急がず、ハイハイの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。 ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。 						

<p style="text-align: center;">発達の姿</p>	<p>【9か月～11か月頃】</p> <ul style="list-style-type: none"> 姿勢が安定し、足を投げ出して安定して座れるようになる。 持っているものを相手に渡せたり、自分の名前を呼ばれて振り返ったり手を上げたりする。また、両手にもものを持ち、打ち合わせたり、積んだりすることを試みたりする。 他者が示す喜怒哀楽の基本的な感情が分かる。また、「パパ」「ママ」などの初語が出てくる。 口唇をしっかり閉じて、舌と顎の左右運動をし、歯茎で咀嚼する。 <p>【11か月～12か月頃】</p> <ul style="list-style-type: none"> つかまり立ち、つたい歩きをし、箱などを押して歩いたり、高ばいで目標を捉えてつき進んだりする。 容器の中身を出す、ものを入れる、かぶせる、乗せる、合わせるなどが盛んになる。 言葉の意味が分かり始め、「ちょうだい」に対し手の上に置こうとしたり、ボールを転がして相手に渡したりする。 保育者などとの間で、玩具などを共有し始め、要求の手差しや指差しをする。 口唇の形を意識的に自由に変えることができ、歯が生えるにしたがい、咀嚼運動が完成してくる。 				
<p style="text-align: center;">まなびの力</p>	<p style="text-align: center;">環境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 探索活動が活発になり、なんでも手に取って確認する時期なので、感触の異なる（滑らか、ザラザラ、硬い、柔らかい、チクチクなど）ものや、引っ張る、握る、出すなどが楽しめる玩具を豊富に揃える。また、玩具の見直しを十分にしたり、感触遊びの玩具は、ほつれたり、壊れたりする前に交換する。 □ 口の筋肉、呼吸をする力を高めるため、ラッパやフエなどの、吹く玩具を用意する。 □ 散歩に積極的に出かけ、自然の素材や生き物に接して楽しむ機会を多くもち、外界への関心を広げられるようにする。 □ 隠れたもの、見えなくなったものが気になり始める時期なので、「いないいないばあ」などの隠れ遊びを多く取り入れ、保育者とかかわることも楽しめるようにする。 	<p style="text-align: center;">援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 子どもが感じた驚きやドキドキを、保育者も一緒に感じ、言葉や表情で伝える。 ※ 自分の意思をもち始める時期なので、子どもの気持ちを温かく受け止め、寄り添う。 ※ 子どもの言葉をゆったりと受け止めたり、優しく返したりするなど、安心して言葉が発せられるようにする。 ※ 保育者が子どもの手差しや指差しを言葉で意味づけしたり、遊びや生活の中で、子どもの見つけた喜びと一緒に感じ、表情や言葉で伝える。 			
<p style="text-align: center;">かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 鏡の中の自分を覗きこんだり、他の人を鏡の中に探し始めるなど、自他を区別する力が芽生えてくるので、壁に鏡を設置するなどして、楽しむようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ ものを媒介にして人間関係を結び始めるので、玩具の渡し方などは、言葉と動作をそえてできるだけ子どもの正面から、丁寧にかかわる。 			
<p style="text-align: center;">からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 自分で食べたい気持ちが芽生えてくる時期なので、食事の際は取り皿を使用し、適量のパン、スティック野菜、果物など手でつまんで食べやすいようにする。 □ つまむ、叩く、引っ張る、出し入れする、くぐる、乗り越える、よじ登る（発達に応じた高さや素材）など、手、指、足腰を使った遊びを十分に楽しめる環境をつくっていく。 □ 床の段差、用具や玩具の角など、保育室の安全面に留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 食べ物の硬さや大きさに気を付け、楽しみながら自分で食べようとする意欲を引き出す。 ※ 食事の際は、舌や顎を動かして、歯茎で咀嚼が十分に行えているかをよく見極めながら、保育者がカミカミと口を動かして見せ、模倣を高めていく。 ※ ハイハイ（ずりばい、四つばい、高ばい）が十分でない子どもには、歩かせることを急がず保育者と一緒に楽しく、ハイハイの経験を多く重ねていけるようにする。 ※ つかまり立ちやつたい歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒など、危険がないように気を付ける。 			
<p style="text-align: center;">【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆手・腕の力 いぬさん、くまさんでのぼろう トンネルくぐり</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆足の力 くまさん、いないいないばあ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆その他感覚 まほうのじゅうたん（寝転んで）</td> </tr> </table>			◆手・腕の力 いぬさん、くまさんでのぼろう トンネルくぐり	◆足の力 くまさん、いないいないばあ	◆その他感覚 まほうのじゅうたん（寝転んで）
◆手・腕の力 いぬさん、くまさんでのぼろう トンネルくぐり	◆足の力 くまさん、いないいないばあ	◆その他感覚 まほうのじゅうたん（寝転んで）			

1歳児 I期(4月～8月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、安心して食べたり、眠ったりする。 保育者と一緒に好きな遊びを見つけたり、一人遊びを十分に楽しんだりする。 身近なものへの興味や関心をもち、探索活動を十分に楽しむ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 園内や園舎の散策を保育者と一緒に楽しむ中で、春から夏の自然に触れる。 身近な環境の中で、探索活動や一人遊びを十分に楽しむ。〈事例3〉 形の変化や様々な感触を楽しむ。 片言が盛んになり、要求を仕草や簡単な言葉で表現しようとしたり、喃語や片言で保育者とのやりとりを楽しんだりする。 保育者と一緒に絵本を見たり、絵を見ながら保育者の言葉の真似をしたりする。 保育者の簡単な声かけが分かり、行動しようとする。 水性ペンなどで左右の往復運動をし、なぐり描きを楽しむ。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者やいつも一緒に生活している友達と安心して過ごす。 お気に入りのもの(持っているとお安定するもの)やお気に入りの場所で好きなことを楽しむ。 「自分で」という気持ちが芽生え、やってみようとする。 「自分の(もの)」という気持ちを持ち、伝えようとする。 保育者に甘えたり、わがままを言ったりするなど、保育者に受け止めてもらうことで安心して思いを出す。〈事例15〉 したいこと、してほしいことを表情や指差し、動作、一語文などで表す。 「バイバイ」「ありがとう」「おはよう」「いただきます」などのあいさつを、仕草や言葉で行う。 保育者の言葉がけや表情で、危ないことなどに気付く。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 園生活のリズムに慣れ、落ち着いて過ごす。 着替える時に手や足を動かし、簡単な衣服を脱ごうとする。 オムツが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを使ってみようとする。
	運動	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や保育室の環境などが変わったことによる保護者の不安を受け止め、園での子どもの様子を丁寧に伝えていくことで、子どもや保護者との信頼関係を深めていく。 家庭での様子(食事、睡眠、排泄、好きな遊びなど)を聞き、家庭と同じように接しながら、安心して過ごせるようにする。 天候や気温の変化により体調を崩しやすいので、家庭や園での様子を保護者と丁寧に伝え合う。また感染症や食中毒などの予防について便りなどで伝え、健康について十分配慮し合う。 夏は汗をかいたり、水遊びをしたりする機会が増えるので、着替えを多く用意してもらうようにする。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや要求を、仕草や表情、言葉などで伝えようとする。 周囲の大人が話しかける言葉を覚え、真似をしながら発語しようとする。 生活リズムが安定し、一日の保育の流れに沿って、排泄や睡眠、食事などの生活を保育者と一緒にする。 歩行が安定し、手指操作では様々な動きが円滑にできるようになり、出す、入れる、押す、つまむ、めくるなどの動きを楽しむ。 				
	環境	援助			
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ タンポポやチョウなどの自然物や小動物に触れられる場所へ出かける機会を設ける。 □ 使いたいものを使いたい時に自分で取り出せるように、置き場や置き方を工夫する。 □ 安心して十分に一人遊びを楽しめるように、玩具の種類と数に配慮し、一人一人の遊びの場や空間を保障する。 □ 触ったり握ったりすることで形が変化したり、いろいろな感触を味わえたりするような素材（水、小麦粉粘土、寒天、片栗粉など）を用意する。 □ 描くことを楽しみ、点々や往復運動などで伸び伸びと描けるような大きな紙を用意しておく。また、握りやすい太さや長さのペンを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 興味や関心が広がり、探索活動を楽しむようになると危険も増えるので、保育者間の連携を密にし、一人一人の動きや思いに応じた援助をするとともに、安全面にも十分配慮する。 ※ 子どもが関心をもったものや子どもの見つけた遊びを受け止め、保育者も一緒に遊んでいくことで、十分に楽しめるようにする。 ※ 保育者も一緒に遊びながら感触を楽しむとともに、「柔らかいね」「冷たいね」など、感触や感覚に応じた言葉をかけていく。 ※ 子どもが発した音声や行動を言葉に結びつけたり、子どもが興味を示したことに言葉を添えたりしていく。 			
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 朝の受け入れ時は、同じ保育者が対応するなどして、子どもが安心できる雰囲気や流れをつくる。 □ スキンシップが十分にできるような触れ合い遊びやわらべ歌遊び（「きゅうりもみ」「おすわりやす」など）を取り入れ、毎日の遊びの中で保育者との触れ合いを楽しめるようにする。 □ 一人一人のお気に入りのものや場を見極め、十分に楽しめるような場や時間を保障する。 □ マットや畳、絵本棚の置き方を工夫して、ゆったりとできる空間をつくるなどして、一人遊びが十分にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 新しい環境でも安心して過ごし、保育者に愛着を感じられるように、優しい言葉がけやスキンシップをしながら丁寧に対応していく。 ※ わがままをその時期の大切な自己主張と捉え、温かく寄り添う。 ※ 好きな玩具や遊びを見つけ、じっくりと楽しめるように、一人一人に合わせて保育者がゆったりとかかわり、気持ちや行動を受け止める。 ※ 子どもの思いを受け止め、言葉を添えて指差すものを見たり、子どもの示した興味に共感したりして、満足するまでゆったりとかかわっていく。 			
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 食事の席や布団の場所などの生活環境はいつも一定にし、自分の居場所として安心できるようにする。 □ 思い思いに歩く時期なので、遊ぶ場所や散歩コースの危険物を取り除くなど、安全面に配慮する。 □ 上る、下りる、はうなどの動きを十分に楽しめるように、空間を広く取り、トンネルやマットの山などを用意する。 □ 積み木、キャップ落とし、小麦粉粘土、ボール、重ねコップなど手や指を使って遊べる環境を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 食事や睡眠、排泄など、できるだけ同じ保育者がかかわることで安心できるようにする。また不安な気持ちを受け止め、一人一人の様子や気持ちに応じてかかわることで、身の回りのことに興味をもって取り組めるようにする。 ※ 個人差を配慮し、スプーンで食べることに無理なく少しずつ慣れていけるようにする。 ※ 食材の大きさや量を加減しながら、自分で食べようとする気持ちを大切にしていく。 ※ 遊びの中で、歩く、上る、下りる、しゃがむなどのいろいろな動きを楽しみながら経験できるようにしていく。 ※ 安全確認をした上で裸足になる機会をつくり、足指を使って歩く経験ができるようにする。 			
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆手・腕の力 新聞紙で遊ぼう</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆足の力 足を越えて1、2 でこぼこ道を歩こう</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆その他感覚 まほうのじゅうたん（座って） お空へだっこ</td> </tr> </table>			◆手・腕の力 新聞紙で遊ぼう	◆足の力 足を越えて1、2 でこぼこ道を歩こう	◆その他感覚 まほうのじゅうたん（座って） お空へだっこ
◆手・腕の力 新聞紙で遊ぼう	◆足の力 足を越えて1、2 でこぼこ道を歩こう	◆その他感覚 まほうのじゅうたん（座って） お空へだっこ			

1歳児 II期(9月～3月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を楽しむ。 要求を自分なりの言葉で伝えたり、保育者とかかわる中で言葉を使うことを楽しんだりする。 保育者と一緒に、興味のあることや体験したことの真似をしたり、見立てたりすることを楽しむ。 保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことをしようとする。 全身を使って遊んだり、簡単なリズム遊びをしたりする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 園庭や散歩先で探索活動を楽しむ中で、見る、触れる、気付く、驚くなどいろいろな体験をする。 粘土や砂などを使った遊びを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 積み木やパズルなど、身近な玩具に興味をもって遊ぶ。 身近にある人形や電話などを使って簡単な生活再現遊びを楽しむ。 思いや要求を表情や身振り、自分なりの言葉で伝えようとする。 保育者と簡単な言葉のやりとりを楽しんだり、簡単なあいさつをしたりしようとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったりすることを喜ぶ。 絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しの言葉を楽しむ。 クレヨンや水性ペンでなぐり描きやぐるぐる描きなどを楽しむ。〈事例4〉 保育者と一緒に、手遊びや簡単なリズム遊びを楽しんだり、知っている歌を口ずさんだりする。 歌や音楽に合わせて、音の出る手づくり玩具などを鳴らして遊ぶ。 保育者や友達の真似をすることや、〇〇になったつもりを楽しむ。
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と簡単な言葉や動作のやりとりを楽しむ。〈事例16〉 保育者や友達のしていることの真似をして遊ぶ。 自分の思い通りにならないとだだをこねるなどして、保育者に気にとめてもらおうとする。 身近な保育者や友達に関心をもち、好きな友達のそばに近寄ったり一緒にいたりする。 「待ってね」「やめようね」などの言葉がけが分かる。 保育者に促されて、生活の中の簡単なきまりや危険なことなどに気付く。 自分のものと人のものの違いに気付くようになり、自分のものの置き場所が分かる。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことに対して、「自分で」を主張し、自分でやってみようとする。 衣服の着脱を自分でしようとする。 靴を自分で脱いだり、履こうとしたりする。 保育者の誘いかけで便器で座ってみようとする。 保育者に見守られながら、自分で手洗いをしようとする。 スプーンやフォークを下から持ってみたり、自分で食べようとしていたりする。 保育者や友達と一緒に食べる中で、様々な食品を食べてみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒にハイハイ、高ばい、歩く、走る、よじ登る、くぐるなど、全身を使った遊びをする。 散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。 並べる、つまむ、めくる、ちぎる、破る、引っ張るなど、指先を使った遊びをする。〈事例28〉 音楽に合わせて体を動かし、気に入った動きを楽しむ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことを自分でしたがる時期なので、自分でできる喜びを積み重ねて身に付けていけるよう、繰り返し丁寧につきあうことの大切さを知らせる。また、着脱しやすい服装、履きやすい靴にしよう。 個人差が大きくなる時期なので、一人一人の発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。 感染症が流行する時期には、手洗いをしっかりと行うことの必要性を伝えるとともに、子どもの健康状態を把握するために、保護者と連絡を丁寧に取合う。 周囲のものや人への関心が高まり、友達とももの取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うこともあるが、思いや気持ちを受け止めることの大切さやその時の対応の仕方を知らせていく。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのもの（人形、電話など）を使って、簡単な再現遊びをする。 ・自分の思いやしてほしいことを言葉や動作で伝えようとする。 ・自我が育ち、だだをこねたり、自他の区別ができるようになってくる。 ・友達と場を共有しながら、一人遊びをじっくりする。 ・手首のコントロールができるようになり、スプーン、フォークなどの道具をうまく使えるようになる。また、手指の操作性も高まり、並べる、つまむ、めくるなど手や指を使って遊ぶ。 				
<p>まなびの力</p>	<p style="text-align: center;">環境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 一人一人の興味や関心に合わせ、一人遊びが十分にできるように、遊具を数ヶ所に分けたり、複数用意したりする。 □ 素材を使う楽しさや感触を味わえるように、子どもが扱いやすく感触を楽しめる様々な素材に触れる機会をつくる。 □ 生活場面を再現して遊ぶことができるように、生活の中の身近なもの（人形、電話、タオルなど）を用意したり、ままごとなどの場を用意したりする。 □ ○○のつもりで楽しめるように、身近で親しみがありイメージしやすい動物（ウサギ、カエルなど）のお面などを用意する。 	<p style="text-align: center;">援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 一人一人が楽しんでいることを見守ったり、感じていることに寄り添ったりしていく。また、自然物に触れることで諸感覚を十分に働かせる経験を重ねていく。 ※ 保育者が子どもの生活そのものを丁寧に演じてみせることで、再現して遊ぶおもしろさや楽しさを感じたり、子どもの中に自分の生活の再現遊びとしてつながったりしていくようにする。 ※ 自分の思いや要求などを伝えようとしている姿を大切に受け止める。また、言葉として通じにくかったり表現できなかったりする場面では、保育者が具体的な言葉や正しい言葉に言い換えるなどしていくようにする。 ※ 保育者が動物の動きの真似をすることで、子どもが真似をしやすく、よりイメージをもって○○のつもりが楽しんでいけるようにする。 			
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ やりとりが楽しめる遊び（ままごとなど）の工夫をし、身に付けるものを用意したり、イメージを広げて遊べるような手づくり玩具を用意する。 □ 自我が芽生え、ものや場所、人に対して執着するようになり、ものの取り合いが多くなるので、同じものを複数用意していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者が「貸して」「どうぞ」「いいよ」「おいしいね」などの言葉や動作を添えていくことで、簡単なやりとりをする楽しさが味わえるようにする。 ※ 保育者も一緒に遊びながら、「保育者や友達と一緒に」の楽しさ、心地よさを味わえるようにしていく。 ※ 子どもの「悲しい」「イヤ」「甘えたい」などの感情を全面的に受け止め、受け入れられている安心感が感じられるようにする。 ※ 周囲のものや人への関心が高まり、友達とぶつかり合うことが多くなる時期なので、それぞれの気持ちや思いを大切にしていって、保育者に受け止めてもらったという安心感ももてるようにする。 ※ 他の子の玩具を取ったり、玩具を取られるとたいたたりすることがあるが、「自分のもの」と思うことで「自他の分離」の意識が育ってきたと捉え、それぞれの思いに寄り添いながら危険のない限り見守る姿勢も大切にする。危険なことに関しては、その都度伝えていく。 			
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 生活の流れを一定にすることで、子どもが安心して行動できるようにする。 □ 室内においても全身を使って遊べるように遊具を設定し、必要に応じてマットを敷くなど安全面にも配慮する。 □ 一人歩きができるころ、坂道を上り下りするところなど、いろいろな場所や地形を散歩コースとして設定する。 □ 指先を使い考えながら遊べる玩具（形合わせ、型はめ、ひも通し、シール、小麦粉粘土など）を準備する。 □ 走る、跳ぶ、歩くなどの様々な動きのあるリズム遊びや触れ合い遊びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 身の回りのことを自分でしたがる時期なので、まだできないからといって保育者がするのではなく、子どものやってみたいという気持ちと結びつけて、自然と取り組めるようにする。 ※ 一人一人の発達や経験に応じて、食器の持ち方や、咀嚼の仕方を知らせる。 ※ 保育者が手伝うのを嫌がったり、予想しない行動をとったりすることがあるので、保育者の立つ位置を考え、保育者同士で声をかけ合いながら、目を離さないようにする。 ※ 散歩などを通して、子どもの歩きたい欲求を満たし、歩く楽しさを味わえるようにするとともに、足で体重を支えたりバランスをとったりして、全身を十分に使って動くことができるようにする。 ※ リズム遊びでは子ども達が興味ある部分を楽しむ姿を認め、保育者も一緒に動くことで、体を動かす楽しさを知らせていく。 			
<p style="text-align: center;">【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆手・腕の力 まねっこハイハイ タオルひっぱりっこ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆足の力 まてまておいかけごっこ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆その他感覚 ロボット歩き</td> </tr> </table>			◆手・腕の力 まねっこハイハイ タオルひっぱりっこ	◆足の力 まてまておいかけごっこ	◆その他感覚 ロボット歩き
◆手・腕の力 まねっこハイハイ タオルひっぱりっこ	◆足の力 まてまておいかけごっこ	◆その他感覚 ロボット歩き			

2歳児 I 期(4月～8月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ・身近な自然に触れ、保育者とかかわりながら自分のしたい遊びを楽しむ。 ・砂、水などの感触を味わいながら遊ぶ。 ・安心できる保育者や周りの友達と同じ場所で過ごしたり、真似をしたりすることを喜ぶ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や草花に興味をもって、保育者と一緒に見たり触れたり集めたりしながら、気付きや発見を喜ぶ。(事例5) ・積み木を並べたり、積んだり、見立てたりすることを楽しむ。 ・砂や水など、様々な素材に触れ、感触を味わって遊ぶ。 ・生活の中で簡単なあいさつや返事をしたり、生活に必要な簡単な言葉を使ったりする。 ・保育者や友達の名前を覚えて呼んでみる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じ」「大きいね」「黄色だね」など、遊びの中で形や大きさ、色などに気付く。 ・身の回りのことに興味をもち、「これなあに」と質問する。 ・「外へ行くから、靴を履こうね」など、保育者の言葉がけを理解して行動する。 ・保育者に好きな絵本を読んでもらったり、知っている歌や手遊びを一緒にしたりする。 ・粘土や小麦粉粘土を使い、ちぎる、伸ばす、たたくなどを自由に楽しむ。 ・クレヨンや水性ペン、絵の具で、自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の場や保育者に慣れ、友達のしていることに関心をもち、同じ場で遊んだり真似をしたりすることを喜ぶ。(事例17) ・保育者と一緒に好きな遊びを楽しみ、保育者を仲立ちとして友達とかかわって遊ぶ。 ・保育者のそばで安心して過ごす。 ・自分のしたいことや、してほしいことを言葉や仕草で伝える。 ・保育者や友達とのかかわりの中で、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者に対し、「～したよ」など、出来事を思い出して話すことを喜ぶ。 ・「自分で」と自己主張をし、何でも自分でしようとする。 ・自分のロッカーや靴箱など自分のものの置き場所が分かり、自分のもの、人のものの区別がつく。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の手助けを受けながら、安心して排泄、着脱、昼寝などをしようとする。 ・保育者に見守られたり、援助してもらったりしながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ・生活の節目で促されてトイレへ行き、便器に座り排泄しようとする。 ・スプーンやフォークを使って一人で食べようとしたり、食事をするを楽しんだりする。 ・「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをし、食事の区切りを感じる。 ・遊んだ後に、保育者と一緒に遊具を片付けようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽や歌に合わせて、自分なりに全身を動かして遊ぶ。 ・保育者と一緒に、様々な遊具や用具(滑り台、フープ、ボールなど)で体を動かして遊ぶ。(事例29) ・近場への散歩を通して、階段、でこぼこ道、坂道などを歩くことを楽しむ。 ・粘土、クレヨン、絵合わせ、手遊びなど、指先を使った遊びを楽しむ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境での子どもの様子を細やかに知らせることで安心してもらうとともに、保護者との信頼関係を築いていく。 ・保育者や保育室などの生活環境が変わるため、子どもは心身ともに疲れやすくなり、体調を崩すことがあるので、子どもの様子を伝え合うなど、連携を密にする。 ・子どもが自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらうようにする。 ・感染症などについて、家庭に知らせ、健康状態について連絡を密にする。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な小動物、植物、事物などに触れ、それらに興味や関心をもち、探索や模倣、見立てるなどして遊ぶ。 保育者の温かいかわりの中で、二語文を話し始めるなど言葉数が増え、自分の思いや要求を言葉や仕草で伝えようとする。 安心できる保育者と一緒に遊んだり、保育者の仲立ちによって友達と遊んだりする。 自分の目印（マーク）が分かり、自分のものや自分の場所を確認し、安心して過ごす。 食事、衣服の着脱など、身の回りのことを保育者に援助してもらいながら、自分ですようとする。 安定した歩きができるようになり、走る、上るなどを楽しむ。また指先や用具を使う遊びにも興味をもつ。 	
	環境	援助
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 身近な小動物や植物に興味関心が広がるように、戸外や散歩に出かける機会をつくっていく。 □ 玩具の数は十分に用意し、子どもに分かりやすいように決まった場所に置いておく。 □ 一人一人が思い思いに出したり、入れたり、並べたり、見立てたりすることができるような環境を整えておく。 □ 水遊びや砂遊びなど全身を使って感触を味わえるような環境を準備する。 □ 自由に描くことを楽しめるように、描きやすいクレヨンや水性ペンなどを用意する。また子どもの興味に合わせられるように、様々な大きさの紙を多めに用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 子どもの発見や気づきを受け止め共感していくとともに、保育者自身の発見を言葉に出すことで、子ども達の気づきや興味にもつながるようにする。 ※ 子ども一人一人が何に心を動かしているのか捉えて、見守ったり一緒に遊んだりする。 ※ 保育者も一緒に遊ぶ中で、子どもの仕草や言葉を受け止め、感触の気持ちよさ、おもしろさなどに共感していくようにする。 ※ 子どもの表現を大切にしながら、保育者も一緒に楽しんでいく。また、描いたものを受け止めることで、描く楽しさにつなげるとともに、見立てた表現や思いにも共感していく。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 環境の変化により不安になることがあるので、家庭と同じような、安心でき、落ち着ける環境をつくる。 □ 自我の拡大期となり、「自分で」「もっと～したい」と、自己主張が強くなってくるので、やりたいことをじっくりとすることができるような場や時間を保障する。 □ 自分の場所やものが分かることで安心できるように、目印（マーク）をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 一人一人に応じた言葉がけや配慮を心がけることで、新しい保育者との信頼関係が築けるようにする。 ※ 保育者と一緒に遊ぶ中で、同じ場にいる友達がしていることにも気付けるような言葉がけをしていく。 ※ 何でも自分でできるという気持ちが育ち、自分から取り組む姿が見られる一方、できることでも甘えてくるなど、自立と依存を行き来する姿を受け止め、保育者の安心感のあるかわりの中で、少しずつ「自分でできた」という満足感をもてるようにしていく。 ※ 自分のものにこだわる時期なので、自他の区別に戸惑う姿を受け止めつつ、目印（マーク）などを使い、自分のものや場所を分かりやすく伝えていく。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 落ち着いてゆっくりと衣服を着脱できるような場をつくる。 □ 排泄については、一人一人に応じて便器やオマルで排泄をする環境を整える。 □ 活動の合間に、水分補給など休息を適宜取り入れ、快適に過ごせる時間の確保や環境をつくる。また、気温や湿度にも配慮する。 □ 園内外の様々な地形を歩くことができるような機会や散歩コースを設けていく。 □ 指先を使って遊べるように、粘土、クレパス、ひも通し、型はめなどを準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 自分でしたいという気持ちを温かく受け止めるとともに、甘えも肯定的に捉え、自分でできたと感じられるようなさりげない援助をしていく。 ※ 便器やオマルに座っても排泄がない時は、いつまでも座らせたままにせず、「またおしっこ出るときは教えてね」などと伝えて活動に戻るなど、無理なく自分でできた喜びにつなげていく。 ※ 1日の流れが一人一人にとって無理のないようにする。また、疲れやすい時期なので、一人一人の健康状態を把握し、休息と活動のバランスに気を付ける。 ※ 行動範囲が広がる反面、危険予測は未熟なので、固定遊具などの安全な遊び方を保育者も一緒に遊ぶことで知らせていく。また個人差があるので、保育者が一緒にやってみたり、できにくいところを支えるなど、一人一人に応じた援助をしていく。 ※ 目と指先の協応ができるようになり、指先や用具を使うことに意欲が出てくるので、必要に応じて保育者が手助けをしていきながらできた喜びを感じられるようにする。
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆手・腕の力 ぶらりんごっこ ◆足の力 積み木の上を歩こう ジャンプでピョン ◆その他感覚 やきいもごろごろ 		

2歳児 II期(9月～12月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な保育者の言葉や行動の真似をしたり、おもしろいと感じたことを繰り返して遊んだりする。 保育者や友達とのかかわりの中で、言葉のやりとりを楽しんだり、自分の思いや要求を自分なりの言葉で伝えたりしようとする。 保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 戸外で体を十分に動かしたり散歩をしたりする中で、伸び伸びと遊ぶことを楽しむ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な用具の名前や使い方に興味をもち、保育者と一緒に使ってみる。 木の葉や木の実を喜んで集め、それを使って遊ぶことを楽しむ。 音、色、におい、量などに気付き、興味をもつ。 様々な容器や袋、布、ひも、箱などを使い、1人でじっくりと繰り返し遊ぶ。 身近な大人の真似をして再現遊びや見立て遊びを楽しむ。 楽しかった経験を自分なりの言葉で伝えようとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と簡単な言葉のやりとりを楽しむ。 繰り返しのあるやりとりやおもしろい言い回しのある絵本や紙芝居を見ることを喜び、言葉を真似て遊ぶ。 簡単な楽器（鈴、タンバリンなど）に触れ、鳴らして遊ぶ。
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ。 経験したことを再現して遊ぶことや見立てて遊ぶことを、保育者と一緒に楽しむ。〈事例18〉 保育者や友達とおいかけて、おいかけられたりなどして遊ぶことを喜ぶ。 遊びや生活の中で自分の思い通りにならない時は、保育者に思いを受け止めてもらい、気持ちを切り替えようとする。 興味のある簡単な手伝いを喜んでする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の言葉がけで危険なことに気付く。 自分と他人や善悪の区別が少しずつ分かるようになる。 「入れて」「貸して」「待って」など、遊びや生活に必要な言葉を保育者と一緒を使って、身近な友達とかかわろうとする。
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 尿意、便意を知らせたり、自分からトイレに行こうとする。 トイレットペーパーの使い方など排泄後の始末の仕方を知る。 保育者と一緒に食前や排泄の後の手洗いをしたり、保育者の援助を受けながらうがい（口ゆすぎ）をしたりする。 苦手なものを少しずつ食べてみようとする。 スプーンやフォークを使い、食器に手を添えて食べようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊具や用具に触れながら、戸外で十分に体を動かすことを楽しむ。 遊びを楽しむ中で、走る、両足跳びをするなど、様々な体を動かす。 ボールを蹴る、投げる、転がす、受けるなどして遊ぶ。〈事例30〉
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 自分でやろうとする気持ちを受け止めて経験させることで、子どもが成長してきていることを具体的に伝えて、保護者と共に成長を確認していく。 戸外で遊ぶ機会が増えるので、動きやすい靴や着替えを用意してもらうようにする。 分かりやすい衣服の裏表の返し方や、園での声のかけ方を具体的に知らせ、家庭でも行えるようにする。また、自分でできたという喜びが感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらえるように伝えていく。 薄着の習慣の大切さや日中の活動の様子を伝え、なるべく薄着で過ごせるよう、調節しやすい衣服を用意してもらう。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の再現遊びを保育者と一緒に楽しむ。 ・保育者の見守りのもとで、一人遊びをじっくりと楽しむ。 ・友達と互いに関心を示し始め、保育者が仲介することで友達と一緒に遊ぶようになる。 ・保育者に手伝ってもらいながら、身の回りのことが少しずつ自分でできるようになり、できたことを喜ぶ。 ・走る、跳ぶなどの全身の運動機能が発達するとともに、手指の機能分化も進み、手遊びや指遊びで様々な形を手でつくることを楽しむ。 	
	環境	援助
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ いろいろな色、大きさ、形などの自然物を用意し、触れたり、遊びに使えたりできるように、身近なところに置いておく。 □ 再現遊びや世話遊び、見立て遊びが十分に楽しめるように、見立てやすい（より本物らしい）素材や玩具を十分に準備しておく。 □ 楽器遊びでは、一人一人がそれぞれの音を十分に楽しめるように、同じ種類の楽器を人数分用意する。また、子ども達の好きな歌や曲も用意することで、より楽しさを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 自然物に触れる中での子どもの発見や驚きに共感していく。また保育者が、並べたり比べたり集めたりして、色、大小、形などの違いに気付けるようなかかわりをしていく。 ※ 再現遊びなどの中で、子どもの自発的な行動や自由な想像を受け止め、共感していくようにする。さらに意味付けを加えるなどして子どもの言葉を膨らませていく。 ※ まだ十分に言葉が出ないことがあるので、子ども一人一人の話したい気持ちを受け止め、急かすことなく言葉が出てくるのを待つようにする。 ※ 保育者も一緒に楽器を鳴らすことで、音を楽しめるようにしていく。また保育者が楽器の鳴らし方を示すとともに、楽器を丁寧に扱っていくことで、扱い方にも気付けるようにする。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 再現遊びや見立て遊びを通して、保育者や友達の真似をしたり、一緒に遊んだりできるように、場や玩具を準備しておく。 □ 友達への関心が出てくる時期なので、隠れる、逃げるなど保育者や友達とかかわることが心地よいと思う遊びを取り入れる（おいかっこ、かくれんぼなど）。 □ 子どもが思い通りにならない歯がゆさを保育者に伝えられるように、子どもから話しかけやすい雰囲気づくりをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者が遊びのきっかけをつくらせたり見立てを膨らませたりして、友達とも一緒に楽しめるようにする。 ※ 保育者がおいかける－逃げる、隠れる－見つけるなど双方の役になって一緒に遊ぶことで、どちらの役でも安心して遊べるようにする。 ※ 思い通りにならないことの感情のぶつかり合いが多く見られる時期だが、自己主張することが、後に相手の思いを知りかかわる力につながっていくと肯定的に捉え、温かく支えていくようにする。 ※ 友達とのかかわりの中で、思いを十分伝えられない時には、保育者が言葉を付け足したり、一緒に言ったりして支えていくことで、友達とかかわれた嬉しさを感じられるようにしていく。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ トイレに行きやすくなるように、明るく清潔に整え、絵表示をするなどして楽しい雰囲気をつくる。 □ 戸外に出てゆっくりと遊ぶ時間を確保していく。 □ 全身を使って安全に遊ぶように、巧技台を低めに設定するなど、用具や場の工夫をする。 □ 子どもが扱いやすく危険がない遊具（ボール、わっかなど）を、十分に準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 尿意を知らせにきたことやトイレに行けたことを褒めることで、できた嬉しさを感じられるようにするとともに、トイレで排泄することが意識できるようにしていく。また、個によってトイレの間隔が違うので、一人一人に応じて支えていくことで、安心して排泄ができるようにする。 ※ 着脱などが「自分でできた」という満足感がもてるように、目立たないような手助けをしていく。 ※ 保育者が一緒に遊ぶ中で、登る、押す、引っ張るなど全身を使って遊ぶようにするとともに、新しい遊具の使い方や楽しみ方なども知らせしていく。 ※ 遊びの範囲が広がり、力量に合わないことをしようとすることがあるので、安全面に配慮する。
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆手・腕の力 のしのしくまさん はしごをよいしょ ◆足の力 ジャンプでタッチ ボールをキック ◆その他感覚 肩からゴロン 		

2歳児 Ⅲ期(1月～3月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることや経験したことなどを、保育者と一緒に自分なりに好きなように表現しようとする。 ・保育者や友達とかかわることを喜び、同じ遊びを好んでしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でし、進級を楽しみにする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな玩具や場所に進んでかかわり、それらを使って見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ・雪、氷など冬の自然にかかわり、見たり触れたりして遊ぶ。 ・生活や遊びの中にある色や形、大小、長短などに関心をもつ。 ・手を洗ったらおやつを食べるなどの2つの関係が分かるようになる。 ・自分の経験したことを自分なりに伝えようとしたり、「よかった」「嬉しい」などの気持ちを言葉で表現したりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びに必要な簡単な言葉を使おうとする。 ・繰り返しの言葉や楽しいやりとりの出てくるお話のおもしろさを感じ、喜んで聞いたり使ったりする。(事例6) ・身の回りのことに興味をもち、「なぜ」「どうして」などの言葉を使う。 ・気に入った歌やリズムに合わせて手遊びをしたり、なりきって表現したりすること楽しむ。 ・様々な材料に興味をもち、好みに折ったり丸めたりすることを楽しむ。 ・保育者と一緒に、描いたり、切ったり、貼ったりして遊ぶことを楽しみ、できたものを「○○みたい」と見立てて遊ぶ。
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、生活を再現した簡単なおっこ遊びを楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に、歌に合わせた手遊びやリズム遊びなどの触れ合い遊びを楽しむ。 ・保育者や友達と、おいかっこや簡単なやりとりのある遊びを楽しむ。 ・思ったことや感じたことを自分なりに伝えたり、保育者や友達のおしゃべりを楽しんだりする。 ・できるようになったことや大きくなったことを認められ、進級することに期待をもつ。 ・「みんなのものがある」ということに気付き、保育者の仲立ちで順番に使ったり分け合ったり、貸し借りをしたりしながら使おうとする。 ・保育者の言葉がけで、危ないことや生活の中での約束があることを知る。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服を着脱する、手を拭く、鼻汁をかむなど、保育者に声をかけてもらったり手伝ってもらったりしながら身の回りのことをしようとする。 ・尿意や便意を知らせ、自分からトイレへ行こうとし、保育者に見守られながら排泄後の始末をしようとする。 ・外から帰った時や食後など、保育者と一緒に手洗いやうがいをする。 ・促されて食前や排泄後の手洗いをする。 ・友達と一緒に食べることを喜ぶ。 ・食べ物の種類により、スプーン、フォーク、箸を使って食べる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然や外気に触れながら、戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 ・「速い-遅い」「強い-弱い」「高い-低い」などの動きの調整を自分で少しずつする。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自分でしようとする気持ちを大切に、できたという喜びや自信が感じられるように、家庭でもゆったりとかかわってもらおうようにする。 ・日常の具体的な姿から一人一人の子どもの成長を伝えていくことで、子どもも保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。また、集団としての子ども達の成長や、子ども同士のかかわり方など、3歳児での成長につながっていくことを伝える。 ・進級に伴い、園と家庭の連絡方法や持ち物などが変わる場合には、あらかじめ説明をし、保護者も安心して3歳児に移行できるようにする。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人差はあるが、大人の言葉や身の回りのことなど、見聞きするあらゆるものに対して「なぜ」「どうして」と尋ね、納得するまで質問するようになる。 自他の区別ができて、固執や反抗など自己主張が強くなり、しばしば友達とものの取り合いなどでぶつかり合うことがあるが、保育者の仲介があると「いいよ」と貸せることもある。 保育者に見守られながら、食事や排泄の習慣や、衣服の着脱、簡単な身の回りの始末など自分でできることが増え、自分でできたことを喜ぶ。 速いーゆっくり、強いー弱いなどの違いが分かり、動きを調整する力がついてきて、二次元の世界を楽しむようになる。 	
	環境	援助
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 氷がはった時や雪が降った時には、機会を逃さずに冬の自然事象に触れて遊べるようにする。 お正月遊びなどを通して、形や大きさなどに興味をもてるように様々な形や色、大きさのものを用意する（絵カードやパズル、簡単なカルタなど）。 真似をしたりイメージしたりしやすいように、言葉の繰り返しがあって場面の変化がない絵本やお話を用意する（てぶくろ、大きなかぶなど）。 見立てが楽しくなるような、道具（エプロン、なべ、かばんなど）を用意しておく。 切ったり貼ったりして、つくることを楽しめるように折り紙や画用紙などの素材を用意する。また、のりを使うときは手拭き用の濡れタオルを用意しておく。 一人一人がハサミを使って切ることを十分に楽しめるように、1回切り程度の簡単な工程でできる材料を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 氷や雪を見つけたり触れたりした時の、冷たさや驚き、不思議さに共感する。 生活や遊びの中の形や色、大きさの違いに興味をもてるように、保育者が玩具を見せたり並べたりしながら遊ぶなどして、気付けるようなきっかけづくりや言葉がけをしていく。 お話に出てくる繰り返しの言葉を使って保育者とやりとりをしたり、一緒に言ったりしながら楽しめるようにする。 子どもがつくったものを何かに見立てたり、子どもがつくったものに意味付けをしたりしながら、子どもの発想が広がるような応答を心がける。 ハサミを使うときは必ずそばにつき、丁寧に援助していく。また、保育者がかかわりながら、自分でしようとする姿を褒めたりできたものを使って遊びを共有したりする。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ついたてや段ボールなどの仕切りや玄関などを用意するなどして、やりとりが生まれやすいような環境づくりをする。 簡単なやりとりをして保育者や友達とかかわることで、楽しさやおもしろさが味わえるような遊びを取り入れる（おいかけっこ、かくれんぼなど）。 「自分のもの」がはっきりしてきたり、「もっとほしい」という気持ちが強くなったりして、友達とぶつかり合うことがあるので、一人一人が十分に満足して遊べるように、玩具は同じものの数を十分に揃える。 進級に向けて、新しい保育室やトイレを見に行ったり使ったりする機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が一緒に楽しく遊びながら、子どもが真似をできるように動いたり声をかけたりする。また、「○○ちゃん楽しそうなことをしているね」などの声をかけ、周りに関心をもてるようにする。 簡単なやりとりのある遊びを取り入れ、一緒に遊びながら理解できるように分かりやすく伝える。また、一人一人楽しむ場面や状況が違うので、それぞれの楽しみ方に合わせていくことも大切にする。 一人一人の表現を温かく受け止め、相手に分かりやすい言葉で代弁したり伝え方を知らせたりする。 生活や遊びの中で「イヤ」という言葉と使うことが増えるが、自分のことを自分で決める「自我の充実」と捉え、自分のやりたいことが満たされるようにしていく。 身の回りのことを自分でできるようになった喜びに共感し、進級への期待につなげる。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> トイレットペーパーのホルダーからの取り方や長さ、紙の使い方などを丁寧に知らせたり、ちょうどよいサイズの紙を置いておいたりする。 手の洗い方やうがいの仕方に関心をもてるように、手順などの絵表示を子どもの目の高さに貼っておく。 外で遊んだ後、着替えをしたり冷えた手を暖めたりするために、部屋を暖かくしておき、湯や温めたタオルも用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 鼻汁の拭き方、かみ方を知らせ、かんだ後の心地よさを知らせていく。 保育者も一緒に行いながら、丁寧な手洗い、うがいの仕方を知らせていく。 個人差に配慮しながら、楽しい雰囲気の中での食事になるように配慮する。 活動を自分で調整することができにくいので、子どもの体調や様子を見て、戸外での遊びが長時間にならないように配慮する。 「そーっと、そーっと」「速いぞ、待てー」などの言葉をかけながらおいかけなどして遊ぶことで、動きと言葉をつなげ、子どもの中に様々な動きの違いが認識されるようにする。
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <p>◆手・腕の力 うるとらまん</p> <p>◆足の力 へびをピョン バックオーライ</p> <p>◆その他感覚 ひざに立てるかな</p>		

《参考》 0歳児～2歳児の発達過程

発達過程に応じた保育として「3歳児未満児」については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態などに即して、個別的な計画を作成することが求められていることから、保育園や認定こども園において、3歳児未満児の個別的な計画を作成する際に参考となるよう、0歳児から2歳児の発達過程を例示しました。

0歳児(新生児～56日頃)

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌のよい時に、周囲に反応したり、体の動きに伴って「アアー」「ウーウー」などの喃語が表れたりする。 ・明るい光や音がする方に反応を示す。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・あやされると、機嫌よく笑ったり声を出したりする。 ・大人に抱かれたり、受容されたりする心地よさを感じる。 ・大人にあやされて泣きやむ。 ・快（授乳後、目覚め、入浴後、あやされている時など）と不快（空腹、眠い、オムツが汚れている時など）の様々な感情を、泣くなどの行動や表情で表す。 ・抱かれて泣きやんだり、安心した表情になったりする。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳やミルクを飲む時や排泄時以外はほとんど眠っている。 ・母乳やミルクをよく飲む。 ・眠りに入るようなまどろんだ状態の時や浅い眠りの状態の時に、口角が上がってほほえむ（自発的微笑・生理的微笑）。 ・手を口にもっていき、なめる。 ・オムツを替える時や入浴時に手足を動かす。 ・哺乳びんを支えるような動きを見せる。 ・ものを持たされると、硬く握りしめる。 ・自然に寝ている姿勢は、顔をいずれか一方に向け、腕は肘で曲げてやや握った状態である。 ・目覚めている時は、両手を体の横に伸ばしたり、手足を盛んに動かしたりする。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・新生児の視野にものを差し出して動かすと、少し目で追う。 ・大人の顔など、目の前のものをじっと見つめる。 ・物音にびくっとしたり目を覚ましたりする。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- ・温度変化に弱く、体温の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、温度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚といった諸感覚や感受性が芽生えるため、様々な感覚に働きかけるようにする。
- ・身体的な欲求が満たされるとともに、温かな働きかけで満足感や安心感を味わえるようにする。
- ・新生児の動きや表情を読みとり、その子どものリズムやテンポに合わせて会話を楽しむようなつもりで働きかける。その際、正面からかかわるようにする。
- ・頭を支えるだけの筋肉や骨がまだ十分に育っていないので、体を水平にして首と頭を支えて抱くようにし、足も股関節脱臼しないように、股から手を入れてお尻を支えて抱く。
- ・乳児突然死症候群（SIDS）のリスクを防ぐため、仰向けの姿勢で子どもを眠らせるようにし、一定の間隔で寝ている姿勢を確認する。また、柔らかいまくらや重い毛布など、呼吸を妨げるようなものは使用しないようにする。
- ・皮膚を乾いた状態に保つため、オムツを頻繁に取り替えたり、授乳やよだれによる口の周りの汚れをこまめに拭き取ったりする。

【家庭との連携】

- ・育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い支える。
- ・様々な理由で泣き、温かく対応してもらうことで愛着が育ち、コミュニケーションにつながっていくことを伝える。また、生理的な欲求を満たすとともに、声をかけたりスキンシップをしたりするなどの対応の仕方や大切さを知らせていく。
- ・乳児突然死症候群（SIDS）の予防など、この時期に気を付けることを知らせる。

0歳児(57日頃～3か月頃)

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機嫌のよい時に鼻から出ていた音声が喉からも出るようになり、「アウー」「ウー」などの発声が聞かれる(喃語の始まり『クーイング』)。 ・ 光(明るい光、優しい光など)に反応する。 ・ 周りの大人を意識したような泣き方をする。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不快感が芽生え、空腹になったりオムツが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・ 抱かれて泣きやんだり、安心した表情になったりする。 ・ 音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・ あやしたり声をかけられたりするとよく笑う。 ・ 授乳の合間や保育者に抱かれている時に、自分から目を見つめ、機嫌がよいと声を出してくる。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。 ・ よく眠っているように見えても脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。 ・ 舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・ 手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。 ・ 首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・ 仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合やすなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・ 手と手、手と口の協応ができ始める。 ・ うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・ 引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・ 周囲の動くものを目で追う。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- ・ 温度変化に弱く、体温の失調(発熱、低体温)や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、温度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・ 保育者の愛情豊かな受容によって情緒が安定していく時期なので、担当の保育者を決めて愛着関係を育むとともに、一人一人の生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・ 病気に対する防衛機能が未発達なので、衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・ 一人一人の授乳時間や間隔を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・ 自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・ 手に握るものは、手のひら全体に入るものがよく、親指が開いてきたら、握り玩具を持たせる。また、手のひらを時々撫でたり押したりして刺激を与える。
- ・ 2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

【家庭との連携】

- ・ 連絡帳のやりとりやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・ 家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排泄、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいので、一人一人に合わせて哺乳瓶の乳首のサイズなどを保護者と確認していく。
- ・ 首がすわる前の乳児は、頭を支えるだけの筋肉や骨がまだ十分育っていないので、水平にして首と頭を支えて抱くように知らせていく(縦抱きを続けると、体に「反り」や硬さが現われる)。
- ・ この時期の「泣き」は、乳児の思いの訴えであることを伝え、その子がどうしてほしいのかまずはその子の気持ちになって考え、優しく語りかけてみるよう伝える。また、保護者の不安な気持ちを十分受け止めていく。

0歳児(3か月頃～6か月頃)

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。 ・首がすわり、手足の動きが活発になり、玩具を見せると手を伸ばして握ろうとする。 ・泣き方に表情が出てき、眠い時はぐずり泣き、お腹がすいた時は怒ったように泣き、人を求めて甘え泣きもする。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。 ・目の色が変わり始め、「見つけた」という表情が出てくる。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・胃の入り口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する（目安は授乳リズムが3時間半から4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃）。 ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っている時と目覚めている時がはっきりと分かれ、昼夜の区別がつき始めてリズムが定まってくる。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使うものは個別にし、使ったらその都度清潔にしておく。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働きかけなどを通して、子どもの情緒の安定や人との心地よいかかわり、周囲への関心を育んでいく。
- ・機嫌のよい時（授乳後30分以内は避ける）やオムツを替える時に、声（子どもの喃語への反復）、まなざし、笑顔での働きかけなどを通して体に優しく触れ、その感触を心地よいと感じさせるとともに、愛着関係を深めていく。
- ・日中の1回の眠りが短くなったり浅くなったりするので、個人差に応じてできるだけ芯から眠くなった時に睡眠がとれるようにする。また、目覚めている時には、上下に分かれた服装にし、手足が外気に触れ活発に体を動かせるようにする。
- ・親指の開きは、体全体の随意（思ったように動く）運動の獲得の目安となる。5か月から6か月には、両手ともにモミジのように手が開いていることが重要である。
- ・感覚や運動の面について、まずは「仰向け」、次に「支え座り」での発達観察を行い、首のすわりや左右へ動くものへの追視について観察をする。膝の上で「支え座り」した時、左右両方のものを見ることができるとともに、左右の脳の発達が同水準になっているかの判断につながる。またうつぶせにさせた後、保育者は子どもの正面にまわって、音のする玩具を使ってあやし、注視がしっかりできているかなども観察するようにする。
- ・体が柔らかくて、4か月になってもうつぶせの姿勢がなかなかとりにくい、頭が上がりにくいなどの場合は、発達的な課題を考えていく必要がある。

【家庭との連携】

- ・昼は起きて明るところで生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子どもの手の届くところに危険なものは置かない、子どもは大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きている時には応答的にかかわる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子どもの動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。
- ・あやしたり、話しかけたりすると笑いや喃語を促すことを知らせ、玩具やわらべ歌などの紹介をして、家庭での遊び方を伝える。

0歳児（6か月頃～9か月頃）

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・箱や引き出しの中のものをつ引っ張り出して遊ぶ。 ・言われていることを少しずつ理解できるようになってくる。 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の口元を見て真似る。 ・自分のほしいものがある時、そのことを視線や発声や表情で伝える。 ・戸外に出ることを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を揺らす。 ・周囲のものを触ってみたり口に持っていったりする。 ・様々なものに触れて、いろいろな感触を経験する。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・人の真似が上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・名前を呼ばれたら応じようとしていたり、知っている人に抱いてもらったりしようとする。 ・イヤイヤ、バイバイなどの動作をする。 ・要求があると声を上げる。 ・人見知りをしたり、後追いをしたりする。 ・人の動きを目で追う様子がある。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が手を添えるとコップを持って飲む。 ・保育者の膝で支え座りをしてもらったり、椅子に座ったりして食べようとする。 ・上顎と舌を使ってつぶして食べようとする。 ・保育者にオムツを交換してもらったり、手や顔などを拭いてもらったりして心地よさを感じる。 ・午前と午後、だいたい同じ時間に寝起きをするようになる。 ・うつ伏せの状態でも背中を反らして手足を上げる（グライダーポーズ）。 ・うつ伏せの状態でも爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する（ピボットターン）。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寝返り、ハイハイ、お座りなど活発に動くようになる。 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・手でものをつかんだり、手を打ち合わせたりする。

【発達及び援助のポイント】

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどの活動を十分にできるようにする。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・左右のものを見比べた時などに、ものを見るだけでなく、その後に保育者を見るという行動が現れる。保育者は子どもの正面に座り、子どもと目を合わせながら、見たものや感じたことを言葉にしながらかかわるようにする。
- ・人見知りや後追いをする時期であり、特に「8か月不安」の時期は、子どもが不安感を表現した時には、抱きしめるなどして温かく受け止め、安心して過ごせるようにする。
- ・食事については、スプーンを下唇の上に半分のせ、自ら上唇で食べ物を取り込めるようにする。「モグモグ」と保育者の口の動きを見せたり、食品を知らせたりして、食べようとする気持ちを高めていく。また、食事に対する意欲が徐々に見られるようになってきたら、手に持てるものは持たせるようにする。
- ・1日の睡眠のリズムが整っていくように、午睡が長すぎないように調整したり、日中は戸外に出て外気浴をしたりして、心地よい眠りを誘うようにする。
- ・6か月から7か月の発達においては、中脳、間脳及び小脳の神経ネットワークの形成が進むことにより、左右どちらへも寝返りができる。また、ものを取って左右どちらの手からでも持ち替えができる。椅子や座位にすると人見知りが和らぐなど、体を支えようとするのが気持ちの立ち直りにつながる。

【家庭との連携】

- ・うつ伏せ状態でつま先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に回転するという行動をたくさんすることが、その後のハイハイや歩行に向けて重要になることを伝える。
- ・衛生、安全面に気を付け、子どもが十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、飲み込みや舌で潰すなどの一つ一つの段階が十分できているかを確認し合い、焦らずゆったりと進められるようする。また、アレルギー反応などがなければ確認してもらいながら食材を増やしていく。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。後追いや夜泣きが愛着の力の形成を示す発達の過程の大切な特徴であることを知らせ、保護者が安心して子どもとかわかれよう支援する。

0歳児（9か月頃～12か月頃）

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いないいないばあ」をして、見えなくなった保育者が出てくることが分かり期待する。 ・ 自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・ 「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・ 要求したり援助を求めたりする時に、周りの関心を引こうとして、手差しや指差しをして発語する。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容器のものを出す、容器にもものを入れる、かぶせる、のせる、合わせるなどをするようになる。 ・ 鏡の中に自分の鏡像を発見し、他人を鏡の中に探し始めるなど、自他の区別をする力が芽生える。 ・ ものを布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・ 高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・ 保育者の言葉を少しずつ理解する。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・ 保育者から「ちょうだい」と求められると、ものを渡そうとする。 ・ ものを打ち合わせたり積んだりする。 ・ 他の子どもが持っているものに手を出したり、相手にものを渡したりする。 ・ イヤイヤをしたりバイバイをしたりする。 ・ 褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりようになる。 ・ 保育者の言葉を理解し、「ありがとうは？」と促されると頭を下げるなど、要求された行動をしようとする。 ・ 名前を呼ばれると応じる様子がある。 ・ つくり笑いや愛想笑いをする。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舌を左右に動かして歯茎で咀嚼する。 ・ 手づかみで食べようとする。 ・ 前歯で食いちぎって食べようとする。 ・ コップを両手で持ってすすり飲みをする。 ・ 保育者がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・ 起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・ つかまり立ちをしたり、つたい歩きをしたりする。 ・ 手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・ 意図的にものを投げたり置いたりする。 ・ 両手でものを持ち、手渡す。 ・ ハイハイや高ばいで階段の上り下りをする。 ・ 臥位、座位、四つばい、つかまり立ち、つたい歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。 ・ 玩具のラッパを吹いて音を出すなど、吹く力がついてくる。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- ・ つまむ、叩く、引っ張る、出し入れする、くぐる、乗り越える、よじ登るなど、手、指、足腰を使った探索を十分に楽しめるようにする。
- ・ 自分の意思をもち始め、自分でやりたがる時期なので、子どもの主張を丁寧に受け止めるようにする。
- ・ 保育者が子どもの発見（手差し、指差しなど）を言葉で意味付けしたり、遊びや生活の中で子どもの「できた」喜びと一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・ 食べることへの関心が高くなる時期なので、保育者が先回りをせず、食べたいものへの指差しなど子どもからの要求を待つようにする。また、手づかみで食べようとする子も多いが、まだ量やスピードの調整ができないので、取り皿を用意し、食べられる量を取り分けて自分で食べようとする意欲をもてるようにする。
- ・ はう運動が十分でない子どもには、歩かせることを急がず、ハイハイの経験を多く重ねていけるようにする。
- ・ 保育者との間で1つの遊具などを共有し、保育者の指差し方を見たり、自らも指差しをして示すなど、気持ちの共有や共感が見られるかどうかを観察する（三項関係）。
- ・ 10か月から11か月頃の姿勢や運動面において、ずりばいを始めて1か月がたっても、片方の腕や足だけでこいだり、片方の手のみを使って遊ぶなど、体や手指に機能的な片寄りや歪みがないかを観察するようにする。

【家庭との連携】

- ・ つかまり立ちやつたい歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、家庭においても危険な環境がないかを点検するようにお願いするなど、危険のないように注意するように伝える。
- ・ 離乳食が後期食に移行する時に、家庭と連携して、早寝早起き、朝食・夕食を食べる生活リズムが親子でつくれるよう、保育園での午睡時間を見直ししながら援助する。
- ・ 咀嚼能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど、家庭での食事について具体的な方法を知らせる。
- ・ ハイハイが十分ではない子どもには歩かせることを急がず、ハイハイの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・ 動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。
- ・ 大泉門が開いていることの重要性を伝え、大泉門が閉じる前に髪の毛を結ぶのは、脳の成長を妨げることになることを知らせる（注：10か月（最大）から1歳半頃までには閉じる）。

1歳児(1歳頃～1歳3か月頃)

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2個の積み木を積む、小さいものを拾って穴に入れるなど、目と手を協応させた細かい動きができるようになってくる。 ・ 小さな虫を見つけると触ってみようとする。 ・ 型落としができるようになってくる。 ・ ものを出したり、入れたりすることを喜ぶ。 ・ 簡単な言葉と動作が結びつくようになる。 ・ 音楽に合わせて体を動かす。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ ものを介しての保育者とのやりとりを、保育者の反応を楽しみながら何度も繰り返す。 ・ いつも一緒にいてくれる保育者に甘えたり、思い通りにならないと泣いて助けを求めたりする。 ・ 保育者のすることに興味をもったり、真似をしようとしたりする。 ・ ほしいものがあると、「ちょうだい」と仕草や言葉で伝えようとする。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼寝は1日1回となる。 ・ 完了食になる。 ・ 親指と人差し指(中指)を使って、手つまみで自分で食べようとする。 ・ こぼすことも多いがコップを待って飲めるようになる。 ・ 衣服の着替えの時、手足を入れようとする。 ・ つかまり立ち、つたい歩き、ハイハイで階段の上り下りをする。 ・ 一人で床から立てるようになり、何度も繰り返す。 ・ バランスを保っている状態から、自分で1歩を踏み出してみたり、両手を上げて2、3歩歩いたりする。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- ・ 空腹を感じて食事をしたり、眠くなって昼寝をしたりするなど、欲求が満たされて満足することの実感を重ねられるように、子ども一人一人の状態を把握して対応する。
- ・ 一人遊びがじっくりと楽しめるような空間や玩具を用意しておく。
- ・ 言葉や動作を子どもが模範しやすいようにゆっくりと大きく表すようにし、子どもの言葉に丁寧に対応していく。
- ・ ままごとなど、簡単な言葉や動作のやりとりののできる遊びを、十分に取り入れていく。
- ・ くすぐり遊び歌、ゆさぶり歌、わらべ歌など、子どもがリズムや言葉の繰り返しを感じて楽しめるような歌を歌い、聞かせていく。

【家庭との連携】

- ・ つたい歩きや一人歩きを始めるので、転倒に気を付けながら、動く楽しさや探索する楽しさを十分に味わうことの大切さを伝える。
- ・ 離乳食への移行の際は、卵など初めて食べる食材は家庭で試してもらって状況を伝えてもらうとともに、咀嚼や飲み込みの状態を確認しながら完了食へ移行していく。
- ・ 空腹を感じて催促するなど、欲求を表すことの大切さを伝え、大人が先回りしすぎずに待ち、子どもが自分の意思を表す機会を大切にもらえるようにする。
- ・ 睡眠時間や食事の時間、食べた量などを家庭と連絡し合い、安定したリズムで生活できるようにしていく。

1歳児(1歳3か月頃～1歳6か月頃)

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害物をよけて回り込んだり方向転換したりして、行きたい場所に行くことができる。 ・ 歩行が安定し、行動範囲とともに興味が広がり、探索活動が盛んになる。 ・ ティッシュペーパーの箱の中に入っているものを全部出すことを楽しむ。 ・ 積木を3個以上積む。 ・ ものの名前を覚え、片言が盛んになる。 ・ 自分の名前や保育者の名前が分かってくる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの絵の中から「ウサギ」「リンゴ」など聞かれたものを探し、見つけ出す。 ・ お気に入りの絵本やお気に入りのページを何度も読んでほしい。 ・ 保育者の真似をしながら、よく聞く歌と一緒に歌う。 ・ 歌に合わせて手をたたいたり、太鼓や鈴など音の出る玩具を鳴らしたりする。
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人形をトントンとしながら寝かせる、おんぶをする、食べさせる真似をするなどして遊ぶ。 ・ ままごとをして食べる真似をしたり、保育者に食べさせようとしたりする。 ・ 保育者と一緒に触れ合い遊びをすることを喜ぶ。 ・ 自分の要求を簡単な言葉や指差し、仕草などで伝えようとする。 ・ 自分の思い通りにならなかったり、自分のほしい玩具を他の子どもが使っていたりした時に、かみついたり、ひっかいたりすることがある。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・ いけないことをして注意されると、泣いたりしょぼんしたりする。 ・ 泣いている子どもがいると顔をのぞきこんだり、頭をなでたりする。
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ スプーンを上手から持って自分で食べようとする。 ・ 好きな食べ物、嫌いな食べ物が出てくる。 ・ 両手でコップを持ち、飲む量を調整しながらほとんどこぼさずに飲む。 ・ オムツではあるが、排泄した後で動作や表情で知らせることがある。 ・ 衣類の着替えの時、ボタンを外してもらおうと自分で脱ごうとする。 ・ 片手に器を持ち、もう一方の手でものを器に入れるなど、左右の手を協応させて使うことができる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行が安定し、歩くことが楽しくなる。 ・ ソファなど少し高いところによじ登る。 ・ 階段を手すりにつかまって足踏み式で上る。 ・ 滑り台をよじ登ってうつぶせで滑る。

【発達及び援助のポイント】

- ・ 保育者に自分の気持ちを安心して表し、受け止められる心地よさを感じられるようにする。
- ・ 子どもが自由に探索活動を楽しめるようにし、一人一人の欲求が十分に満足できるようにする。また戸外では、土、砂、石、水、木の葉、虫などの自然物に触れ、諸感覚を十分に働かせる経験を重ねていく。
- ・ 押す、引っ張る、転がるなどの全身運動や、つまむ、ちぎる、たたく、握るなどの手を使う遊びを十分に経験させていく。

【家庭との連携】

- ・ 行動範囲の広がりとともに、探索活動が盛んになる時期であることやその意味を伝え、安全には十分に配慮しながら子どもの興味や関心を見守り、子どもの発見に共感していくことの大切さを伝えていく。
- ・ 子どもと一緒に楽しく食事をする中で、興味をもたせたり食べ方を見せたりすることの大切さを知らせる。その際、家庭や子どもの状況に応じて無理なく進められるように支えていく。

1歳児（1歳6か月頃～1歳9か月頃）

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 積木を自動車や電車に見立てて遊ぶ。 カップに砂を入れたり出したりして遊ぶ。 発語が盛んになる。 保育者の言葉を聞いて、ところどころ繰り返したり、言葉の語尾を真似たりする。 保育者の簡単な声かけや指示が分かるようになる。 フックにものを掛けたり外したりする。 自分の手に合った容器のふたの開閉をしようとする。 絵本のページを一枚ずつめくる。 粘土をちぎったり丸めたりする。 左右に大きく手を動かし、線を描いたり、紙いっぱいにごるぐると描いたりしようとする。 水に触れることを喜ぶ。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者を相手に「どうぞ」「ありがとう」などのやりとりをする。 名前を呼ばれると「はい」と応える。 ほしいものがあると「ちょうだい」と言って、保育者にもらいに来る。 「待っててね」と言われると、少しの間待つようになる。 遊んだ後の玩具を保育者と一緒に決まった場所に片付ける。 自分でできない時は、指を差したり助けを求めたりして保育者に伝えようとする。 友達が同じような玩具を使っていると取り合いになることもある。 自分のものや友達のをよく覚えていて、区別がつくようになってくる。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> こぼすなどはするが、スプーンを使って自分で食べようとする。 排尿した時に表情や仕草で知らせたり、「チーチー」と言葉で言ったりする。 ボールを両手で持って投げたり転がしたりして遊ぶ。 歩き方が速くなり、歩行で転倒が少なくなる。 後ずさりで歩く。 股のぞきができるようになる。 くぐったりまたいだりして遊ぶ。 滑り台を滑る。 水道の蛇口をひねる。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- 保育者に甘えたり、言葉やもののやりとりをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。
- 周囲のものに関心もち、いろいろなものに触れて遊びたがる時期である。安全への対応を十分に行った上で、子どもの行動をむやみに禁止せず、動きや探索の体験を見守っていく。また、全身を使って遊ぶ経験ができるようにする。
- 一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場所やもの、時間の保障をする。

【家庭との連携】

- 規則正しい食事と睡眠は、子どもの心と体の成長にとっても大切であるため、整った生活リズムで過ごしていけるよう伝えていく。
- オムツが濡れていない時はトイレに誘い、便器に座ってみたり、排尿したりする経験を少しずつ重ねていけるように伝える。
- 好奇心旺盛で何でもやってみたい時期なので、目を離さず、身の回りの安全に十分気を配っていくことを伝える。

1歳児（1歳9か月頃～2歳頃）

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・物事への興味が高まり、何でも自分でやってみようとする。 ・身の回りのものに名前がついていることが分かってくる。 ・ものを容器に集める。 ・小さな積木を積む（8個程度）。 ・積み木を並べ始める。 ・衣服の着脱に興味をもち始める（ボタン、スナップ、ファスナー、靴下など）。 ・保育者の言ったことや言葉の調子をそのまま真似ようとする。 ・語彙が増え、二語文を話すようになる。 ・保育者や友達の名前を言うようになる。 ・ぐるぐると丸を描いたり、曲がるが縦線を描こうとしたりする。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者においかげられるのを好み、後ろを振り返りながら喜んで逃げる。 ・子ども同士で手をつないだり、つながれたりする。 ・友達の仕草や行動を真似て、同じように楽しもうとする。 ・保育者の促しに「イヤ」「ダメ」と拒否をするようになる。 【自我の芽生え】 ・友達の持ち物が分かり、帽子や靴などをその子に手渡そうとする。 ・自分の意思をはっきりと示すようになり、ものの取り合いなどが生じるようになる。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・こぼしながらも下手からスプーンを持って自分で食べようとする。 ・1回の排泄量が多くなる。 ・一定時間昼寝をする。 ・歩行が安定し、長い距離を喜んで歩く。 ・その場で跳ぶことができる。 ・手すりや横の壁につかまりながら一段ずつ、時には足を交互に出して階段を上る。 ・斜面や段差の上り下りをする。 ・しゃがんで遊ぶ。 ・ボールを蹴る。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- ・手、足、全身の運動機能の発達を見極め、斜面や段差を上る、でこぼこ道を歩くなど、一人一人に合った運動遊びが経験できるようにする。
- ・この時期は、新しい場面や取り組みに対して慎重になることが多くなり、特定の玩具やタオルなど「心の杖」「よりどころ」にあたるものを持つことがある。その場合は、こだわりと判断して無理に離させるのではなく、日々の生活が落ち着いていく中で自然にいらなくなるまで待つようにし、その過程に心を配り見守っていくようにする。
- ・自分の思い通りにいかないと泣く、拒否する、かみつくなど、感情的に混乱する場面が多い時期である。言葉だけで言い聞かせるよりも、子どもの気持ちを全面に受容し、受け止められている安心感をもたせ、情緒の安定を図るようにする。
- ・指差しや身振り、片言で伝えようとしていることを受け止めて言葉にして返し、子どもが気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じられるようにする

【家庭との連携】

- ・子どもの成長の表れとして拒否の言葉が多くなるが、子ども自身が選んで決められるように、「どうしたいの」「どっちがいいの」など大人の提案を投げかけ、待つことも方法の1つであるなど、具体的な対応の方法を伝えていく。
- ・片言の話に応答したり会話をしたりすることが、言葉の獲得や気持ちのつながりになっていくことの大切さを伝える。

2歳児(2歳頃～2歳6か月頃)

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・積木や簡単なブロックなどを組み合わせたり、いろいろな形をつくり出したりして、何かに見立てて遊ぶ。 ・「手を洗ったら、おやつだよ」などの2つの関係が分かるようになる。 ・お気に入りの絵本を、自分で読んでいるように一人でしゃべりながら見る。 ・「かっこいい」「きれいね」など感じたことを言葉で表すようになる。 ・「おはよう」「さようなら」など、生活に必要なあいさつをするようになる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆やクレヨンでぐるぐると曲線を描く。 ・好きな歌を覚えて歌う。 ・保育者や友達と簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者がリズムに合わせて踊ると、手をたたき、リズムに合わせて手足を動かすなど、一緒に楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージのままごと遊びを楽しんだり、大人のつもりになって人形やぬいぐるみを抱っこしたりする。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・おいかけたりおいかけられたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・いつも一緒に遊んでいる友達のことを名前で呼ぶ。 ・自分のしたいことやしてほしいこと、伝えたいことを言葉で表現するようになる。 ・自分本位の行動が目立ち、思い通りにならない時はかんしゃくを起こしたり、頑固な態度をとったりする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを「自分で」と言ってやりたがる。 ・決められたところへものを出したり入れたりする。 ・「もっと～したい」という欲が大きくなる。 【自我の拡大】
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみが少なくなり、スプーンを使って食事ができるようになる。 ・排泄を言葉や仕草で知らせたり、促されて便器で排泄したりする。 ・ボールを使い、投げる、蹴る、おいかけるなどの遊びができるようになる。 ・走る、跳ぶなどの運動機能が伸びる。 ・階段を何にもつかまらずに、段ごとに両足をそろえて上り下りする。 ・運動遊具を使って登る、滑る、跳ぶなどを繰り返し楽しむ。 ・三輪車に乗り、両足で地面を蹴って進む。 ・指先を使う遊びに興味をもってやりたがる（ひも通し、洗濯ばさみで挟む、粘土や紙を丸めるなど）。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて体を動かし、踊ったり体操をしたりする。

【発達及び援助のポイント】

- ・全身運動が滑らかになり、動きが大きくなってくる時期である。遊びの広がりや子どもの動線を考慮しながら、遊具などを安全に配置し、体を動かすことを十分に楽しめるようにする。
- ・自分でできることが増えてきて何でも自分でやりたがるが、思い通りにできなったり、やらせてもらえなかったりするとかんしゃくを起こすこともある。子どもの気持ちを受け止め、そっと援助しながら、自立に向けて意欲を育てていく。できた時には「できたね」とその姿を認め、その子どもなりの満足感や達成感が味わえるようにしていく。
- ・なりきって遊べるような玩具の準備やコーナーの設定を工夫する。

【家庭との連携】

- ・二語文を話すようになり、おしゃべりが盛んになってくる。しかし、この時期は言語面でも個人差が大きく、まだあまりしゃべらない子どももいる。しゃべらなくても言葉をため込んでいる時期であるなど、個人差があることを伝えながら、どのように話しかけたりかかわったりしたらよいかを具体的に知らせていく。
- ・かんしゃくを起こしたり、何でもイヤイヤと泣いたりした時に、保護者も子どもとどうかかわったらよいかと悩むことが多くなる時期である。子どもの気持ちの揺れも成長の過程であることを知らせ、突き放すのではなく子ども自身が気持ちを立て直せるように代弁するなど、優しく見守って待つことの大切さを知らせていく。

2歳児(2歳6か月頃～3歳頃)

まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤、青、黄、緑などの色が分かる。 ・ 大きい小さい、長い短い、同じなどの区別がつき、言葉で表す。 ・ 形の違いが分かるようになり、簡単な絵合わせやパズルをする。 ・ 「これは」と何度も聞いたり、同じ絵本を「もう一回」と繰り返し読んでもらったりすることを好む。 ・ おしゃべりが盛んになり、自分のことを「Aちゃん、ママと〇〇いったの」などと保育者に話す。名詞の語彙が増える。 ・ 粘土を手のひらでべったんと押ししたり、細く伸ばしたりする。 ・ いろいろなものを袋に入れたり、布で包んだりする。 ・ クレヨンで描きながら、自分なりに「くるま」「かお」とイメージをもつようになる。
	言葉	
	創造	
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平行遊びだが、友達と一緒に少しの間遊ぶ。 ・ 誰かがふざけ始めると一緒になってふざける。 ・ 自己主張が強く、ものの取り合いになることが多いが、「いいよ」と貸せることもある。 【自我の充実】 ・ 友達の休みや様子などを気にかける。 ・ よいこと、悪いことが分かってくる。
	信頼	
	規範	
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下手から手をそろえてスプーンを持ち、スプーンやフォークを使い分けて食べるようになる。 ・ ほとんどこぼさずに食べられるようになる。 ・ 遊びに夢中になっているとおもらしをすることもあるが、尿意を知らせてトイレで排泄するようになる。 ・ 男児は立ち便器での排泄ができるようになる。 ・ 衣服の着脱に関心をもち、脱いだ服をたたもうとしたり、自分でボタンをかけた外したりする。友達と手をつないだり、誘導ロープを持って歩くことができるようになる。 ・ 三輪車やスクーターを片足ずつ交互に蹴って動かす。 ・ 平均台(高さ20cmくらい)を横歩きで渡ったり、30cmくらいの高さから跳び下りたりする。 ・ 鉄棒にぶら下がったり、ジャングルジムによじ登ったりする。
	運動	

【発達及び援助のポイント】

- ・ 排泄の自立は個人差があるため、一人一人の排尿間隔を確認し、タイミングをみながらトイレに誘っていく。いつまでも便器に座らせておくことはせず、「おしっこ出ると教えてね」と伝え、無理なく自分でできた喜びにつなげる。
- ・ 身の回りの様々なものに興味や関心が広がり、やってみたい、使ってみたいという欲求が出てくる時期である。保育者の見守りの中で十分に体験できるようにしていく。
- ・ 子どもの「イヤ」に対して、何が何でもさせようとしたり、「イヤ」を受け入れてそのままにしておくのではなく、落ち着いたのを待って、子どもに2つの選択肢を提示してその中から自分で自主選択をさせて子どもの思いを尊重していくようにする。

【家庭との連携】

- ・ 着替えも全部自分でやりたいと興味が出てくる時期である。子どもが自分で着替えやすく、できた嬉しさを感じられるよう、扱いやすいボタンやスナップの大きさや場所などを具体的に知らせていく。
- ・ 保護者が子どもにやって見せたり、今後子どもの様子に合わせて教えたりする時の参考になるよう、箸やスプーンなどの段階をおった持ち方や使い方、トイレトペーパーの切り方、たたみ方、拭き方など、必要な情報を伝えていく。
- ・ 基本的な生活習慣を身に付けていけるよう、家庭での方針を聞きながら、その子どもに応じた時期や方法を家庭と園で共に考えて進めていく。

3歳児新入児 I 期(4月～5月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者とのかかわりを基盤にして新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ・ 新しい環境の中で、好きなものや場所、やりたい遊びを見つけて遊ぼうとする。 ・ 身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒に行いながら、園での生活の仕方を知る。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭で経験したことがある遊具で好きな遊びを楽しむ。 ・ 飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や入園前から知っている友達とあいさつをする。 ・ 保育者にやりたいことを伝えようとする。 ・ 保育者の言葉がけに答えようとする。 ・ 見聞きしたものに好奇心をもち、「なぜ」や「どうして」と尋ねる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者が行う手遊びや歌、リズム遊びを喜び、真似をして一緒にしようとする。 ・ 身近にある遊具を使って、見立てたり、つもりになったりする。 ・ 保育者と一緒に、描いたり、切ったり、貼ったりして遊ぶことを楽しむ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友達と一緒に過ごす。 ・ お話を聞いたり、歌に合わせた手遊びやリズム遊びをしたりして、保育者や友達との触れ合い遊びを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者との触れ合いを通して、不安や欲求を受け止めてもらいながら、安心して生活や遊びを楽しむ。(事例19)
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで過ごすための必要な約束を知る。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園での生活の仕方や1日の流れを知る。 ・ 所持品の始末や身支度を保育者と一緒に行ったり、保育者の言葉がけでトイレに行ったりしながら、場所や使い方を知る。 ・ 保育者に手伝ってもらいながら、簡単な衣服の着脱をしようとする。 ・ 食事前や排泄後に手洗いをすることを知り、保育者と一緒にしようとする。 ・ 楽しい雰囲気の中で、園で食事することに慣れる。 ・ 交通ルールを知る。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者と一緒に戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・ 固定遊具での遊び方や遊具の使い方を知り、気に入ったもので遊ぶことを楽しむ。 ・ 保育者の真似をしたり、音楽に合わせてたりして、体を動かす。 ・ 速い、ゆっくり、止まるなどが分かり、自分で動きを調整して遊ぶ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園による喜びや不安を受け止め、園での様子を伝えるとともに、家庭での様子を聞き、子どもも保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。 ・ 自分で身の回りのことができるように、子どもが扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の安心する遊びや人や場所を見つけると、落ち着いて遊ぶ。 ・楽しいことをしてくれたり、困った時に助けってくれたりする保育者に親しみを持ち、保育者のしていることの真似をしたり、一緒に遊んだりすることを楽しむ。 ・保育者と一緒に、戸外に出ることを喜んだり、園庭の興味のある遊具で遊ぶことを楽しんだりする。 					
<p>まなびの力</p>	<p style="text-align: center;">環境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ ままごとや用具や車など、家庭でも親しんでいると思われる遊具や用具を十分用意しておく。また落ち着いて遊べるようにカーペットや畳を敷いて、家庭的な雰囲気をつくっていく。 □ 積木やブロックなどを目につきやすい場所に出しておいたり、ままごとコーナーをつくったりして、遊びかけの状態をつくり、遊び始めやすいようにしておく。 □ 興味をもって楽しめるように、家庭で馴染みのある歌や簡単な手遊びを準備し、視覚教材なども使っていく。 	<p style="text-align: center;">援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者がゆったりと遊びにかかわりながら、楽しい雰囲気をつくるとともに、遊びが見つけられずに不安そうしている子には、保育者が遊びに誘うなどして、気に入った遊びが見つけられるようにしていく。 ※ 興味があってもなかなか遊具などに手が出せない子もいるので、さりげなく遊具を近くに持っていったり、保育者から遊びに誘ったりしていく。 ※ 「なぜ」や「どうして」と子どもが疑問や不思議に思うことに共感するとともに、一緒に「どうしてだろうね」と考えていくようにする。また、正しい理由やしくみなどを知らせていきたい状況にある時は、子どもに理解できる範囲で説明していく。 ※ 歌や手遊びをする際は、子どもが参加しやすいように、楽しい表情やリズム、雰囲気になるようにする。 				
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 子どもが安心できるように、保育者同士で連携し、玄関で迎える、始末の手伝いをする、遊びに入るなど、保育の中での役割分担を決める。 □ 保育者とかかわったり触れ合ったりできるように、やりとりが楽しめる手遊びやリズム遊びを取り入れる。 □ 生活の様々な場面で、子どもとのスキンシップをとる機会をつくる。 □ 園の環境を再度丁寧に見直し、安全な生活が送れるようにする（危険箇所共通の絵表示を掲示する、遊ぶ範囲をプランターで仕切るなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 一人一人を笑顔で迎え、家庭での愛称で呼びかけたり、声をかけたり、スキンシップをもったりして、不安な気持ちを和らげるようにする。また、兄姉のところで過ごすことで安心する子もいるので、その姿も受け入れていくようにする。 ※ 保育者が笑顔で子どもにかかわり、言葉や動作でのやりとりを楽しむ中で、保育者に対して親しみの気持ちももてるようにしていく。 ※ 子ども一人一人の動きや表情を言葉に表したり、同じ動きを一緒にしたりすることで、子どもが保育者に受け入れられているという安心感ももてるようにする。 ※ 初めての集団生活であることを考慮し、様々な約束事を丁寧に知らせていく。特に安全についての約束などは、機会をとらえて繰り返し知らせていく。 				
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 自分なりに見通しをもつことで安心感につながったり、園生活のリズムに慣れたりできるように、毎日の生活の流れをできるだけ同じになるようにする。 □ 自分の場所が分かりやすいように、各自の目印（マーク）を大きめに見やすいところにつけておく。 □ 絵表示を貼るなどして、トイレが楽しく明るい場になるように工夫する。 □ 集まることが分かるように、椅子を並べるなどしていく。 □ 時間を十分に確保していくことで、戸外で遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 □ 安心して遊べるように、馴染みのある音楽を使ったり、身近な動物の真似を取り入れたりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 生活の中で不必要な待ち時間がないように、保育者同士が連携をして、次の活動の用意や子どもへの対応を行っていく。 ※ 保育者が見守ったり支えたりしていくことで、一人一人が所持品の始末や身支度などを安心して行えるようにする。特にトイレや食事などに関しては、家庭での経験の違いがあり、個人差も大きいので、一人一人に応じて励ましたり、誘ったり、認めたりして、自分でできたことへの自信につなげていくようにする。 ※ 子どもが興味をもった固定遊具や遊具で保育者も一緒に遊びながら、遊び方や使い方を見せたり、伝えたりしていく。 ※ 真似をしやすく、動くことの楽しさを感じられるように、保育者が分かりやすい大きな動作で動くようにするとともに、楽しい雰囲気をつくっていく。 				
<p style="text-align: center;">【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆ 支持力 いぬ・ねこ歩き</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆ 跳躍力 うさぎジャンプ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆ 懸垂力 へびさん</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆ その他感覚（逆さ感覚） 足トンネルのぞき</td> </tr> </table>			◆ 支持力 いぬ・ねこ歩き	◆ 跳躍力 うさぎジャンプ	◆ 懸垂力 へびさん	◆ その他感覚（逆さ感覚） 足トンネルのぞき
◆ 支持力 いぬ・ねこ歩き	◆ 跳躍力 うさぎジャンプ	◆ 懸垂力 へびさん	◆ その他感覚（逆さ感覚） 足トンネルのぞき			

3歳児進級児 I 期(4月～5月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者とのかかわりを基盤にして新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ・ 新しい環境の中で、気に入った場や遊具を見つけて遊ぶ。 ・ 身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒に行いながら、新しい環境での生活の仕方を知る。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい保育室での遊びや遊具に興味をもち、自分の気に入った場や遊具で繰り返し遊ぶ。 ・ 飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れて楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつや「入れて」「貸して」などの生活や遊びに必要な簡単な言葉が分かり、使ってみる。 ・ 楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを表情や動きに表したりする。 ・ 見聞きしたものに好奇心をもち、「なぜ」や「どうして」と尋ねる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなと一緒に歌ったり、手遊びやリズム遊びをしたりすることを楽しむ。 ・ 身の回りにあるものや遊具にかかわり、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。 ・ 保育者と一緒に、描いたり、切ったり、貼ったりして遊ぶことを楽しみ、できたものを「〇〇みたい」と見立てて遊ぶ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2歳時からの気の合う友達と一緒に遊ぶ。 ・ お話を聞いたり、歌に合わせた手遊びやリズム遊びをしたりして、保育者や友達との触れ合い遊びを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。 ・ 保育者や気の合う友達と、簡単な言葉のやりとりを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの園生活の中での約束を振り返り、気付きながら守ろうとする。 ・ 3歳児としての新たな約束やきまりがあることを知る。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳児の1日の生活の流れを知る。 ・ 所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方を知り、自分で行おうとする。 ・ 保育者に見守られながら、簡単な衣服の着脱をしようとする。 ・ 食事前や排泄後に手洗いをすることを知り、保育者と一緒に行おうとする。 ・ 楽しい食事の雰囲気の中で、箸などを使って食べる。 ・ 交通ルールを知り、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者と一緒に戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・ 2歳時に経験したおいかけっこや固定遊具で遊ぶことを楽しむ。 ・ 保育者の真似をしたり、音楽に合わせてたりして、体を動かす。 ・ 速い、ゆっくり、止まるなどが分かり、自分で動きを調整して遊ぶ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進級による喜びや不安を受け止め、園での様子を伝えるとともに、家庭での様子を聞き、子どもも保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。また、前年度の担任であった保育者との連携を密にして子どもに応じた保育を進めることを保護者に伝え、安心感をもってもらう。 ・ 自分で身の回りのことができるように、子どもが扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育室や遊具が嬉しく、自分のやりたいことや落ち着く場を見つけて遊ぶ。 ・新しい遊具などに興味をもち、一人または友達と場を共有しながら、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ・2歳時からの気の合う友達と一緒にいることで安心する。また、新しい友達にも興味をもつ。 ・新しい環境や生活に不安になることもあるが、保育者や友達と一緒にいることで安心する。 	
	<p>環境</p>	<p>援助</p>
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 2歳時に経験した遊びを準備するなどして、安心して遊べる環境を設定する。 □ 自分の使いたい遊具で十分遊べるようにする。数は多めに用意する。 □ 子どもの興味や関心を見ながら、遊具を取り出しやすいようにしたり、コーナーづくりをしたりしていく。 □ 歌や手遊びは、より楽しく興味をもてるように、視覚教材を使っていく。 □ 描いたり、つくったりする際に、見立てやすく扱いやすいものを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者や気の合う友達とのかかわりの中で、好きな遊びや今までに経験した遊びや遊具を選んで遊べるようにする。また、新しい環境になり不安定になる子も多いので、それぞれが自分が見つけた好きな遊びを十分に楽しめるように、保育者も一人一人の楽しみに寄り添うようにする。 ※ 子どもの思いや言葉をゆったりと聞き、自分の思いが伝わったことに安心感をもてるようにする。 ※ 「なぜ」や「どうして」と子どもが疑問や不思議に思うことに共感するとともに、一緒に「どうしてだろうね」と考えていくようにする。また、正しい理由やしくみなどを知らせていきたい状況にある時は、子どもに理解できる範囲で説明していく。 ※ 見立てたりやつもりになったりして嬉しい気持ちや楽しい気持ちを、保育者が共感していくようにする。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 気の合う友達と一緒に、こっそりと遊べるような場の保障をしていく。 □ 友達の持っているものに目がいきやすいので、同じ遊具や材料を多めに用意しておく。 □ 保育者とかかわったりや触れ合ったりできるように、やりとりが楽しめる手遊びやリズム遊びを取り入れる。 □ 3歳児（幼児組）の新たな約束について、視覚教材を使うなどして分かりやすく知らせていく。 □ 園内の環境を再度見直し、安全な生活が送れるようにする（危険個所に共通の絵表示を掲示する、遊ぶ範囲をプランターで仕切るなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者も一緒に遊びに入りながら、気の合う友達（2歳時の知っている友達など）と一緒に、楽しい雰囲気共有しながら遊べるようにする。 ※ 保育者が笑顔で子どもにかかわっていくことで、言葉や動作でのやりとりを楽しみ、保育者に対して親しみの気持ちをもてるようにしていく。 ※ 一人一人の進級した不安や甘えたい気持ちを受け止め、保育者に親しみの気持ちをもって、安心した生活を送れるようにする。また新しい友達にも、保育者が仲立ちしながら親しみをもてるようにする。 ※ 進級児が新入児にもこの場所など教えてあげる機会もつくりながら、進級したことに喜びをもてるようにする。 ※ 乳児組の時と変わったことについては、大きくなったことと関連づけながら、自分から約束を守ろうとする気持ちをもてるように支えていく。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 生活に慣れていけるよう、1日の流れをなるべく変えないようにしていく。 □ 安心して生活の場を使っていけるように、2歳時で馴染みのある絵表示なども使っていく。 □ 新しい環境の中、自分の場所が分かりやすいように、各自の目印（マーク）を大きめに見やすいところにつけていく。 □ 戸外で遊ぶ時間を十分に確保していくことで、楽しさを感じられるようにしていく。 □ 安心して遊べるように、今までに馴染みのある音楽や身近な動物の真似などを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 2歳時での経験や生活の流れを考慮し、それを引き継ぎつつ、新しい生活に慣れていけるようにする。 ※ 今までしていたことでも環境が変わってできなくなったり、不安になったりすることもあるので、一人一人丁寧に見ていき、できたことを認めていくことで、安心してできるようにする。 ※ 2歳時に経験のあるおいかげっこや固定遊具などで遊ぶことで、十分に体を動かし、開放感が味わえるようにする。 ※ 真似をしやすく、動くことの楽しさを感じられるように、保育者が分かりやすい大きな動作で動くようにするとともに、楽しい雰囲気をつくっていく。
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <p>◆支持力 いぬ・ねこ歩き</p> <p>◆跳躍力 うさぎジャンプ</p> <p>◆懸垂力 へびさん</p> <p>◆その他感覚（逆さ感覚） 足トンネルのぞき</p>		

3歳児新入児 Ⅱ期(6月～8月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境や様々な活動に興味や関心をもち、かかわって遊ぼうとする。 保育者や近くにいる友達と触れ合い、一緒に過ごす楽しさを感じる。 身の回りのことや自分でできることを、保育者と共にやってみようとする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場を見つけて、おもしろいと感じたことを繰り返し遊ぶ。 (事例7) 身近な動植物を見たり触れたりしながら、親しみをもつ。 砂や水などを使って遊び、感触を楽しむ。 色や形、長短などに、興味や関心をもって遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達に親しみをもち、あいさつを交わしたり、思ったことを話したりする。 保育者が話す言葉を聞いて、「入れて」「貸して」などの遊びに必要な言葉を知る。 楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や態度に表したりする。 保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるいろいろな素材にかかわり、感触を味わう、見立てる、つくるなどして遊ぶ。 保育者と一緒にままごとやごっこ遊びを喜び、つもりになって楽しむ。 歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の動きの真似をしたり、友達と同じように遊んだりすることを喜ぶ。 保育者やクラスの友達と一緒に動いたり、誕生会や季節行事などの集会に参加したりして楽しむ。 保育者や友達と遊ぶ中で、簡単な遊びのルールがあることを知っていく。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、自分の思いを態度や言葉で保育者に伝えようとする。 保育者や友達と簡単なやりとりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 友達とかかわって遊ぶ中で、保育者の仲立ちを通して、相手に自分とは違う思いがあることを知る。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活や友達とのかかわりの中で、よいことと悪いことに気付く。 みんなで過ごすための必要な約束を知る。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 1日の生活の仕方や流れが分かり、安心して生活する。 所持品の始末や衣服の着脱、排泄、片付けなどの仕方を知り、保育者に見守られながら、自分でしようとする。 汚れたり濡れたりしたら気持ちが悪く感じ、自分で着替えてみようとする。 食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることは自分でやってみようとしたり、できないことは保育者に手伝ってもらって一緒にやったりしようとする。 保育者や友達と一緒に食べることを喜ぶ。 箸を持ち、自分で食べようとする。 水遊びの約束があることを知り、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で遊ぶことを喜び、心地よさを感じる。 保育者と一緒においかっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりすることで、体を動かす。 (事例31) 水の気持ちよさを感じながら、全身を動かして遊ぶことを楽しむ。 動物や乗り物などの真似をして、走る、跳ぶ、はう、しゃがむなどの動きを楽しむ。 保育者の真似をして、後ろ歩き、片足立ち、ケンケンなど、いろいろな動きをやってみようとする。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が保育に参加する機会をつくり、参加を通して子どもの姿を知ったり、保護者同士のかかわりを深めたりして、園の保育に関心をもてるようにする。 排便後の始末(トイレトペーパーの使い方や拭き方など)について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。 箸の持ち方について、絵本や便りなどを活用して、正しい持ち方が身に付くように家庭と連携していく。 夏に流行しやすい感染症や皮膚疾患について知らせ、感染予防や健康管理について協力してもらう。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分が安心してかかわれる場やものを見つけ、それを抛りどころにして遊んでいこうとする。 砂や水などに触れることを喜び、全身で感触を楽しみ、開放感を味わう。 気に入った友達が見つかり、同じ場所で過ごしたり、同じように動いたりするおもしろさを感じる。また、保育者に対して、「自分の先生」ということが分かり、安心して自分の思いを表現する。 排泄や衣服の着脱や始末、食事など生活に必要なことを保育者に声をかけてもらったり、手伝ってもらったりしながら、少しずつ自分でやってみようとする。 							
<p>まなびの力</p>	<p style="text-align: center;">環境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 子どもが落ち着いて遊んでいけるように、場や時間を保障していく。 □ 自分からやってみたい遊びに取り組めるように、子どもが興味をもっている用具、材料などを必要に応じて用意する。 □ あらかじめ池や山などをつくって遊びやすくしておくことで、砂や水に興味をもてるようにしておく。また、十分に感触を味わって遊べるような時間も確保していく。 □ 色や形に興味をもてるような環境を整えていく（七夕飾りつくりやスタンプ遊びなど）。 □ いろいろな素材に触れ、感触を味わえるように、扱いやすく、見立てやすいようなものや素材を用意していく。 	<p style="text-align: center;">援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 自分の安心できる場所で過ごすことの心地よさに共感していく。また、一緒に動きながら必要なものを出したり、場を広げたりして、十分に遊べるようにしていく。 ※ 保育者も一緒に遊びながら、砂や水の感触の気持ちよさに共感していく。また、流れたり固まったりするおもしろさや不思議さなどにも気付けるようにしていく。 ※ 子どもの表現を認めながら、名称、色、形の認識につながるようにかかわっていく。 ※ 「入れて」「貸して」などの友達とかかわる言葉があることを知らせていくために、保育者が遊びの中で必要な言葉を使っていく。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 友達や保育者の遊びにも関心をもてるように、お互いの遊びが見通せるような場をつくるなどする。 □ 保育者や友達と場を共有して遊ぶことに楽しさが感じられるように、数人で集まれるような広さを確保し、テーブルや囲いなども用意する。また、一人でじっくり遊びたい子もいるので、静かに落ち着いて遊べる場もつくっておく。 □ 保育者や友達が持っているものと同じものを持つことで楽しさを感じられるように、要求してきた時には、その思いがかなえられるように用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 友達と触れ合ったり、一緒にいたり、遊んだりしている時、その嬉しさや楽しさを受け止め、言葉や表情などで伝えていく。 ※ 一人一人が楽しんでいることを受け止めつつ、それぞれの様子や気持ちを保育者が言葉にしていくことで、場を共有して遊んでいる友達がしていることにも興味をもてるようにする。 ※トラブルが起こった時は、お互いの気持ちを十分に受け止めた上で、気分転換をさせたり、相手の思いも少しずつ伝えたりしていく。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 遊びの後の身の回りの始末に個人差が出てくるので、早くできた子どもが安心して待つことができるような場や保育者の配置を考えていく。 □ 着替えが増える時期なので、自分でも着替えができるように、場と時間を十分にとる。 □ 箸を使うことが苦手な子や指先の力が弱い子に対しては、遊びの中で指先を使った遊び（つまむ、ねじる、握るなど）を取り入れていく。 □ 暑さなどで疲れが出やすい時期なので、休息や水分のとれる場や静かに遊べる場をつくっていく。戸外にはパラソルなどで日陰をつくるなど、熱中症対策を整える。 □ 水遊びの手順や危険なことについて、分かりやすいように絵表示などの視覚教材を用意する。 □ プールの水量は深くないようにする。また、水遊びに使う玩具は清潔に保つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 子ども一人一人の様子を見逃さずにトイレへ促していく。また、「おしっこに行ってくる」などの子どもの言葉に同意したり、一緒に行ったりして、安心してトイレに行けるようにする。 ※ 自分でできたところは十分に認め、必要なところは保育者が手を貸すなどしながら、「自分で着替えができた」という喜びに共感していく。 ※ まずは箸を使って食べたいという気持ちを育てていくようにする。また、指先を使った遊びにも誘いかけ、楽しみながら手指の発達を促していく。 ※ 遊びに夢中になると、休息をとらずに遊び続けることがあるので、保育者が時間や様子を見て、声をかけていくようにする。 ※ プールや水遊びでの必要なことや約束について、なぜ必要なのか、なぜしてはいけないのかを絵表示などで示して、丁寧に伝える。 						
<p style="text-align: center;">【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆支持力 あまがえるジャンプ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆跳躍力 カンガルージャンプ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆懸垂力 わに歩き</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: none; text-align: right;">◆その他感覚（バランス感覚） へびのマッサージ</td> </tr> </table>			◆支持力 あまがえるジャンプ	◆跳躍力 カンガルージャンプ	◆懸垂力 わに歩き	◆その他感覚（バランス感覚） へびのマッサージ		
◆支持力 あまがえるジャンプ	◆跳躍力 カンガルージャンプ	◆懸垂力 わに歩き						
◆その他感覚（バランス感覚） へびのマッサージ								

3歳児進級児 II 期(6月～8月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境や様々な活動に興味や関心をもち、かかわって遊ぼうとする。 同じ場にいる友達と一緒にいたい友達に親しみを感じ、かかわることを楽しむ。 生活の仕方が分かり、身の回りのことや自分でできることをしようとする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場を見つけて、おもしろいと感じたことを繰り返し遊ぶ。 (事例7) 身近な動植物を見たり触れたりしながら、親しみをもつ。 砂や水などを使って遊び、感触を楽しむ。 色や形、長短などに、興味や関心をもって遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達に親しみをもち、あいさつを交わしたり、思ったことを話したりする。 「入れて」「貸して」などの遊びに必要な言葉を使ったり、友達の言葉を聞いたりする。 楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や態度で表したりする。 保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるいろいろな素材にかかわり、感触を味わう、見立てる、つくるなどして遊ぶ。 保育者や気の合う友達と一緒にままごとやごっこ遊びを喜び、つもりになって楽しむ。 歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の動きの真似をしたり、友達と同じように遊んだりすることを喜ぶ。 保育者やクラスの友達と一緒に動いたり、誕生会や季節行事などの集会に参加したりして、楽しむ。 保育者や友達と遊ぶ中で、簡単な遊びのルールがあることを知っていく。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、自分の思いを態度や言葉で、保育者に伝えようとする。 保育者や友達と簡単なやりとりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 友達とかかわって遊ぶ中で、保育者の仲立ちを通して、相手に自分とは違う思いがあることを知る。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活や友達とのかかわりの中で、よいことと悪いことに気付く。 みんなで過ごすための必要な約束を知る。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 1日の生活の仕方や流れが分かり、安心して生活する。 所持品の始末や衣服の着脱、排泄、片付けなどの仕方を知り、自分でしようとする。 汚れたり濡れたりしたら気持ちが悪いと感じ、自分で着替えてみようとする。 食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることは自分でやってみようとしたり、できないことは保育者に手伝ってもらって一緒にやったりしようとする。 箸を持ち、自分で食べようとする。 水遊びの約束があることを知り、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で遊ぶことを喜び、心地よさを感じる。 保育者と一緒においかけっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりすることで、体を動かす。 (事例31) 水の気持ちよさを感じながら、全身を動かして遊ぶことを楽しむ。 動物や乗り物などの真似をして、走る、跳ぶ、はう、しゃがむなどの動きを楽しむ。 保育者の真似をして、後ろ歩き、片足立ち、ケンケンなど、いろいろな動きをやってみようとする。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が保育に参加する機会をつくり、参加を通して子どもの姿を知ったり、保護者同士のかかわりを深めたりして、園の保育に関心をもてるようにする。 排便後の始末(トイレトペーパーの使い方や拭き方など)について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。 箸の持ち方について、絵本や便りなどを活用して、正しい持ち方が身に付くように家庭と連携していく。 夏に流行しやすい感染症や皮膚疾患について知らせ、感染予防や健康管理について協力してもらおう。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者と一緒に好きな遊具や用具を見つけて遊んだり、身近な人や動物のつもりになって遊んだりする。 ・ 砂や水などに触れることを喜び、全身で感触を楽しみ、開放感を味わう。 ・ 自分がしたいことやしてほしいことがあると、「入れて」「貸して」など保育者と一緒に言葉で言ったり、必要な場面で使ったりする。 ・ 保育者や友達のとっていることに興味や関心を持ち、同じものを持ったり、同じ動きをしたりして遊ぶことを喜ぶ。また、保育者に対して、「自分の先生」ということが分かり、安心して自分の思いを表現する。 ・ 排泄や衣服の着脱、食事など、生活に必要なことを保育者と一緒にやってみようとする。 							
<p>まなびの力</p>	<p style="text-align: center;">環境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 子どもが落ち着いて遊んでいけるように、場や時間を保障していく。 □ 自分からやってみたい遊びに取り組めるように、子どもが興味をもっている用具、材料などを必要に応じて用意する。 □ あらかじめ池や山などをつくって遊びやすくしておくことで、砂や水に興味をもてるようにしておく。また、十分に感触を味わって遊べるような時間も確保していく。 □ 色や形に興味をもてるような環境を整えていく（七夕飾りつくりやスタンプ遊びなど）。 □ いろいろな素材に触れ、感触を味わえるように、扱いやすく、見立てやすいようなものや素材を用意していく。 	<p style="text-align: center;">援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 子どもがしていることや遊びに共感していくことで、安心して遊びが続けていけるようにする。また、一緒に動きながら必要なものを出したり、場を広げたりして、十分に遊べるようにしていく。 ※ 保育者も一緒に遊びながら、砂や水の感触の気持ちよさに共感していく。また、砂や水が流れたり固まったりするおもしろさや不思議さなどにも気付けるようにしていく。 ※ 子どもの表現を認めながら、名称、色、形の認識につながるようにかかわっていく。 ※ 「入れて」「貸して」など、自分の要求を保育者と一緒に言ったり、自分で言うように励ましたりする。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 友達や保育者の遊びにも関心をもてるように、お互いの遊びが見通せるような場をつくるなどする。 □ 保育者や友達と場を共有して遊ぶことに楽しさを感じられるように、数人で集まれるような広さを確保し、テーブルや囲いなども用意する。また、一人でじっくり遊びたい子もいるので、静かに落ち着いて遊べる場もつくっておく。 □ 保育者や友達が持っているものと同じものを持つことで楽しさを感じられるように、要求してきた時には、その思いがかなえられるように用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 友達と触れ合ったり、一緒にいたり、遊んだりしている時、その嬉しさや楽しさを受け止め、言葉や表情などで伝えていく。 ※ 一人一人が楽しんでいることを受け止めつつ、それぞれの様子や気持ちを保育者が言葉にしていくことで、場を共有して遊んでいる友達がしていることにも興味をもてるようにする。 ※トラブルが起こった時は、お互いの気持ちを十分に受け止めた上で、気分転換をさせたり、相手の思いも少しずつ伝えたりしていく。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 遊びの後の身の回りの始末に個人差が出てくるので、早くできた子どもが安心して待つことができるような場や保育者の配置を考えていく。 □ 着替えが増える時期なので、自分でも着替えができるように、場と時間を十分にとる。 □ 箸を使うことが苦手な子や指先の力が弱い子に対しては、遊びの中で指先を使った遊び（つまむ、ねじる、握るなど）を取り入れていく。 □ 暑さなどで疲れが出やすい時期なので、休息や水分のとれる場や静かに遊べる場をつくっていく。戸外にはパラソルなどで日陰をつくるなど、熱中症対策を整える。 □ 水遊びの手順や危険なことについて、分かりやすいように絵表示などの視覚教材を用意する。 □ プールの水量は深くならないようにする。また、水遊びに使う玩具は清潔に保つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 「おしっこに行ってくる」などの子どもの言葉に同意したり、一緒に行ったりして、安心してトイレに行けるようにする。 ※ 自分でできたところは十分に認め、必要なところは保育者が手を貸すなどしながら、「自分で着替えができた」という喜びに共感していく。 ※ まずは箸を使って食べたいという気持ちを育てていくようにする。また、指先を使った遊びにも誘いかけ、楽しみながら手指の発達を促していく。 ※ 遊びに夢中になると、休息をとらずに遊び続けることがあるので、保育者が時間や様子を見て、声をかけていくようにする。 ※ プールや水遊びでの必要なことや約束について、なぜ必要なのか、なぜしてはいけないのかを絵表示などで示して、丁寧に伝える。 						
<p style="text-align: center;">【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆支持力 あまがえるジャンプ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆跳躍力 カンガルージャンプ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆懸垂力 わに歩き</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: none; text-align: right;">◆その他感覚（バランス感覚） へびのマッサージ</td> </tr> </table>			◆支持力 あまがえるジャンプ	◆跳躍力 カンガルージャンプ	◆懸垂力 わに歩き	◆その他感覚（バランス感覚） へびのマッサージ		
◆支持力 あまがえるジャンプ	◆跳躍力 カンガルージャンプ	◆懸垂力 わに歩き						
◆その他感覚（バランス感覚） へびのマッサージ								

3歳児 Ⅲ期(9月～10月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友達のしていることに興味をもち、自分もやってみようとしたり、かかわって遊んだりする。 ・ 友達と一緒に遊ぶ中で、約束やきまりがあることを知る。 ・ 伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し自分のやりたい遊びを楽しむ。 ・ 秋の虫や草花に興味、関心を示し、見たり触れたりして遊ぶ。 ・ 砂や水、泥を使って遊び、感触を楽しみながら、量や大きさなどにも興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験したこと、感じたこと、思ったことなどを保育者や友達に話そうとする。 ・ 生活の中で必要な言葉が分かり、使ってみる。 ・ リズムのある言葉を喜んだり、一緒に言ったりする。 ・ 絵本や紙芝居を見たり聞いたりすることを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な素材を使って描いたりつくったりして表現する楽しさを感じる。 ・ 自分でつくったものを見立て、遊びに取り入れて遊ぶ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ場にいる友達や保育者にかかわって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。 ・ 友達や異年齢の遊びに関心をもち、仲間に入ったり、やっていることの真似をしたりして遊ぶことを楽しむ。 ・ 園のいろいろな行事に参加して楽しさを感じる。 ・ 簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のしたいことをしながら、安心して遊ぶ。 ・ 一緒にいたい友達ができ、自分からかかわっていく。 ・ 自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようとしたり、相手の思いを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のもの、他の人のもの、みんなのものの違いが分かる。 ・ みんなで過ごすための必要な約束を知り、守ろうとする。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い、うがい、衣服の着脱、排泄などの手順が分かり、自分でしようとする。 ・ 保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。 ・ 食事の準備の仕方や片付けの仕方が分かり、自分でやろうとする。 ・ 体を動かした後の休息の仕方を知る。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いきり体を動かして遊ぶことの心地よさを感じる。 ・ 走る、跳ぶ、登るなどの様々な動きを楽しむ。(事例32) ・ 気に入った固定遊具にかかわったり、遊具を使ったりして、自分のできる方法ややりたい方法を試しながら体を動かす。 ・ 保育者や友達と一緒に音楽に合わせて体を動かしたり、動きを真似したりしようとする。 ・ 園内外の様々な地形にかかわったり、園外を歩いたりすることを楽しむ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会などの行事については、あらかじめ便りなどで育てたい姿や見方のポイントを知らせ、子どもの成長を感じてもらえるようにする。また、参加の仕方には個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。 ・ 自分の思いが達成されないことに、泣いたり怒ったりすることが増えてくるが、成長の過程と捉え、見守っていくことの大切さを伝える。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことが分かったと、自分からその場へ行き、同じように遊ぼうとする。 ・気に入った数人の友達と同じ場で過ごす中で、自分の思うように動いたり、真似をしたりしながら遊ぶ。 ・身の回りの始末などの仕方が分かり、できないところは保育者に手伝ってもらいながら自分でやっていこうとする。 ・戸外で保育者や友達と一緒に固定遊具で遊んだり、園庭をいっぱい走ったりして、体を動かすことを楽しむ。また、4・5歳児の刺激を受けて、真似をしようとする。 							
	環境	援助						
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 自分がしたいと思ったことを十分に楽しめる場、空間、ものを保障していく。 □ 今までの環境を見直し、一人一人の遊びがより充実するように、遊具の種類や数を調整する。 □ 使いたいものがどこにあるのかが分かるように絵表示をつけるなどしていく。また出し入れも子どもが自分でしやすいようにしていく。 □ 遊びの中で、量や大きさが感じやすいように、いろいろな大きさ、深さなどの素材や材料、用具を準備する。 □ 子どもがつくりやすく扱いやすい大きさや硬さの材料や素材を用意する。また、描きやすい教材を用意していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 自分のやりたい遊びを見つけて遊んでいる姿を受け止め、一人一人がじっくりと遊んでいけるようにする。また、様子に応じて支えをしていくことで、遊びが続いていくようにする。 ※ 保育者も一緒に遊ぶことで安心してやりたい気持ちを表し、楽しんでいけるようにする。 ※ 砂などの感触を味わうとともに、量や大きさなどに気付いたり興味をもったりできるような声かけをしていく。 ※ 子どもの話したい思いを受け止め、ゆったりと聞くようにしたり、共感したりしていく。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □気に入った友達と過ごすことが楽しめるように、囲いの柵や数人で入れるような段ボールなどの用具や広すぎない場を用意する。 □ 友達と楽しく遊ぶため、交代することの必要性があることにも気付いていけるよう、数え歌を取り入れたり、待つ位置を決めたりする（ベンチ、いす、足形など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 十分にやりとりすることは難しいので、保育者が間に入りながら、友達と言葉をやりとりすることを楽しめるようにする。 ※ 友達と遊ぶ中で、友達と一緒に感じられるような言葉がけをしたり、一緒に遊べた嬉しさに共感したりしていく。 ※ 思い通りにならない場面では、一人一人の思いを受け止め、それぞれの思いを言葉に表して知らせたり、気持ちを切り替えられるようしたりする。 ※ 合図を聞いて動いたり、順番を待ったりなど、遊びの中に少しずつルールや約束を取り入れていきながら、待つことや順番があることを気付かせていく。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 生活の流れや手洗い、うがいの手順が分かるように、見やすい位置に絵表示などをしていく。 □ 新しい道具の使い方や片付け方、場所が分かりやすいように、絵表示などで知らせていく。 □ 運動会などの行事での4・5歳児の活動に興味をもつので、見たり真似をしたりしやすいように、遊具や用具と一緒に使って遊べるようにしておく。 □ いろいろな固定遊具などに興味をもてるように、かかわって遊ぶ時間を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 子どもの自分でしようとする気持ちを受け止めながら、一人一人の様子に応じて手伝ったり励ましたりし、一人でできた喜びが味わえるようにする。 ※ 遊びの流れや様子をよく見て片付けの声をかけることで、子どもに無理なく片付けができるようにする。また遊びの延長として運ぶことや集めることなどをできるようにし、保育者や友達と一緒に楽しみながら片付けられるようにしていく。 ※ こまめな水分補給や休息がとれるようにし、一人一人の体調に留意する。 ※ 4・5歳児への憧れの気持ちや同じことをしてみたい気持ちに共感しながら、保育者も一緒に見たり動いたりして、楽しめるようにしていく。 ※ 自分なりに試している姿を受け止めつつ、難しいところや困っているところは手を添えるなどして、体の動かし方や方法が理解していけるようにする。またできた時には認めていくことで、次の意欲へとつながっていくようにする。 						
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆支持力 くま歩き</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆跳躍力 カンガルージャンプ (膝をくっつけて)</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆懸垂力 さるのぶら下がり (鉄棒)</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: none; text-align: right;">◆その他感覚（空間認知力） 跳び箱からフープへジャンプ</td> </tr> </table>			◆支持力 くま歩き	◆跳躍力 カンガルージャンプ (膝をくっつけて)	◆懸垂力 さるのぶら下がり (鉄棒)	◆その他感覚（空間認知力） 跳び箱からフープへジャンプ		
◆支持力 くま歩き	◆跳躍力 カンガルージャンプ (膝をくっつけて)	◆懸垂力 さるのぶら下がり (鉄棒)						
◆その他感覚（空間認知力） 跳び箱からフープへジャンプ								

3歳児 IV期(11月～12月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びをしたり、おもしろそうなことをしている友達とかかわったりしながら、遊ぶ楽しさを感じる。 みんなと一緒に活動する中で、保育者や周りの友達の動きを見ながら、自分なりに動く楽しさを感じる。 大まかな生活の流れを感じとりながら、自分でできることは自分でしようとする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたい遊びを見つけ、繰り返し楽しむ。 身近な秋の自然物に関心をもち、気付いたり見立てて遊んだりする。 身近なもの的大小、多い少ない、色、形などの違いに気付く。 好きなものになりきったり見立てたりする楽しさを感じる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中でやりとりを楽しみながら、生活に必要な言葉を知る。(事例8) 同じ場にいる友達と簡単な言葉のやりとりを楽しむ。 好きな絵本や紙芝居ができ、何度も読んでもらったり、見たりして楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いやイメージを動きや言葉で表現する楽しさを感じる。 身近な材料や用具を使って、描くことやつくることを楽しむ。 絵本や紙芝居を見て、好きな言葉を言ったりなりきって表現したりする。 カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しんでする。 友達と同じことがしたいという気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。 保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 行事を通して異年齢の子どもと触れ合い、楽しさを感じたり、年長児に対する憧れを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で遊具の安全な使い方に気付く。 みんなで過ごすための必要な約束やきまりが分かり、守ろうとする。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いやうがいの大切さを知り、自分で行う。 自分でできる始末(排泄後の衣服の始末や手洗いなど)は自分で行う。 次に行うことが分かり、準備や片付けなど自分で行う。 箸を使ったり、食器に手を添えたりして食事をしようとする。 食事の時の約束(手洗い、うがい、姿勢、立ち歩き、あいさつなど)を繰り返す中で身に付けようとする。 魚や肉、野菜など、様々な食べ物に興味をもち、嫌いなものでも少しは食べてみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 走る、踊る、おにごっこをするなど、保育者や友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。 鉄棒にぶら下がる、ブランコに乗る、ジャングルジムを登る、滑り台を滑るなど、いろいろな固定遊具で遊ぶことを楽しむ。 音楽に合わせて、ギャロップやスキップなどをやってみようとする。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 園で楽しんでいる秋の自然を取り入れた遊びや散歩コースの紅葉や木の実を拾える場所などを、便りや写真の掲示などで知らせることで、家庭でも自然に親しむとともに、親子のかかわりを大切にできるように啓発する。 「なぜ」「どうして」の質問が多くなる時期なので、子どもの気持ちに寄り添う大切さを保護者に具体的に伝えていく。 	

<p>発達 の 姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気に入った場所や遊びに自分からかかわっていき、納得するまでじっくり遊んだり、何回も繰り返して楽しんだりする。その中で、「入れて」「いいよ」「貸して」など、生活や遊びに必要な言葉が自分で言えるようになってきて、いろいろな遊びに取り入れる。 気の合う友達と誘い合って遊ぶようになり、思いを出したり、好きな場所へ出かけたりして、一緒に行動する。 簡単なルールのある遊びやおにごっこに興味をもち、友達と一緒に体を動かし遊ぶことを楽しむ。 	
	<p>環境</p>	<p>援助</p>
<p>ま な び の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 今までに楽しんだ遊具、用具や、楽しく遊べる場を用意し、自分のやりたい遊びを見つけて遊び出せるようにする。 □ 園外保育などで集めてきた自然物を遊びに使えるように種類分けをしておいたり、カップなどの他の素材と一緒に用意しておいたりする。 □ 素材や用具を取り出しやすく配置をしたり、扱いやすい素材を用意したりしておく。 □ クリスマスごっこなどで、親しみのある曲に合わせて鈴やカスタネットなどに触れて楽しめるように、自分達で曲を流したり、リズム楽器を使ったりすることができるような場や用具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ やりたい遊びを繰り返し楽しんでいる姿を受け止め、他児に妨げられることなくじっくりと遊べるよう配慮していく。 ※ 木の実や葉っぱなどを見たり触ったりして、子どもが驚いたり喜んだりしたことを大切に受け止め、一緒に共感していく。 ※ 言葉が十分でない時は言葉を補うなどして、子ども同士のやりとりを楽しめるようにする。また、相手が遊びに夢中で伝わりにくいこともあるので、保育者が仲立ちしていく。 ※ 自分なりのイメージの中で、なりきって動いている様子を受け止め、子どもの考えたことやイメージしていることを認めていく。
<p>か か わ り の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □気に入った友達や同じ場所で遊んでいる友達と触れ合って過ごせる場や、友達と同じことをして一緒に楽しめるようなものを用意していく。 □ 保育者や友達の動きが目に入りやすいように、それぞれの遊びの場を近くに設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 友達と一緒に行動する嬉しさに共感していく。また、ものの取り合いなどでけんかになることもあるので、思いがうまくつながらなかったり、言葉のやりとりが不十分だったりする時は保育者が仲立ちして、お互いの思いを知らせていくようにする。 ※ 困ったことがあったり気持ちが不安定になったりすると、保育者に伝えようとする姿が見られるので、受け止めていくようにする。困った時は保育者に伝えたらよいという安心感をもてるようにする。
<p>か ら だ の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 手洗い、うがいに関する絵本などを用意して、習慣となるようにしていく。 □ 絵表示などの視覚教材を掲示していくことで、その絵を見ながらうがい、手洗いができるようにする。また、楽しくできるような歌なども取り入れていく。 □ 多くの友達と一緒に体を動かして遊ぶことが楽しめるようになる時期なので、簡単なルールのある集団遊びを取り入れていく。 □ 運動会の経験から体を動かす心地よさや自分でもやってみようとする気持ちが感じられるようになってくるので、繰り返し楽しめる時間や場、ものを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者も一緒に行いながら、手洗い、うがいの仕方や大切さ、きれいになった気持ちよさなどを知らせていく。また、自分でしようとする気持ちを大切にする。 ※ いろいろな固定遊具や遊びにかかわっていく姿を受け止めつつ、力量以上のことをしようとすることがあるので、安全面には十分に注意する。
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 支持力 <ul style="list-style-type: none"> くま電車 (レールを歩く) ◆ 跳躍力 <ul style="list-style-type: none"> ぐーぱージャンプ (足のみ) ◆ 懸垂力 <ul style="list-style-type: none"> ジャングルジム登り下り ◆ その他感覚(回転感覚) <ul style="list-style-type: none"> さつまいも 		

3歳児 V期(1月～3月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを出しながら、自分のやりたい遊びを十分に楽しむ。 保育者やクラスの友達とかかわりながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 生活の流れが分かり、できることを自分からしようとする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 冬の自然の変化を見たり、触れたりして、冷たさや不思議さなどに気付く。 雪や氷の性質や形、大きさなどに興味をもつ。 花の開花や日差しなどから春の訪れを感じる。 生活や遊びの中で、文字や数字に興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに必要な言葉が分かり、使おうとする。 思ったことを友達に言ったり、相手から聞かれたことに応じて答えたりする。 保育者や友達と、簡単ななぞなぞや反対言葉などを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある素材や材料を選び、つくることを楽しむ。 絵本やお話のイメージを楽しみ、お話に出てくる言葉の真似をしたり、なりたいものになって動いたりするなどの表現を楽しむ。 リズムに合わせて身近な楽器を鳴らすことを楽しむ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分もかかわりながら遊ぶ。 一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、友達の思いを時々感じながら、自分の思いを出して遊ぶ。(事例20) 保育者や友達と簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを知る。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。 保育者に励まされながら様々なことに取り組む中で、できたことを喜び、大きくなったことを感じていく。 園内の身近な職員に親しみをもつ。 保育者の手伝いを喜んでしようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な簡単なきまりが分かる。 集団の中で思い通りにならないことがあることを知る。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものの始末や遊びの片付けなど自分のことは自分で行う。 手洗い、うがい、歯磨きなどの大切さが分かり、自分からしようとする。 防寒着の着脱を自分でしようとする。 友達と一緒に食べる楽しさを感じる。 雪や氷で滑ることや、屋根からの落雪のことなど、冬の生活の中での危険なことを知る。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 寒くても戸外に出て体を動かすことで、温かくなることを経験する。 保育者や友達と一緒に簡単なルールのある遊びで体を動かすことを楽しむ。 いろいろな固定遊具や巧技台にかかわり、できることを楽しんだり、やりたい動きを試したりしながら体を動かす。 跳ぶ、ぶら下がる、しゃがむ、ケンケンで前に進むなどのいろいろな動きをやることで、できた喜びを味わう。 園庭や園外の様々な道や地形を歩くことを楽しむ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの一年間の成長を具体的に保護者と伝え合い、喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげる。 個人差が大きく進級に向けての不安定な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらうようにする。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な繰り返しの言葉を言ったり、友達の実似をしたりして、お話のイメージでやりとりしながら遊ぶことを楽しむ。 ・誘ったり声をかけたりなどして、自分の思いを出しながら、好きな友達とかかわりをもって遊ぶ。また、友達の思いにも気付くようになる。 ・生活に必要な身の回りのことが自分でできるようになって、喜びや自信を感じ、「自分でする」という気持ちで取り組む。 							
	環境	援助						
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 冬の自然現象に興味をもったり、かかわったりできるように、氷がはったり、雪が降ったりした時は、天候を考慮した上で戸外に出る時間をつくっていく。また、雪遊びの後はずぐに着替えたり、暖まったりできる場を用意しておく。 □ 廃材などは選びやすく、取り出しやすいように表示をする。また、子どもが要求したらすぐに出せるようにしておく。 □ 素材や材料として、扱いやすい大きさや形のものや、いろいろな使い方ができるものを用意する（広告紙、小さい紙、小箱、カップなど）。 □ ストーリーの展開を楽しんだり、遊びのイメージが広がったりしやすい絵本を用意していく。また、繰り返しがあがり、楽しい言い回しや言葉があるものを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者も一緒に遊んでいく中で、子どもの感じたことや発見したことを受け止め、共感していくようにする。 ※ 友達と言葉のやりとりをしながら遊んでいく様子を見守り、保育者も時にはその場に加わって言葉を引き出したり、やりとりが楽しい雰囲気をつくったりしていく。 ※ 「自分でつくりたい」という気持ちを受け止め、必要な時に手助けをして、「自分でできた」という思いを感じさせていく。また、つくったものを遊びに使っていくことで、より遊びが広がっていくように促す。 ※ 保育者も子どもと同じ役や相対する役で遊んでいく。分かりやすい簡単な言葉を選んだり、歌やリズムをつけたりして、自然とやりとりが楽しめるように工夫する。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ ごっこ遊びのイメージを膨らませ、友達と同じ場で遊べるように、段ボールの囲いやお面などを用意していく。 □ 遊びに必要なものを自分達で出して遊びやすいように用意しておく。また、場合によっては、譲り合ったり一緒に使ったりすることができるようにものの数を配慮する。 □ 自分で頑張る場をつくったり、異年齢児との交流の場をもったりすることで、大きくなった喜びとともに、進級への期待や上の学年への憧れの気持ちがもてるようにする。 □ お手伝いとして喜んで取り組めるよう、適した内容（運ぶ、配る、拭くなど）を考え、環境を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 遊ぶ場の設定を手伝ったり、友達と同じものが身に付けられるように援助したりしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさに共感していく。 ※ トラブルになった時には、保育者が間に入り、お互いの子どもが納得できるようにかかわっていく。またどうしたらいいのかなどを子ども達にも投げかけながら、一緒に考える時間をつくっていく。 ※ 順番こや半分こができたことで楽しく遊べたことを一緒に喜び、友達とのつながりを大切にしていく。 ※ 自分で頑張る姿を見守り、一人一人成長したところを褒めたり喜んだりして、大きくなった喜びや自信へつなげていく。 ※ 手伝いをやってみたい気持ちを大切に、手伝ってくれたことやできたことを十分に認め、保育者の嬉しい気持ちを伝えていく。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 1日の生活の流れや簡単な行事の予定が分かるように、絵表示などで視覚的に示していく。 □ 雪や氷などで滑ったり転んだりしないように配慮し、危険な場所には表示をするなどをして、安全面への必要な対策をとる。 □ 暖かくなってきたら、戸外へ出る機会をつくっていく。 □ 園外にも出ることで、園庭以外の自然にも触れたり、様々な場所を歩いたりする機会をつくっていく（坂道、でこぼこ道、細い道、溝を跳び越えるなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 身の回りのことを自分でしようとする姿を大切にしながら、見守ったり励ましたりし、必要に応じて手伝うようにして、「自分でできた」満足感をもてるようにする。 ※ いつても経験していることは保育者が先導していくのではなく、子どもに任せてみるなどして、自分で動いていこうとする姿を見守っていく。 ※ 遊具の濡れを拭き取るなどして安全に遊べるようにする。また、戸外で思いきり体を動かして遊べるようにするとともに、体を動かすと温かくなることが感じられるようにしていく。 ※ 今まであまりしたことがない遊びにも誘いかけたり、頑張りを励ましたりしていくことで、自分なりに挑戦してみようとする意欲がもてるようにする。 						
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆支持力 うしろくま歩き</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆跳躍力 ぐーぱージャンプ (手・足一緒に)</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆懸垂力 ぶたの丸焼き</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: none;"></td> <td style="border: none;">◆その他感覚（バランス感覚） あひる歩き</td> </tr> </table>			◆支持力 うしろくま歩き	◆跳躍力 ぐーぱージャンプ (手・足一緒に)	◆懸垂力 ぶたの丸焼き			◆その他感覚（バランス感覚） あひる歩き
◆支持力 うしろくま歩き	◆跳躍力 ぐーぱージャンプ (手・足一緒に)	◆懸垂力 ぶたの丸焼き						
		◆その他感覚（バランス感覚） あひる歩き						

4歳児 I期(4月～5月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、保育者とのかかわりを基盤に、自分の思いを表しながら、遊んだり生活したりする。 保育者や好きな友達と一緒に、自分のやりたい遊びを楽しむ。 新しい環境での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分なりにやってみようとする。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に興味をもち、自分の安心できる場や友達を見つけて遊ぶ。 保育者や周囲の友達の動きに興味をもち、やってみようとする。 自分から新しい環境にかかわり、気に入った遊びを見つけて楽しむ。 身近な春の自然(花びら、葉、虫など)を遊びの中に取り入れて遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 保育者や仲のよい友達とあいさつする。 保育者の読む絵本や紙芝居などを見たり聞いたりすることを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 身近な素材や材料に興味をもち、自分なりにつくって遊ぶことを楽しむ。 感じたままに表したり、何かのつもりになって遊んだりする。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 好きな友達と同じ遊びを楽しむ。 クラスのみなどと一緒に遊んだり過ごしたりすることを、楽しいと感じる。 友達と楽しく遊ぶためには、ルールがあることを知る。(事例21)
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達に親しみをもって、遊んだり生活したりする。 困った時などに自分から保育者に伝える。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な約束やきまりが分かり、守って行動しようとする。 集団行動や安全のルールを知り、自ら気を付けようとする。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 新しいクラスでの生活の仕方や流れが分かり、自分のことは自分でしようとする。 保育者や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で、喜んで食事をしようとする。 新しい遊具や用具の安全な遊び方、使い方を知る。 危険なものや場所を知り、安全に気を付ける。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で体を動かして遊ぶことの心地よさを感じる。 3歳時に経験した遊びをしながら、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 保育者や友達の動きの真似をして、同じように体を動かそうとする。 遊具や用具などに自らかかわり、いろいろな体の動きを楽しむ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 進級による喜びや不安に対する保護者の話をよく聞き、思いを受け止めながら、保護者と一緒に子どもを支えていくようにする。 年度初め、担任や生活が変わることへの保護者の不安な気持ちを受け止め、前年度の担任と十分に連携を図っていることを保護者にも伝えることで安心してもらおう。 4歳児は友達とのかかわりが増えるので、トラブルや友達関係などで不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、一緒に1年間の成長を見守っていけるような関係づくりに努める。 	

<p>発達 の 姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳時に経験した遊びをしたり、使ったことがある遊具や用具を使ったりしながら、自分のやりたいことを見つけて遊んでいく。また、新しい遊具や場所に興味をもってかかわっていきこうとする。 ・ 新しい担任に関心や親しみをもち、「先生、見て！」など自分からかかわったり、保育者にかかわってもらったりすることを喜ぶ。 ・ 進級した喜びを感じ、新しい環境での生活に必要なことや生活の仕方に気付き、自分でやってみようとする。 					
<p>ま な び の 力</p>	<p style="text-align: center;">環境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 遊具や用具を、目につきやすく取り出しやすい場所に置いたり、コーナーをつくったりして遊び始めやすいようにしておく。 □ それぞれの遊びが自分なりに楽しめるように、室内、戸外ともに必要な遊具や用具を多めに用意しておく。 □ 春の草花や虫に関する絵本や図鑑を、目につきやすい場所に広げて置いたり、虫かごや飼育ケース、袋などを用意し、親しみや興味をもたせていく。 	<p style="text-align: center;">援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ やりたいことや興味のあることに自らかかわって遊ぼうとする姿を認め、一人一人が自分の遊びに安心して取り組めるように支える。 ※ 保育者も一緒に遊んでいくことで、安心して遊べるように支えていく。また時には遊びを盛り上げたり、遊びの刺激になったりしていきながら、楽しい遊び方を伝えていく。 ※ 草花での色水づくりや虫探しなどでの様々な発見や驚きに共感し、その不思議さやおもしろさに興味をもてるようにする。 				
<p>か か わ り の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 新入園児には、一人一人が安心できる遊具や落ち着ける場を用意する。 □ 3歳時の友達ともかかわって遊べるように環境準備や保育者の動きなど、学年の保育者同士で連携を図る。 □ 好きな遊びを楽しむ中で、新しい友達や保育者の存在に気付き、一緒に遊ぶ楽しさが感じられるような場所（遊びのコーナー、みんなで囲めるテーブルなど）や、同じものを身に付けて遊べるようなものを準備する。 □ 「みんなで集まると楽しい」と感じられるように、クラスでの一斉活動の時間を大切に、やりとりしたり触れ合ったりできるような遊びを取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 新しい環境で安心して過ごせるように、保育者は一人一人の気持ちに寄り添って声をかけたり見守ったりする。 ※ 今までにかかわりのある友達と遊ぶことに安心感や心地よさを感じていることを考慮していく。また、必要に応じて今までの友達ともつながっていると感じられるような言葉かけや、3歳時の遊びやものの提示をしていくとともに、新しい友達ともつながりやかかわりがもてるように支えていく。 ※ 友達に対して自分の思いが言えずにいる子や自分の要求ばかり通そうとする子などには、保育者がお互いの気持ちを受け止めて仲立ちとなっていく。また、自分の思いを言葉で伝える大切さも知らせていく。 ※ 保育者や新しい友達とのやりとりや触れ合いを通して、かかわったりつながったりできた嬉しさや喜びを感じられるようにし、いろいろな遊びや生活の中でもかかわれるきっかけとなるようにしていく。 				
<p>か ら だ の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 新しい環境の中でも、3歳時に身に付けた生活習慣が継続できるように、生活の場や片付けの方法などについて、分かりやすく自分でできるような環境づくりに心がける。 □ ひとつの遊びが長続きせず移っていきやすい時期のため遊具や用具が広がるので、危険を回避するためにその都度寄せたり片付けたりして安全に遊べるようにする。 □ 天気のよい日には積極的に戸外へ出て遊ぶように促し、伸び伸びと体を動かして遊べるような遊びや環境を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 環境が変わったことで不安定になる子がいるので、所持品の始末や片付けなど、自分なりにやろうとする気持ちを認め、個人差に応じて丁寧に繰り返し指導していく。 ※ 新しい環境の中での生活の流れや必要なことの意味を具体的に伝え、自分でできたことや頑張っていることを認めていく。 ※ 目新しい遊具や用具については、一緒に遊びながら遊び方や安全な使い方を知らせていく。危険なことや力量以上のことをしていないかに気を付ける。 				
<p style="text-align: center;">【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;">◆支持力 あざらし</td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;">◆跳躍力 カンガルージャンプ (フープヘジャンプ)</td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;">◆懸垂力 ぶたの丸焼きパイパイ</td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;">◆その他感覚(回転感覚) 前回り下り</td> </tr> </table>			◆支持力 あざらし	◆跳躍力 カンガルージャンプ (フープヘジャンプ)	◆懸垂力 ぶたの丸焼きパイパイ	◆その他感覚(回転感覚) 前回り下り
◆支持力 あざらし	◆跳躍力 カンガルージャンプ (フープヘジャンプ)	◆懸垂力 ぶたの丸焼きパイパイ	◆その他感覚(回転感覚) 前回り下り			

4歳児 II期(6月～8月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材に触れ、取り入れて遊ぼうとする。 気の合う友達と互いの思いを出して遊ぶことを楽しむ。 夏ならではの開放的な遊びを全身を使って楽しむ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な虫や小動物などに触れたり、園庭の草花や栽培している植物の生長を楽しみにしたり、収穫することを喜んだりする。 砂や水、泥などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。〈事例9〉
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験したことや思いを保育者や友達に伝えようとする。 絵本や童話、図鑑などを見たり聞いたりすることを楽しむ。 歌や絵本、リズムのある言葉に関心をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要なものやイメージしたものをつくったり描いたりする楽しさを感じる。 身近な素材や新しい材料に興味をもってかかわり、必要なものを使ったりつくったりして遊ぶ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。 ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのかかわりの中で自分の思いが通らない時に、保育者に思いを受け止めてもらいながら、気持ち切り替えようとする。 受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。 友達の言葉や動きに気づき、自分なりに応じていく。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動の約束や保育者の指示を聞き、動こうとする。 身近な動植物を見たり、触ったりする中で、命の大切さに気付く。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 夏の生活の仕方が分かり、自分で汗の始末や衣服の調節をする。 活動に合わせ排泄することが分かり、自分からすまそうとする。 夏野菜の収穫を通して、みんなで一緒に食べる楽しさや食べられた嬉しさを感じる。 歯磨きの大切さを知る。 園外に出た時のルールなど、安全に過ごすための約束やきまりを知り、守ろうとする。 水遊びやプール遊びの約束が分かり、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と一緒に音楽に合わせて踊ったり、体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 バランスをとったり、障害物をよけたりなど、自分で体を調整しながら動かす。 水遊びやプール遊びを通して、水の中の動きを楽しみ、開放感を味わう。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 園での子どもの言葉の使い方や思いの表し方、友達とのかかわり方に気付いていけるように保育者が援助していることなどを、便りなどで知らせることで家庭の理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていけるように連携していく。 自分でやってみようという気持ちが高まる時期であることから、大人が先に指示しすぎることなく、子どもが自らしようとしている気持ちを尊重し温かく見守ることが、今後の自信や意欲につながっていくことを知らせる。 個別懇談などを通して子どもの成長を知らせ、園との信頼関係を築いていく。 プール遊びをするための健康状態を把握し、感染症などを防ぐよう協力してもらう。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・砂や水、泥などに触れて感触を楽しみながら遊ぶ中で、その気持ちよさや喜びを動きや言葉に出しながら開放感を味わう。 ・遊びに必要なものを保育者に要求したり、新しい素材や材料に興味をもってかかわったりするなどして、繰り返し試したりつくったりして楽しむ。 ・気の合う友達や同じ場にいる友達と一緒に遊ぶ楽しさや思い通りにならない葛藤を感じる中で、自分の思うことを行動や言葉で表す。 ・持ち物の始末や身支度など、自分でできることに自信を感じる。また、片付けなども友達と一緒にすることで、頑張っ取り組んでいこうとする。 							
<p>まなびの力</p>	<p style="text-align: center;">環境</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 身近な小動物や植物を探したり保育室に置いたりして、自分から興味をもってかかわれるようにする。また、栽培物の生長が身近に感じられるように、目に入りやすいところに置いたり、見に行ったりする機会をつくる。 □ 砂、水、泥などの感触や性質、不思議さなどが味わえるような用具（バケツ、筒、トユ、容器など）や環境を準備する。 □ 遊びやできあがりイメージしやすい材料や、遊びに必要な用具などを準備する。 	<p style="text-align: center;">援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 小動物を飼ったり、植物を栽培したりする中で、子どもの発見や驚きを受け止め、共感していく。 ※ 保育者も一緒に遊ぶことで砂や水などの感触や性質などについて共に発見し、不思議やおもしろく思ったことに共感していく。 ※ 自分なりに工夫していることを認めることで、つくったり描いたりすることにより意欲がもてるようにしていくとともに、自分の思いやイメージを言葉で伝えることができるように支えていく。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 一緒に遊びたい友達と集まれるような場や友達とのつながりを感じられるようなものを用意する（積み木や友達と一緒に入れるような段ボールの家、お面など）。 □ イメージがもちやすいお話を投げかけたり、役になりきって遊べる共通の場やものを準備したりする。 □ 身近な小動物（大小のザリガニ、オタマジャクシやカエル、カタツムリなど）に実際に触れて親しみをもてるような環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 一人一人が楽しみを見つけて遊んでいる姿を認めるとともに、同じ場で遊んでいる友達の姿が目向けられるような言葉がけをしていく。 ※ 同じ場で遊んでいても楽しみ方はそれぞれ違うので、一人一人が十分に楽しめるようにしていく。また、友達と一緒に遊ぶ楽しさも感じられるように、同じイメージがもちやすい場やものの設定を工夫したり、保育者自身が役になりきった言葉や動きをすることで、友達と同じ役になって遊ぶ楽しさを知らせていく。 ※ 子ども同士のかかわりの中で、相手の気持ちに気付いたり自分の思いを伝えたりしている場面を捉え、見守ったり必要に応じてかかわったりしていく。 ※ 動植物の世話をすることで、扱い方や世話の仕方などについても知らせていくようにする。また、命の大切さや命には限りがあることに気付いていけるようにする。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 着替えが増える時期なので、自分の力でできるように、場を広く確保したり、時間を十分にとったりしていく。 □ 夏野菜が収穫できた喜びを味わったり、感触を感じたりできるように、収穫物を身近な場所に置いたり、子どもの手で下準備（洗う、剥くなど）をしたりする。 □ プールの水位は初めは低めにして、様子を見て深さを変えていく。また水が苦手な子には、場所や時間を分けるなどして、どの子どもが落ち着いて遊べる場を工夫する。 □ フープ、シャワー、水鉄砲など、プールでの様々な水遊びが楽しめるような遊具を準備する。また衛生面には十分配慮する。 							
<p style="text-align: center;">【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆ 支持力 新幹線くま</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆ 跳躍力 じぐざぐジャンプ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆ 懸垂力 レスキュー</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: none; text-align: right;">◆ その他感覚（協応性） ジャンプでタッチ</td> </tr> </table>			◆ 支持力 新幹線くま	◆ 跳躍力 じぐざぐジャンプ	◆ 懸垂力 レスキュー	◆ その他感覚（協応性） ジャンプでタッチ		
◆ 支持力 新幹線くま	◆ 跳躍力 じぐざぐジャンプ	◆ 懸垂力 レスキュー						
◆ その他感覚（協応性） ジャンプでタッチ								

4歳児 Ⅲ期(9月～10月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な出来事にかかわり、驚き、気付き、発見などを通して、様々なことに興味や関心を広げる。 遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達とのかかわりを楽しむ。 秋の自然に触れながら、戸外で思いきり体を動かし遊ぶことを楽しむ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の変化に気付いたり、草花を遊びに取り入れたりして楽しむ。 繰り返し遊ぶ中で、自分のやり方を試したり工夫したりする。 身の回りのものに触れたり使ったりして遊ぶ中で、ものの性質（重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど）に気付く。 行事を通して、様々な国や国旗があることを知り、興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや友達とのかかわりの中で、自分の思いを言葉や動きで表していく。 保育者や友達に親しみをもってあいさつをしたり、会話を楽しんだりしながらつながりを感じる。 気に入った絵本を保育者に読んでもらったり、自分で見たりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に曲に合わせて表現を楽しむ。 遊びや行事の中で、身に付けるものや使うものをつくり、それを使って遊ぶ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 友達との遊びの中で、思い通りにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。 集団遊びを通して、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。 みんなの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ（かけっこ、リズム、運動会に向けての活動など）。 行事を通して様々な人（職員、他の保護者、地域の方など）とのかかわり、親しみをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 約束やルールを守ることで、みんなが気持ちよく過ごせることを感じる。 小動物との触れ合いの中で、命や死について気付く。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの始末や、使ったものの片付けを自分でしようとする。 汗をかいたら、自分で拭こうとする。 生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする。 いろいろな食べ物があることを知り、何でも食べる大切さを知る。 安全に過ごすための約束やきまりが分かり、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 自ら体を十分に動かして遊ぶことの心地よさを感じる。 保育者や友達の動きの真似をしたり、試したりして、ケンケン、スキップ、片足立ちなど、いろいろな動きに挑戦する。 遊具や用具の使い方に慣れ、いろいろな動きを試していく。（事例33） 簡単なルールのある中で、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 音楽やリズムに合わせて体を動かしたり、友達と動きを合わせたりしようとする。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 運動会に向けては、勝ち負けや出来栄のみにこだわらず、楽しんでいることや一人一人が頑張っている姿など、その過程が大切であることを懇談会や便りで知らせていく。 朝と日中の温度差が大きくなるので、調節しやすい服装にしよう。また、着替え袋の中身の入れ替えもお願いする。 運動会や保育参観など、保護者の協力や参加が増える時期なので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりが感じられるような内容や方法を工夫する。 	

<p>発達 の 姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然物や事象、いろいろな材料などに興味をもち、自分からかかわったり試したりして様々な発見をする。 リレーなど、5歳児の遊びの真似をして遊ぼうとしたり、自分がやりたいと思っている遊び方やルールを保育者や友達に伝えたりして一緒に遊ぼうとする 思いきり走ったり、リズムののって踊ったりなど、体を伸び伸びと動かして遊ぶことを楽しむ。 	
	<p>環境</p>	<p>援助</p>
<p>ま な び の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 見たり比べたりして、秋の自然物に関心がもてるように、虫や草花に関する図鑑や集めてきた自然物を置いておく。 □ 網、虫かご、飼育ケース、実や種を入れる容器やビニール袋など、用途に合わせて自分で選んで使えるように分かりやすい場所に置いておく。 □ 一人一人の考えや思いを友達に伝えていけるような場や機会を設ける。 □ 組み合わせたり見立てたりなど、イメージが広がりやすく扱いやすい素材を用意する。また選びやすいように分けておいたり、続きができるようにつくったものを置いておける場所を用意したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 保育者も一緒に遊ぶ中で、見たり触ったり比べたりなどの様々な発見や気づきを促しながら、子どもの思いや興味、発見を受け止め、共感していく。 ※ 自分の思いを言葉や動きで伝えようとする姿を認めていく。また、保育者が必要に応じて言葉を補うことで相手に伝わるように支え、思いが伝わった喜びが感じられるようにする。 ※ 一人一人が工夫しているところを認めたり、つくりたいもののイメージが実現できるように支えたりする。 ※ 子どもが表現している姿を丁寧に受け止めていくことで、表現する意欲や創造性へつなげる。
<p>か か わ り の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ イメージを共有しやすいお話や友達とつながりを感じられるような遊びを投げかける。 □ 気の合う友達とのつながりが感じられるようなものや、基地やお家などを友達と一緒につくれるような積み木や囲い、段ボールなどの必要な用具を、子どもの身近に置いておく。 □ 保育者や友達とのかかわりが深まるように、簡単なルールのある遊び（おにごっこ、かけっこ、ダンスなど）を取り入れていく。 □ 運動会後も、異年齢の遊びに関心をもって真似をしながら遊べるように、必要な遊具や用具を身近な場所に置いておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 思い通りにいかず歯がゆさを感じている姿を受け止めるとともに、相手にも思いや考えがあることを伝えていくことで、相手の気持ちに気付いていけるように支えていく。 ※ 自分から中に入れなかったり、自分の思いを伝えられなかったりする子には、遊びの様子や機会を見て、保育者も一緒に参加しながら誘いかけていく。 ※ ルールのある遊びを通して、ルールを守ることで友達と一緒に遊ぶことがより楽しくなるという経験を大切にしていく。 ※ 運動会などの行事を通して、異年齢の遊びにも興味をもってかかわれるように、保育者間の連携を大切にする。 ※ 保育者も一緒に小動物の世話をしながら、扱いや餌の与え方などについて子どもと共に考えたり知らせたりしていくことで、生き物を大切にする気持ちを育てていく。
<p>か ら だ の 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 手洗い、うがい、汗の始末など健康な生活のために必要なことを知らせる機会を設けていく。 □ 自分達で遊びの準備や片付けができるように、ものの場所をはっきり示したり、友達と一緒に持てるように入れ物や持ち手を工夫したりする。 □ 体を動かしたくなるような環境をつくり、十分に運動が楽しめるようにする。 □ いろいろな動きやイメージをもって試して遊べるように、遊具や用具、音楽を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 生活習慣において丁寧さに欠ける子に対しては、頑張っている姿を認めつつ、正しい仕方を分かりやすく伝えていく。 ※ 準備や片付けの仕方を子どもと一緒に考えたり、保育者が一人一人の子どもの姿を認めたりすることで、手伝いや役割をもつことに喜びがもてるようにする。 ※ 園内での生活における約束やきまりだけでなく、遠足などで園外に出かける機会の中でも、集団で安全に行動する約束やきまりについて分かりやすく知らせていく。 ※ 「やってみよう」と挑戦する姿を認め、友達と一緒に戸外で伸び伸びと遊ぶ気持ちよさを感じられるようにする。 ※ 保育者も子どもと一緒に体を動かし、運動遊びの楽しさが味わえるようにする。
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <p>◆支持力 片足くま</p> <p>◆跳躍力 足きり遊び</p> <p>◆懸垂力 さるのよじ登り (のぼり棒)</p> <p>◆その他感覚（逆さ感覚） ふとん干し</p>		

4歳児 IV期(11月～12月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分達で遊びの場をつくったり、見たことや感じたことを様々な方法で表現したりして遊ぶことを楽しむ。 遊びの中でクラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう。 季節の変化に伴い、生活の仕方が変わることを知る。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 季節による自然の変化に気付き、木の実や落ち葉など自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る。 いろいろな材料や素材に触れる中で、数量、物の色、形などに興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達との会話を楽しみ、思ったこと、感じたこと、経験したことなどを話したり、聞いたりする。 絵本やお話など喜んで見たり聞いたりして、おもしろさが分かりイメージを広げる。 絵本や歌の中にあるおもしろい言葉に気付き、喜んだり繰り返し言ったりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> お話や役のイメージをもち、お話の中の人や動物になりきって遊ぶ。 自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。 思ったことを自由に描いたりつくったりすることを楽しみ、できたものを見たり飾ったりする。 みんなで歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。 友達の動きに関心をもち、その動きに合わせて応じたりして動く楽しさを感じる。 友達と自分の思いや考えを伝え合い、共通のめあてをもって遊びを進めていく。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 保育者や友達の言っていることや考えていることを理解して、自ら行動しようとする。 当番活動を喜び、進んで手伝いをする。(事例22)
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 友達と生活する中でできまりの大切さを感じ、守ろうとする。 共同の遊具や用具を大切にし、貸し借りをし使ったり一緒に片付けたりする。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがいの大切さが分かり、自分から進んで行う。 自分の身の回りのものの始末や片付けなどの仕方が分かり、進んで取り組む。 必要に応じて衣服の調節を自分で行う。 食事のマナーを意識して食べようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に簡単なルールのある遊び(おにごっこやしっぽとりなど)を楽しみ、思いきり体を動かす。(事例34) 相手やものの動きを見て、よける、しゃがむ、跳ぶなど、自分で体を調整しながら動く。 いろいろな遊具や固定遊具に積極的にかかわり、全身を使って遊ぶことを楽しむ。 いろいろな運動遊びに挑戦することのおもしろさや、できた喜びを味わう。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学期末の個別懇談などの機会を通して、日常生活での子どもの取り組みや友達とのかかわりの中で成長した姿を伝えていく。また、気になる様子や園が配慮していることなどについては、園と家庭が成長や課題を共通にして、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お話や役のイメージでなりきって遊ぶことを楽しみ、身近にある材料や用具を使ってつくったり見立てたりしながら遊ぶ。また遊びのイメージを友達と共有し、自分達のお家や遊びに必要なものをつくったり、互いの思いを出し合ったりすることを楽しむ。 ・ 友達と思いを出し合いながら遊ぶ中で、自分と違う思いがあることに気付いたり、一緒に遊ぶために相手の意見に耳を傾けたりする。 ・ 身支度やうがい、手洗い、片付けなど生活習慣全般において、手早く済ませられるようになる。 ・ 簡単なルールのある遊びの遊び方や楽しさが分かってきて、友達や保育者と一緒に繰り返し楽しむ。 	
	<p>環境</p>	<p>援助</p>
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 集めてきた木の実や木の葉などの自然物を触ったり比べたり数えたりするなど、様々な楽しみ方ができるように準備しておく。 □ 共通のイメージがもちやすいお話を投げかけたり、お面などを子どもと一緒に用意したりして、よりなりきった動きや言葉を引き出せるような環境を準備する。 □ イメージしたものや遊びに必要なものを自分達で選んだりつくったりできるように材料を用意し、子どもの様子を見ながら出せるようにしておく。 □ クリスマスの絵本を掲示したり、音楽を鳴らしたりして雰囲気づくりをするとともに、ラジカセやCDデッキなどの音源や楽器を用意して自由に使えるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 積極的に戸外へ出かけ、秋から冬への自然の変化の美しさや不思議さなどの子どもの発見を認め、共感していく。 ※ 役になりきって遊んだり、遊びに必要なものを考えてつくったりしている姿を認め、保育者自身も役のイメージを大切にしたかかわり方や言葉を引き出すようなやりとりをする。 ※ イメージしたことを様々な素材を使って工夫してつくったことを認め、達成感や満足感がもてるようにする。 ※ 子ども達が楽しみにしているクリスマスを取り上げ、心待ちにしている気持ちを大切に受け止めながら、絵本を読んだり歌を歌ったり、楽器を鳴らしたりすることで、イメージの世界や雰囲気を楽しめるようにするとともに、いろいろな表現活動（製作、合奏など）へとつながっていくようにする。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 自分達のやりたい遊びが十分にできるように、場所や時間を保障する。また、友達との遊びが継続して楽しめるように、遊び場を残したり、続きができるような片付けの場を整えたりする。 □ 友達とももの貸し借りができるように用具の数を調整したり、互いに手伝うことでひとつのものができるような大きめの素材（ダンボール箱など）を準備したりする。 □ 思うようにならなかったことなどを、自分で受け入れられるまでの時間を保障する。 □ 当番活動にはりきって取り組めるように、当番表を準備したり、子どもに適当な仕事内容を考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 子ども達が遊びをつくったり進めたりしている姿を受け止めていくことで、自分達で遊びを展開しているという意識や意欲がもてるようにする。また遊びや遊びの場が自分達のものと感じて大切にしていけるように支えていく。 ※ 友達に思いを伝えながら一緒に遊ぼうとしている姿を受け止め、相手に伝わる言い方を知らせたり、伝わった嬉しさを共感したりする。 ※ 思いの違いからトラブルが起こった時などは、両者の思いを丁寧に聞き、一緒に遊ぶためにはどうしたらよいかを寄り添いながら一緒に考えていく。 ※ 当番や手伝いなど、一人一人の頑張りを認め、保育者と同じことができた喜びや保育者が喜んでくれているという満足感がもてるようにする。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 手洗いやうがい、薄着の習慣が身に付くように、絵表示などの視覚教材を見やすい場所に貼ったり、健康に関する絵本を用意したりする。 □ 寒くなると室内に閉じこもりがちになるので、戸外に出て体を動かすことの気持ちよさや体が温くなる経験ができるようにする。 	
	<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 支持力 <ul style="list-style-type: none"> くもの巣わたり ◆ 跳躍力 <ul style="list-style-type: none"> 小波跳び (膝をくっつけて) ◆ 懸垂力 <ul style="list-style-type: none"> 渡り棒ぶら下がり ◆ その他感覚（回転感覚） <ul style="list-style-type: none"> ゆりかご起き 	

4歳児 V期(1月～3月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める。 ・基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然事象や冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 ・今までにしたことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。 ・絵の表示、記号、文字、数字などに興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の話聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。 ・日常生活に必要な言葉が分かり、進んで使ったり、自分からあいさつしたりする。 ・絵本や紙芝居などの話の展開を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要なものを工夫して描いたりつくったりし、それを使って友達と遊ぶ。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。 (事例10) ・友達と一緒に歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする（お別れ会の計画や当番活動など）。 ・クラスのみなどと一緒に活動する中で、満足感を感じたりクラスとしてのつながりを感じたりする。 ・簡単なルールをつくったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・年長児との交流や当番の引き継ぎなどをして、年長児の生活に期待をもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・よいことと悪いことに自分で気付き、考えて行動する。 ・相手の思いに気付いて受け止め、自分の気持ちを抑えようとする。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは、自分でする。 ・自分の健康に関心をもち、様々な食べ物を進んで食べようとする。 ・気持ちよく食事をするために、あいさつや姿勢などのマナーに気を付ける。 ・行事を通して、伝統的な日本の食文化を知る。 ・雪や氷などで滑ったり転んだりしないように気を付けて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、戸外で全身を思いきり動かして温かくなる心地よさを感じる。 ・自分のめあてをもって、遊具や用具、固定遊具で遊び、積極的に体を動かす。 ・友達と一緒に挑戦したり、繰り返ししたりしながら、いろいろな動きを楽しむ。 ・いろいろな遊具や用具を使って、自分で体を調整しながら遊ぶ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の子どもの成長を保護者と共に喜んでいくとともに、進級に向けての保護者の喜びや不安に対して共感していく。 ・子ども達の進級に向けての活動の様子（お別れ会、卒園式などへの取り組みなど）を伝え、保護者も一緒に進級への期待がもてるようにする。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験や興味に個人差はあるものの、この時期ならではの遊びの中で文字や数字に興味もち、繰り返し楽しむ。 ・ 様々な行事を通して、友達とのつながりを感じたり、友達と一緒に頑張ろうとしたりしながら、年長児に向けての生活に期待をもって過ごす。 ・ 簡単なルールのある遊びに興味をもち、ルールを守ってみんなで遊ぶことを楽しむ。 							
	<p>環境</p>	<p>援助</p>						
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 雪が降ったり、氷がはったりする機会を逃さず積極的に戸外での活動を取り入れる。また、雪や氷での遊びが楽しめるような用具（バケツ、カップなど）を用意しておく。 □ 正月遊びを楽しめるように、少人数で集まれるゴザや小さめのテーブルを用意しておく。 □ この時期ならではの日本古来の遊具（カルタ、スゴロク、コマなど）を用意する。また個人差を配慮し、興味や力量に応じて自分で選んで使えるように、いろいろな種類を準備する。 □ お話のイメージがより広がるような音楽や身に付けるものを準備したり、必要なものをつくることのできる場所や材料、用具などを準備したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 雪が降ったり氷がはったりなどの冬から春へ向けての様々な自然現象に、保育者が感動する姿を見せたり、子どもの発見に驚いたりしながら、より興味や関心がもてるようにする。 ※ 正月遊びについては、経験によって個人差があるので、基本的な遊び方にこだわりすぎず、子ども達からの発想や遊び方を取り入れることで、いろいろな遊び方ができるようにしていく。 ※ 自分の思いを上手く相手に伝えられない時は、保育者が仲介に入り、代弁したり必要な言葉を伝えたりしていく。 ※ 子どもの興味に合ったお話を選び（つくり）、その中で子どもの発想、言葉、表現などを大切に受け止め、それぞれが自分の役を楽しめるようにする。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ クラスの一員として取り組んでいけるように、遊びや行事の中で、みんなで力を合わせないといけない機会や、一人一人に役割や仕事をつくっていく。 □ 一人一人が遊び方やルールを理解できるように、具体物やカードなどの視覚的な教材を準備し、環境を整える。 □ 年長組に向けて、意欲や期待をもって進級できるように、年長児の生活を見たり、かかわったりできる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 友達やクラスのみなどと一緒にやり遂げられた喜びや、一人一人がクラスの一員としての思いが感じられるように支えていく。また、友達の頑張りやよさをクラスでも伝えていくようにする。 ※ ルールの意味やルールを守って遊ぶ楽しさや大切さなどを分かりやすく伝えていく。また、みんなで楽しく遊びを進めていけるよう支えていくとともに、理解が難しい子には個別に声をかけるようにする。 ※ 勝ち負けのある遊びの中では、それぞれの頑張りや楽しさ、悔しさなどの気持ちを受け止め、友達の姿や思いも感じられるようにしていく。 ※ 一人一人の頑張りやできるようになったことを認め、大きくなったことへの喜びや自信が感じられるようにし、進級への期待がもてるようにする。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 進級を前にして、大きくなったことが感じられる時期なので、より自分の体に関心がもてるように、衛生や食についての掲示を工夫したり、お話や集会などを設けたりする。 □ 雪や氷などで滑ったり転んだりしないよう、安全に配慮し、必要な対策をとる。 □ 寒い日でも戸外で元気に遊べるよう、縄、ボールなどの用具を身近に置いたり、みんなで一緒に遊べるような楽しい集団遊びを取り上げたりする。また、園外へも出かける機会を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 進級に向け大きくなったという気持ちが高まるので、生活習慣の自立や体の健康、また約束を守ることなど、様々な場面を捉えて気付かせたり励ましたりする。 ※ 雪や氷などの危険について具体的に話をし、気を付けていけるようにする。 ※ みんなで楽しめるルールのある遊びや縄やボールを使った簡単な遊びを取り入れ、寒さに負けずに体を動かして遊べるようにする。 						
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">◆ 支持力 うしがえる</td> <td style="width: 33%;">◆ 跳躍力 大波跳び</td> <td style="width: 33%;">◆ 懸垂力 わに歩き (両手同時つき)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>◆ その他感覚 (バランス感覚) 前向き渡り (平均台)</td> </tr> </table>			◆ 支持力 うしがえる	◆ 跳躍力 大波跳び	◆ 懸垂力 わに歩き (両手同時つき)			◆ その他感覚 (バランス感覚) 前向き渡り (平均台)
◆ 支持力 うしがえる	◆ 跳躍力 大波跳び	◆ 懸垂力 わに歩き (両手同時つき)						
		◆ その他感覚 (バランス感覚) 前向き渡り (平均台)						

5歳児 I 期(4月～5月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に自分からかかわり、めあてをもって遊ぶ。 ・自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者とのかかわりを楽しんだりしながらクラスのつながりを感じる。 ・年長児になった喜びを感じ、生活の仕方が分かり、進んで行く。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・春の草花や生き物に関心や親しみをもち、考えたり、試したり、遊びや生活に取り入れたりする。 ・戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもつ。 ・イメージに合う材料や用具を選び、特性や使い方を知り、生かして使う。 ・砂、水、泥などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達などに自分からあいさつや返事をする。 ・身近な出来事に対して感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に歌ったり、身体表現をしたりする楽しさを味わう。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことやイメージしたことをつくったり描いたりして表現することを楽しむ。 ・遊びに必要なものを工夫してつくることを楽しむ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝える嬉しさを感じる。 ・うまくいかないことを通して、友達の考えや思いに気付き、受け止めようとする。 ・友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。 ・友達とのかかわりの中でルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ・年下の子どもに対して親しみの気持ちをもって接したり、世話をしたりする中で、年長児としての自覚をもつ。 ・友達の動きや言葉を感じとりながら行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。 ・協同で使う遊具や用具を大切に扱い、整頓する。 ・よいこと悪いことに自分で気付き、考えて行動する。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、衣服の調節などの必要性に気付き、自分から行う。 ・新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。 ・園外保育を通して、交通ルールが分かり、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで戸外に出て、伸び伸びと体を動かす心地よさを感じる。 ・自分のめあてをもって、繰り返し取り組んでいくことで、十分に体を動かす。 ・友達と一緒にルールのある遊び（円形ドッジボール、しっぽとりなど）に意欲的に取り組む。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・進級の喜びや小学校へ向かう不安などに対して、保護者の思いに共感したり励ましたりして、一緒に子どもを支えていくようにする。 ・クラス懇談会などの機会を利用して1年間の学級経営を伝えるとともに、保護者との信頼関係を築いていくようにする。 ・年度初め、担任や生活が変わることへの保護者の不安な気持ちを受け止め、前年度の担任と十分に連携を図っていることを保護者にも伝えることで安心してもらおう。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児になったことが嬉しく、クラスにある新しい遊具や昨年の年長児がしていた遊びなどに興味をもち、遊び方を確かめながら意欲的に取り組もうとする。 ・友達とごっこ遊びを楽しんだり、友達のしていることに興味をもって真似をしたり一緒につくったりする。 ・鉄棒やわたり棒、のぼり棒などの固定遊具に興味をもち、自分のめあてをもって繰り返し取り組む。 	
	環境	援助
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 5歳児クラスにある新しい室内遊具を目につきやすい場所に置き、自分から取り組んだり、友達と誘い合って遊んだりできるようにしておく。 □ 草花摘みや虫探しなど、春の自然に十分に触れて遊べるように、また関心をもって見たり調べたり集めたりできるように、図鑑などを身近に準備をする。 □ 経験したことや思ったことを話したり、友達の話を聞いたりする時間や話しやすい雰囲気をつくる。 □ 使いたいものを選び、自由に描いたり、つくったりできるように、素材や用具を分かりやすく分類して置いておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 様々な草花を使って遊んだり虫などに触れたりする中で、色や形、においなど、子どもの気付きや発見を大切にし、より興味や関心が深まるように働きかける。 ※ 子どもが考えてやっていること、おもしろがっていること、発見したことなどを認め、周りの友達にも言葉で伝えていけるように支えていく。 ※ 一人一人の話を傾けていくことで、話すことの楽しさを味わえるようにする。また、友達の話を聞くことの大切さについても知らせていく。 ※ 自由な表現や発想を認め、描いたりつくったりする楽しさを感じられるようにする。また、工夫したところや頑張ったところを聞いて認めていくことで、次への意欲へとつながるようにしていく。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 4歳時に経験した遊びや遊具などを準備し、落ち着いて一緒に遊んだり、友達同士で教え合ったりできるようにする。 □ 4歳時で楽しんだ遊びやみんなで簡単に楽しめる遊びなどを取り上げ、保育者やクラスの友達とのつながりが感じられるようにする。 □ 5歳児としての喜びや誇りを感じられるように、新入園児や年下の子にかかわったりお世話をしたりする機会をつくるなどしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 4歳時の友達関係を把握しておき、そのつながりを大切にしつつ、新しい友達と遊ぶ姿を認めたり、親しみ合えるような言葉をかけたりして、少しずつ友達関係が広がっていくようにする。 ※ 集団で遊ぶ楽しさを感じ、友達同士のつながりがもてるように、保育者も仲間に入り、遊びの楽しさやおもしろさを知らせていく。 ※ 相手のことが十分に分からずにトラブルになることもあるが、互いの思いが出せるようにするとともに、保育者が仲立ちしてそれぞれの思いを伝えるなどして、お互いに理解し合えるきっかけとなるようにする。 ※ 年下の子に声をかけたり、優しくかかわろうとしている姿を認めていく。また、どうすればよいか分からない子もいるので、言葉のかけ方やかかわり方を伝えたり、保育者も一緒に遊んだりして、年長児として年下の子どもへの思いやりや親しみの気持ちをもてるようにしていく。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 子どもと共に、新しい生活の場が使いやすくなるような遊具の配置や教材の表示などを考え、環境を整えていく。 □ 室内外の固定遊具の安全な使い方を子どもと共に確認する。また自分の遊びにめあてをもって取り組めるよう、必要に応じてカードやシールなどを用意していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 生活の場の使い方や片付けの仕方など、子ども達が考えたことを取り入れていくことで、より自分達で進んで生活の場を整えていこうとする意欲がもてるようにする。 ※ 遠足や園外保育時に交通ルールを守ることができるように、再確認をしていく。 ※ 固定遊具への挑戦やルールのある遊びなど、まずは興味をもったことに繰り返し取り組む姿を大切にしていける。また、保育者も一緒に遊ぶ中で励ましたり認めたりしていき、より意欲的に取り組めるようにする。
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆支持力 小さいかえる乗り ◆跳躍力 ケンケン跳び (ケンバ跳び) ◆懸垂力 りんご ◆その他感覚 (バランス感覚) つま先あひる歩き 		

5歳児 II期(6月～8月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境に触れ、自分のめあてをもって、試したり、考えたりしながら遊ぶ。 友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める。 めあてをもっていろいろな遊びに繰り返し取り組み、自分の力を十分に発揮する。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜や草花の栽培を通して、生長の様子に関心を持ち、よく見たり考えたりする。 身近な出来事に興味を持ち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり調べたり試したりする。 身近にあるいろいろな素材や材料の使い方が分かり、遊びに生かそうとする。〈事例11〉 砂や水、泥などのいろいろな素材の特性が分かり、利用して遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする。 経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かるように言葉で伝えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 素材の組み合わせを楽しみ、工夫して使う。 歌、手遊びなどを通して、友達と声や動きが合うことの心地よさを感じ、表現することを楽しむ。 物語や昔話などいろいろな絵本に親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。 いろいろな楽器の使い方が分かり、友達と一緒に音を合わせる楽しさを感じる。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> 友達と十分にかかわり、いろいろな遊びを進める。 友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。〈事例23〉 相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められた喜びを感じる。 友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、聞こうとする。 分からないことなどを自分から聞いて、解決していこうとする。 友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 園生活のきまりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分達で知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。 危険なことを自分で判断し、遊んだり生活したりする。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 次の活動に見通しをもち、状況が分かって動こうとする。 自分達の使った遊具や保育室をきれいにしたり、共有の場をみんなで片付けたりする。 汗の始末、水分補給、衣服の調節、手洗い、うがいなどを自分で気付いて行う。 栽培物の収穫を喜び、友達と一緒に何でも食べてみようとする。 遊具や用具の安全な使い方が分かる。 プール遊びでの約束が分かり、進んで守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 遊具や用具、固定遊具に積極的にかかわり、様々な動きを試したり挑戦したりしようとする。 水遊びやプール遊びを通して、水の中で思いきり体を動かすことを楽しむ。 自分のめあてに向かって、繰り返し挑戦しようとする。 友達の刺激を受けたり、競い合ったりしながら、様々な運動遊びに取り組んでいく。〈事例35〉
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士の中で起こった出来事については保護者に丁寧に伝え、友達とのかかわりの中で経験していることや、育つことについて理解し合い見守っていく。 保育参観や学級懇談会などの機会に、保護者の悩みを聞いたり、就学に向けた不安などの声を丁寧に受け止めたりして、園が取り組むことや家庭で協力してほしいことなどを互いに確認し合い、協力して子育てをしていく姿勢を大切にする。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂、水、泥、土、泡、草花など、その質の違いや性質に気付いたり、つくったものを見立てたりしながら工夫して遊ぶ。 ・ 自分の思いを友達に言葉で伝えたり、友達から聞いたことを自分の遊びに取り入れたりして、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・ 水遊びやプール遊びを喜び、全身で水の気持ちよさや開放感を十分に味わう。また、泳いだり潜ったりなど自分ができることを喜んで挑戦しようとする。 	
	環境	援助
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 自然物を使って繰り返し遊ぶ中で、自分達の興味や疑問を追究したり、継続して観察したりできる環境を工夫する。 □ 栽培や飼育に関心がもてるように、子どもの動線と考えた場所に栽培物などを置いたり、図鑑や絵本を目につきやすい場所に準備したりする。 □ 様々な気付きやイメージが生まれるように、素材のよさを生かせる用具などを準備していく。また、必要性に応じたものの量や配置場所などを考えていく。 □ 思ったことや感じたことを、友達に話したり相手の話を聞いたりすることができるような場や機会をつくる。 □ 子どもの様子を見て、必要と思われる材料や素材を用意するとともに、友達同士で教え合える場所や機会を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 子どもが気付いた様々な事象や疑問を受け止め、一緒に考えたり、言葉をかけたりする。また、より深く考えたり調べたりしていけるように支えていく。 ※ 夏野菜の生長や変化、小動物の様子などを子どもと共に喜んだり、驚いたりしながら、好奇心や探究心を高めていけるように働きかける。 ※ 砂や水、泥などの感触を全身で楽しみながら開放感を味わえるようにする。また、それらの特性を生かしながら、試したり工夫したりしていけるようにする。 ※ 一人一人の表現を受け止め、認めていくことで、安心して思いを伝えることができるようにするとともに、話すことが自信となっていくようにする。 ※ 子どもの気持ちに寄り添い、思いやイメージが実現するように支えながら、工夫したところや頑張ったところを認めていく。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 友達とイメージを共有して遊ぶ楽しさが感じられるようなお話や遊びを提供する。 □ 気の合う友達と、互いの思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさが感じられるような、共有の場や遊具を準備する。 □ 必要なきまりや危険な行為などの注意について、集会などで取り上げたり、日々の生活の中でも確認し合う機会をもったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 友達と一緒に遊びを進めていく中で、互いに主張し合う姿を受け止めていく。また、子ども同士がぶつかり合った時は、自分達で互いに話し合っ解決していけるように、それぞれが考えていけるような言葉をかけたり、見守ったりしていく。時には、みんなの問題として取り上げていくことで、いろいろな友達の考えを知ったり、自分の考えを深めたりしていけるようにする。 ※ 子ども同士の気持ちの行き違いや葛藤を受け止めながら、子どもが自分で気持ちの切り替えができるように支えていく。 ※ きまりを守ったり相手に伝えたりしている一人一人の姿を認め、子ども達で主体的に守っていこうとする気持ちを育てていく。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 見通しをもって主体的に行動ができるように、自分達の生活に必要な時間（昼食や帰りなど）が分かる表示の工夫をする。 □ 必要に応じて休息をとったり水分補給をしたりすることができるように、パラソルなどで日陰をつくったり、水筒を身近に置いておく場をつくったりする。 □ 食への関心が高まるように、野菜の収穫や調理活動、みんなで食べる機会などを設ける。 □ フープ、ビート板など、プールでの水遊びが楽しめるような遊具を準備する。また衛生面には十分配慮する。 	
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 支持力 大きいかえる乗り ◆ 跳躍力 ぐーちよきぱー跳び ◆ 懸垂力 りんご (5秒) ◆ その他感覚（回転感覚） じゃがいも 		

5歳児 Ⅲ期(9月～10月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな活動を通して、進んで物事に取り組む楽しさや達成感を味わう。 ・ みんなでする活動を楽しみながら、友達よさに気づき、様々な友達への親しみを広げる。 ・ 自分のめあてに向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋の動植物に関心を持ち、遊びに取り入れて、考えたり、試したり、工夫したりして遊ぶ。 ・ 遊びに必要なものの数、人数、適当な大きさ、長さ、バランスを考えて活動する。 ・ 遊びに使う簡単な標識や文字、数字に興味をもったり読んだりする。 ・ 遊びの中で数を数える、量を比べる、いろいろな図形に関心をもつなどする。 ・ 行事を通して、いろいろな国や国旗を知ること、異文化への興味や関心をもつ。 ・ 用途にあった素材を選んで使い、遊びに生かす。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の経験したことを話したり、友達の話の聞いたりする。 ・ 経験したこと、感じたこと、考えたことなど、自分がイメージしたことを自分の言葉で伝える。 ・ 話の内容を理解し、言葉の使い方、楽しさ、心地よさに気付く。 ・ 物語や話の続きに興味を持ち、クラスの友達と楽しんで聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で表現する。 ・ 遊びに必要なものや材料などを選んだり、つくったりして遊ぶ。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と話し合いながら、自分達で遊びを進めていく。(事例24) ・ クラスや同年齢の友達や保育者と一緒に、目的に向かって気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 ・ 自分の力を発揮し、友達よさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・ 自分の身近な人(高齢者、年下の子ども、地域の方など)とのかかわりを通して、相手を思う気持ちをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ きまりの必要性や危険なことが分かり、意識して行動する。 ・ よいこと悪いことについてクラス全体で話し合うことで、自分の行動を振り返る。 ・ 生き物を飼育する中で、命の尊さに気付く。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の生活の流れに見通しをもって行動しようとする。 ・ 汗の始末、衣服の調節、水分補給など、自分から進んで行う。 ・ 健康な生活、食事の大切さなどを知り、自分の体への関心をもつ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな運動遊びに進んで取り組み、体を十分に動かすことの心地よさを感じる。 ・ 全力で走ることに喜びや達成感を感じる。 ・ 難しい運動遊びや動きにも自分から挑戦しようとする。 ・ ルールのある遊び(リレーや綱引きなど)を通して、チームで競い合うことを繰り返し楽しむ。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便りや保護者会などを通して、めあてに向かって自分の力を発揮して取り組んでいる過程を伝え、日々の保育や運動会などの行事の様子から、子どもの成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。 ・ 戸外で運動する機会が多くなり、夏から秋へ季節が変わっていく時期でもあるので、子どもの健康状態について連絡を密にする。 ・ 体を動かすことで、様々な意欲や自信が引き出されることを伝え、子どもの伸びようとする力を園と家庭の両方で支えていく。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な草花や種などの自然物にかかわる中で、形や数などに関心をもって集めたり分類したりして遊びに取り入れながら、様々な気付きや発見をしていく。 運動会に向けての取り組みの中で、クラスの中での自分の存在を意識したり、友達の頑張っている姿やよさに気付いたりする。 様々な運動遊びに興味をもち、友達と挑戦しようとする。できないことや苦手なことにも、保育者や友達にやり方や方法を教えてもらいながら、「○○できるようにになりたい」とめあてをもって繰り返し練習しようとする。 	
	環境	援助
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 園内外の自然に触れ、遊びに生かせるような場所や機会、環境を準備する。 □ 量や数、長さ、図形、文字などに興味もち、遊びや生活の中に取り入れられるような環境の工夫を行う。 □ 一人一人が感じたことや考えたことをみんなに伝えたり、友達の考えを聞いたりして、みんなで考えていけるような機会を設ける。 □ 自分の思いやイメージを達成するために必要な材料や用具を選ぶことができる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 様々な秋の自然に触れて遊ぶ中で、子どもが発見したり感動したりすることに共感し、より不思議さやおもしろさに気付いたり、小動物の生態の仕組みなどの科学的な興味を広げたりできるようにする。 ※ 自分の言葉で伝えることの必要性や伝わったことの嬉しさを感じられるようにする。また、友達と思いや考えを伝え合い、みんなで考えて遊びや生活を進めていくことができるように支えていく。 ※ 子どもの表現を丁寧に受け止めるとともに、表現したことや考えを言葉で伝えていけるように仲立ちしていく。また、頑張りを認めていくことで、表現する喜びや意欲につながっていくようにする。
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 一人一人の存在や友達の取り組む姿が互いに見えるような場を構成する。 □ 一人一人の挑戦する姿や友達同士で教え合いをしながら頑張っている姿を、クラスで認める場をつくっていく。また、クラスやチームを意識したり、仲間とのつながりを感じたりできるような活動を取り入れていく。 □ 園内外の虫や小動物に興味をもち、世話をしたり生態や様子を観察したりできるように、ケースや図鑑などを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 遊びの中で、考えを出し合っている姿を認め、伝わりやすいように言葉を補ったり、考えを広げたりして、互いの思いや意見を取り入れながら遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 ※ 友達との遊びの中で、自分のめあてや役割をもって遊べているかを見極め、必要に応じて仲立ちをしていくことで、一人一人が自信や満足感を感じられるようにする。 ※ 自分ができるようになったことを友達に教えたり、友達の頑張りを励ましたりする姿を認め、互いを思いやったり認めたりする心を育てていく。また力を合わせてやり遂げたことの充実感や満足感が味わえるようにしていく。 ※ 生き物を飼育する中で、生態への興味はもちろん、大事に世話をすることや命の大切さについても関心をもてるような働きかけをする。
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 生活に見通しがもてるように、日程や行事予定などを具体的に示したり、必要に応じて子どもと一緒につくったりしていく。 □ 自分の体や健康な生活、食事の大切さなどを絵本や紙芝居、絵表示などで知らせる。 □ 一人一人の興味や力量に応じて試したり挑戦したりできるように、選択できる場や遊具を準備したり、必要に応じてチャレンジカードなどをつくったりする。 □ リレーや綱引きなどのクラスやチームが意識できて、競い合うことの楽しさが感じられる活動を取り入れる。 	
	<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 支持力 かえるのひと休み ◆ 跳躍力 小波跳び 大波跳び ◆ 懸垂力 りんごから回転 (補助つき) ◆ その他感覚 (バランス感覚) ゆらゆらかめさん 	

5歳児 IV期(11月～12月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や事象を見たり触れたりしながら、好奇心や探究心を深める。 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、達成感を味わう。 チームで競い合う楽しさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化(紅葉の美しさなど)に関心をもち、遊びに取り入れたり調べたりする。 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。 (事例12) 今までに経験した遊び方や遊具、素材などを遊びに取り入れる。 友達の意見や考えに刺激を受け、考えようとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 理由を添えたり新しい提案をしたりして、自分の考えを分かってもらえるように話す。 友達の話の内容を理解しようと、関心をもちて聞く。 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かり、使おうとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いに応じた材料や方法を選び、工夫したり、友達の刺激を受けたりしながら、つくったり描いたりすることを楽しむ。 絵本や物語に親しみをもち、創造を豊かにして表現する楽しさを味わう。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と共通のめあてに向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。 友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより楽しくなることを十分に味わう。 活動に合わせてルールを考えたり変えたりしながら守っていこうとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いをつけて進めようとする。 友達の中で、自分の力を発揮していく。 友達のよさに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 相手の立場に立って考えたり、行動したりしようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> よいことや悪いことを自分で考えて行動する。 その時にすべきことが分かり、自ら行動する。 公共のマナーの大切さに気付く。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 1日の園生活の流れに見通しをもち、友達と声をかけ合って行動する。 共同のものの片付けの必要性を感じ、自分から進んで片付けようとする。 いろいろな人やものに感謝の気持ちをもって食べる。 健康な生活や病気の予防に関心をもちて行動しようとする。 遊具や用具、遊びに使う場所などの安全に気を付けて遊ぶ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 苦手意識や抵抗感がある運動遊びにも進んで挑戦し、できた喜びを味わう。 走る、よける、投げる、つかむなど、いろいろな複雑な動きを自分で調整しながら遊ぶ。 チームで競い合ったり、ルールをつくったりしながら、繰り返し体を動かすことを楽しむ。 (事例36)
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊びや生活の姿を参観する機会などを通して、今興味をもっていることや楽しんでいる様子を理解してもらおうとする。 グループの友達との活動を通して協同性が生まれ、小学校での生活や学習の基盤になることを伝えるとともに、自分の子どもやクラスへの理解が深まるようにする。 就学に向けて、生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識をもって生活してもらおうとする。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化に関心をもち、どんぐりなどの自然物を使って遊ぶものをつくったり、つくったものを使って友達と競い合ったりする中で、試行錯誤し、繰り返し取り組んでいく。 ・気の合う友達と同じめあてをもって遊ぶ中で、友達のよさを気付いたり、友達を認めたりしながら、一緒に遊びを進めていくようにする。 ・チームやグループで様々な運動遊びに取り組み、友達の刺激を受けて新しいことに挑戦してみるなど、思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。 							
	環境	援助						
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 木の実や種、葉などの自然物を、種類、形、色などに関心をもてるような分類しておく。 □ 本物らしくつくりたいという気持ちを大切に、その思いが実現できるような素材、材料、用具を用意する。 □ 一人一人に応じた遊びができるよう、また試行錯誤したり繰り返し挑戦したりできるような場や材料を用意する。 □ 人前で話す機会を取り入れるとともに、どのような話し方、聞き方がよいかを考える場もつくっていく。 □ この時期ならではのクリスマスの雰囲気が感じられるような絵本や音楽、飾りをつくる材料などを用意し、必要に応じて自分達で使えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 自然物を使った遊びを保育者が提供するとともに、自分達で興味のあることを本や図鑑からも探せるようにし、試したり挑戦したりできるようにする。 ※ 思いが実現できるように少し難しいことにも挑戦している姿を受け止め、時には保育者からも考えを出すなど具体的な支えをしていくようにする。また、思いが実現した喜びを共感していく。 ※ 新しい用具や危険を伴う用具（金づち、釘など）を出す時は使い方や危険性を丁寧に伝え、安全に十分注意する。 ※ 相手に伝わったかどうか分かるように保育者が仲介することで、自分の思いを友達に伝えるように話そうとする気持ちをもてるようにする。また聞く側も、聞く姿勢や質問の仕方について考えられるようにしていく。 ※ クリスマスに向けた世の中の雰囲気に興味をもったり、絵本や物語などを通して空想の世界にイメージを広げたりできるようにしていく。また、興味をもったことを製作遊びや合奏遊びなどの表現遊びとして工夫していることを認め、実現できた喜びを感じられるようにしていく。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 友達や保育者のしている様子が見え、一緒にしたり教え合ったりできる共有の場所を設ける。 □ 友達と共通のイメージでごっこ遊びを楽しみ、友達同士で共有できるような場（段ボールや大型積み木など）や本物らしいものがつくれる材料などを準備する。 □ 友達のよいところや頑張っているところを見つけたり認めたりしていけるような機会をつくっていく。 □ 公共のマナーを守る大切さに気付けるように、園外保育などで考える機会をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 子ども達から意見や必要性が出にくい時は、保育者がきっかけになるような言葉かけを行い、遊びの発展を促していく。また、子ども達と一緒に遊び方を考えたり工夫したりなど、子ども自身ももっと楽しくなる方法について追究していこうと試行錯誤する姿を大切にす。 ※ 友達同士で誘い合ったり励まし合ったりすることで仲間意識を高め、思いを共有しながら遊ぶことの楽しさが広がるように支えていく。 ※ 考えを出し合い協力したり、自分達で解決しようとしたりする姿を認める。ぶつかり合って解決できづらい時は、両者の思いを受け止め、相手の思いに気付けるように支える。 ※ それぞれがめあてに向かって取り組んでいる姿を捉え、グループやチームの一員として自分が役に立っているという達成感や充実感を感じ、自信をもって友達とかかわれるよう支えていく。 ※ 公共施設での態度やマナーなどを具体的に知らせ、子ども同士でも注意し合えるようにしていく。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 子どもと共に場所を移動したり、明日の準備をしたりするなど、子ども自身が自分達の遊びに必要な場や材料を整理しながら環境をつくっていくようにする。 □ 生活の流れや先の行事などに見通しがもてるようにカレンダーなどの掲示物を準備する。 □ ボール、ドンジャンケン、リレーのバトン、得点板など、様々な運動や集団遊びの楽しさが味わえるための場所や用具を準備し、時間も確保する。 							
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆支持力 かえるの足打ち</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆跳躍力 いじわる縄跳び</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆懸垂力 逆上がりキック</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: none; text-align: right;">◆その他感覚（回転感覚） 前転</td> </tr> </table>			◆支持力 かえるの足打ち	◆跳躍力 いじわる縄跳び	◆懸垂力 逆上がりキック	◆その他感覚（回転感覚） 前転		
◆支持力 かえるの足打ち	◆跳躍力 いじわる縄跳び	◆懸垂力 逆上がりキック						
◆その他感覚（回転感覚） 前転								

5歳児 V期(1月～3月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや考えを様々な方法で表現しながら、やり遂げる喜びを味わう。 友達と共に過ごす喜びを味わい、自分達で遊びや生活を進め、充実感を味わう。 心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。 	
まなびの力	思考	<ul style="list-style-type: none"> 自然のもつ美しさや不思議さなど、様々な事象に関心をもち、発見したり、考えたり、試したりして遊びに取り入れる。 必要な文字や数、形、量などに興味や関心をもち、日常生活の中に進んで取り入れる。 小学校の一日入学などの経験を通して、入学への期待をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 今までの経験を通して、自分の思いを言葉で相手に分かりやすく伝える。 自分の思いや考えが相手に伝わるように考えて話す。 進んであいさつや返事を交わしたり、感謝の気持ちを言葉で伝えたり、生活の中で必要な言葉を使おうとする。 話している人に気持ちを向け、自分の経験と重ね合わせながら、関心をもって話を聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中の様々なものに主体的にかかわり、いろいろな方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。 感じたことや考えたことを音や動きや言葉などで表現したり、自分のイメージで演じたりすることを楽しむ。 友達と一緒に共通の目的をもち、遊びの場や必要なものをつくりたり描いたりする。
かかわりの力	協同	<ul style="list-style-type: none"> クラスや学年の友達とみんなでする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。 自分達で遊びや生活を進めていく充実感を味わう。 共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。 自分達で考えたルールを守って、友達と一緒に遊ぶ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話を聞いて受け止める。 友達のよさを認め合ったり、つながりを深めたりしながら遊びを進めていく。 自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。 小学校との交流などを通して小学生と触れ合い、小学校を身近に感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> よいこと、悪いことに気付き、考えながら行動しようとする。 互いに気持ちよく過ごすために、自分の意志や行動をコントロールしようとする。 公共のマナーの大切さに気付き、守ろうとする。 身近にいる生き物などの生命の尊さに気付き、大切に世話をしようとする。
からだの力	生活	<ul style="list-style-type: none"> 共同のものの整理や片付けの必要性を感じ、協力して進んで片付けようとする。 時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じて行動する。 冬の衣服の片付けや濡れたら乾かすなどの始末の仕方が分かり、自分の手順で行う。 健康な生活や病気の予防などに関心をもち、手洗い、うがいなどを進んで行う。 食事の大切さが分かり、何でも残さずおいしく食べようとする。 望ましい食事のマナーを身に付け、食事を楽しむ。 冬の危険な遊び方や場所(軒下、雪道)に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。 交通ルールが分かり、安全に気を付けて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 友達と誘い合い、寒さに負けず意欲的に戸外での遊びを楽しむ。 友達と積極的に体を動かす遊びに取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 運動遊具を進んで使い、組み合わせを工夫しながら、様々な動きに挑戦していこうとする。 自分のめあてに向かって挑戦し、できた喜びや達成感を味わう。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会などで、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会をもち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。 具体的な場面を通して子どもの成長を喜び合い、入学への期待につなげていく。 	

<p>発達の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びやコマ回しなど、自分のめあてをもち、夢中になって繰り返し遊ぶ。できるようになってくることで遊ぶ場所や遊び方を考えて、より楽しく遊ぶための工夫をしようとする。 遊びに必要なものをイメージに合った材料を選んでつくったり、それを使って遊びをよりおもしろくしたりする。 仲良しの友達とグループをつくって一緒に遊ぶ中で、互いに意見を言い合って遊び方を相談したり、みんなで決めたことを守ったりして楽しく遊ぼうとする。 カレンダーや一日の予定を見て、見通しをもったり、友達同士で知らせ合ったりして生活しようとする。 							
	<p>環境</p>	<p>援助</p>						
<p>まなびの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☐ 雪が降ったり氷がはったりする天候を予測し、冬の自然現象に興味をもてる遊びや材料、用具、場所などを準備する。 ☐ 縄跳びやコマ回し、固定遊具など、自分達でめあてを決めて繰り返し挑戦できる遊びを取り上げ、友達と教え合ったり競い合ったりする場所や機会を設ける。 ☐ 文字や数量に関心をもてるように、絵・文字カード、はんこ、各種ゲームなどを身近な場所に置き、興味に応じて取り組めるようにする。 ☐ 人前で話す、質問する、聞く、答えるという活動を積み重ねることができるような場をその都度設けていく。 ☐ イメージを広げていけるようなお話づくりやなりきって遊ぶ楽しさが感じられるような環境づくりを工夫する（絵本、必要な材料、イメージに合ったリズムや曲など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 自然に対する驚きや発見に共感しながら、一緒に考えたり関心を深めたりする。 ※ 一人一人が自分のやり方で挑戦したり、友達の姿に刺激を受けてより高い課題に挑戦したりしている姿を十分に認める。 ※ 数量や文字への関心は個人差があるので、一人一人の興味に合わせたかかわりを心がける。特に苦手意識を感じている子には、個に合わせて楽しめる工夫を考えていく。 ※ 人前で話す時の緊張感を受け止め、話すことができた自信が就学への期待や喜びにつながっていくようにする。 ※ 自分のイメージを生かそうとしたり、工夫したりしている姿を認め大切にしていける。 						
<p>かかわりの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☐ クラスでの共通の目的に向かって、一人一人やグループがそれぞれの力を発揮し、互いが活かされる場や機会をつくる。 ☐ 発表会の内容を他クラスと見せ合う機会をつくることで、より頑張ろうと意識を高める。 ☐ みんなで力を合わせる楽しさやチーム意識の味わえる遊びを取り入れる（ドッジボール、おにごっこ、ドンジャンケンなど）。 ☐ チームで作戦を考えたり、遊びながらルールに変化をもたせたりして、友達と力を合わせて遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ☐ 就学に向けて、意欲や期待をもって入学できるように、小学校の様子が分かる絵本を読んだり入学体験など小学校との連携を図る。 ☐ 自分達がしてきたことを4歳児に伝えたい気持ちを大切にしながら、相手の立場に立って伝えられるような引き継ぎの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 考えを出し合って協力している姿や子ども同士が互いのよさを認め合っている姿を認め、クラスのつながりを深めていけるようにする。 ※ 子ども同士が受け入れ合ったり、認め合ったりすることで感じる心地よさや嬉しさに共感していく。 ※ 遊びの中でぶつかり合いが生じた時には、互いに納得した解決や気持ちの調整ができるように支えていく。 ※ 仲間（チーム）意識をもち、友達と作戦を考えたり、みんなで力を合わせたりして楽しめるよう配慮する。 ※ 卒園に向けての行事などを機会に、小学校への期待感をもてるようにする。 ※ 入園時から振り返り、一人一人の成長を共に喜ぶ。 						
<p>からだの力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☐ 天候に応じて自分の健康管理や安全に必要なことに気付いていけるような機会や用具を準備する（衣服の調節、防寒具の整理、うがい、手洗い、換気など）。 ☐ カレンダーや当番表などの視覚教材を準備し、自分達で見通しをもって生活ができるようにする。 ☐ 雪や氷などで滑ったり転んだりしないように、安全対策をとる。 ☐ 進んで戸外に出たり、体を動かして楽しんだりできるような遊びや環境を準備する（おにごっこ、ドッジボール、縄跳びなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 冬の身支度や濡れた衣服の始末など、身の回りの身支度などについて自分でできるように励ます。また苦手な子には方法ややり方を知らせながら、自分で頑張れるように支える。 ※ 卒園に向けて遊具や道具を片付けていく中で、今まで使ったものを大切に感じたり感謝したりする気持ちを育てる。 ※ 雪や氷などの危険性について、具体的に話をして子ども自ら気を付けられるようにする。 ※ いろいろ体を動かし、進んで運動遊びを楽しみながら、心も体も大きく成長したことに満足できるように認めていく。 						
<p>【身に付く力と経験させたい運動遊び】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">◆支持力 ひよこの逆立ち</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆跳躍力 短縄ジャンプ</td> <td style="width: 33%; border: none;">◆懸垂力 忍者前回り下り</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: none; text-align: right;">◆その他感覚（バランス感覚） つま先後ろ歩き</td> </tr> </table>			◆支持力 ひよこの逆立ち	◆跳躍力 短縄ジャンプ	◆懸垂力 忍者前回り下り	◆その他感覚（バランス感覚） つま先後ろ歩き		
◆支持力 ひよこの逆立ち	◆跳躍力 短縄ジャンプ	◆懸垂力 忍者前回り下り						
◆その他感覚（バランス感覚） つま先後ろ歩き								

園小接続カリキュラム

就学前(年長)

小学校(1年)

目指す
子ども像

心動かし、問いをもち、自ら遊びや学びに向かう子ども
相手の話を聞き、自分の思いや考えを伝える子ども

育わらぬ姿 幼児期の姿 言葉による伝え合い 自立心・

★自分のやりたいことに向かって繰り返し挑戦する。
★自分の力でやってみようとして、考えたり工夫したりしながらやり遂げようとする。
★相手に分かるように自分なりの言葉で伝える。
★相手の顔を見て話を聞き、理解しようとする。

非認知の力
認知の力

つなげる

★できることを見つけ、自分から積極的に取り組む。
★課題に向かって意欲的に取り組み、自分なりに考えて粘り強く取り組もうとする。
★場面や相手に応じて、適切な言葉で自分の考えを伝えようとする。
★相手の話を最後まで聞いて、自分の考えを広げたり深めたりする。

非認知の力
認知の力

大切にしたいこと

単環境

★友だちと一緒に集まれる環境づくり [ex.絵本コーナー、製作コーナー、自由遊びコーナー] (安心感)
★子どもの興味・関心に応じた教材・教具・素材の準備 (主体性)
★子どもたちどうし気軽につながり、思いを伝え合える場の設定 (言葉による伝え合い)

交流
安心感
言葉による伝え合い
主体性

つなげる

★友だちと一緒に集まれる環境づくり [ex.読書コーナー、製作コーナー、自由遊びコーナー] (安心感)
★子どもの興味・関心に応じた教材・教具の使用や子どもの意欲を引き出す単元の構成 (主体性)
★子どもたちどうし気軽につながり、伝え合い交流する場の設定 (言葉による伝え合い)

交流
安心感
言葉による伝え合い
主体性

関先生の

★ありのままの自分を出せる信頼関係づくり (安心感)
★子どもの「やってみたい」という思いを受けとめ保育に生かす工夫 (主体性)
★伝えられた、聞いてもらえたが自信につながる言葉かけ (言葉による伝え合い)
★交流活動での子どもの姿を見取り、「目指す子ども像」へつなげる (タテとヨコの交流)

★ありのままの自分を出せる信頼関係づくり (安心感)
★子どもの「やってみたい」を引き出す単元構成の工夫 (主体性)
★子どもが相手意識をもって伝え合える言葉かけとそのモデルとなる (言葉による伝え合い)
★交流活動での子どもの姿を見取り、「目指す子ども像」へつなげる (タテの交流)

1学期【Ⅰ期、Ⅱ期】 2学期【Ⅲ期、Ⅳ期】 3学期【Ⅴ期】

1学期 2学期 3学期

卒園式・入学式

主体的な取組

学校生活を通して

環境整備【教室・廊下・靴箱・カッパかけ】
全校で統一する ロッカー・しまい方・道具入れ方
配膳台の置き方・教室内の掲示物

主な教育課程・予想される活動

体を使って

自然と遊ぼう

表現して遊ぼう

作って遊ぼう

園生活を通して

交流活動

参観交流作成

交流活動

参観交流作成

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

園小接続カリキュラム

幼稚園・保育園・認定こども園 5歳児 【心身の調和のとれた発達の基礎を培う時期】					小学校・義務教育学校 第1学年 【様々な動きを身に付ける時期】								
育てたい子どもの姿	「楽しく体を動かして遊ぶ体験を存分に受け入れ、運動することが大好きな子ども」を育てる												
目標・身に付けたい力	・発達に合わせた体系的な運動をすることで、その時期にしか身に付けることのできない基礎的な運動能力や体力を培う。		知識及び技能		・各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。								
	・体を動かすことで脳を活性化させ、感情をコントロールする力(抑制力、判断力、注意力等)を養う。 ・友達とともに体を動かして遊ぶことで、コミュニケーション力を養う。		思考力、判断力、表現力等		・各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。								
	・楽しい遊びの中での成功体験の積み重ねにより、運動への苦手意識を減らし、運動への苦手意識を減らし、運動する意欲や自信を高める。		学びに向かう力、人間性等		・各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりして、意欲的に運動する態度を養う。								
環境・単元	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの興味関心を捉え、自ら楽しく体を動かすことができる様々な遊びの提供と環境づくり ●子どもが安全に楽しく遊ぶことができる環境づくり ●身体諸機能の発達の過程を知り、個々の発達に応じた環境づくり ●毎日5～10分の継続した積み重ねと運動量・時間の確保 		<p style="text-align: center;">保育と授業の共有と把握と理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見合う ・聞き合う ・探り合う ・語り合う ・受け入れ合う 		<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの(園での)実践や学校全体の課題等を捉え、自ら楽しく体を動かすことができる様々な運動遊びの提供と環境づくり ●子どもが安全に楽しく取り組むことができる環境づくり ●身体諸機能の発達の過程を知り、個々の発達に応じた授業・環境づくり ●授業や帯活動等を活用し、継続した積み重ねと運動量・時間の確保(実情に応じて) 								
先生の仕事	<ul style="list-style-type: none"> ●楽しみながら多様な動きを経験できるように、動きのレパートリー(種類)とバリエーション(変化)を意識した遊びの提供 ●場や器械・器具・用具、遊び方等の安全に気付け、適切な補助によって、抵抗感なく安心して取り組める雰囲気づくりと援助 ●子どもの「やってみよう」「おもしろそう」という思いと意欲を引き出す工夫 ●保育者や友達との関わりを通して、安心感や楽しさ、刺激を感じられる工夫と援助 				<ul style="list-style-type: none"> ●園での運動経験を踏まえ、子ども同士がつながり、自ら活動を生み出したりできる授業・環境設定 ●場や器械・器具・用具の安全に気を付け、安心して取り組める雰囲気づくりと支援 ●子どもの「やってみよう」「おもしろそう」という思いと意欲を引き出すため、学習への動機付けの工夫 ●他者との関わりを通して、自ら課題解決できる場の設定、支援の工夫(ICT機器・視覚支援教材の活用により、動きのイメージを広げたり、共有したりする) 								
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期に経験させたい36の動き」を取り入れる、様々な器械・器具・用具に触れる 「こんなこと(動き)ができるかな?」「この用具、知ってる?」「こんな使い方があるんだよ」 ・できるようにしたことや分かったことを見せ合う、伝え合う 「できるようになったの!見せて!」「〇〇がうまくできているね!どうやってするの?教えて!」 ・難しいことから難しいことへレベルを上げていく、個々の力量に応じた場をつくる 「ちょっと難しいけど、できるかな?」「小学校のお兄さんお姉さんがやってたよ」 ・保育者がモデルになったり、補助する様子を見せたりする 「こんなふうにはできるよ!」「先生と一緒にするね!」「先生が支えるから大丈夫だよ」 				<ul style="list-style-type: none"> ・園でした動きや遊びを取り入れる 「園で、どんなこと(動き)をしたの?」「どんな動きができそう?」「やってみせてよ」 ・園でしたことやできるようになったことを見せ合う、伝え合う、教え合う 「どうすればできるか、教えてよ!」「〇〇さんの動きを見てみよう」「一緒にやってみよう」 ・これまでの経験をもとに、もっとできることを考える、試す、工夫する場をつくる 「どうすれば、もっと(良く、大きな動きに等)なるかな?」「どうやって考えたの?」 ・先生や友達の模範運動やICT機器を使って動きを見せる 「この動きをよく見てね!」どの部分が違うかな?」「こんな運動はどうか?」 								
期	I期(4月～5月)	II期(6月～8月)	III期(9月～10月)	IV期(11月～12月)	V期(1月～3月)	1学期	2学期	3学期					
予想される活動・子どもの学び(動き、気持ち等)	<p>＜子どもが主体的に取り組む運動あそび＞</p> <p>触れ合い遊び、伝承遊び・わらべうた遊び、ジャンケン遊び ・体のいろいろな部位を動かす ・友達と一緒に ・歌や曲に合わせる、感じる ・勝敗をつける</p> <p>固定遊具(施設)を使った遊び：ジャングルジム、雲梯、登り棒、滑り台、ブランコ等 運動器械・器具・用具を使った遊び：マット、鉄棒、跳び箱、縄跳び、ボール、フープ、ぼっくり、竹馬、ホッピング、ストライダー、巧技台、平均台等 ・体のいろいろな部位を動かす ・体をコントロールする ・用具を準備する、片付ける ・いろいろな技に挑戦する ・あきらめない ・友達と一緒に、友達と刺激を受け合って、友達と教え合って ・順番を決める、守る ・用具の使い方を、操作する</p> <p>マラソン ・体があたたかくなる ・心臓がドキドキする ・体力がつく、体が強くなる ・風を感じる ・友達と競争する</p> <p>かけっこ ・まっすぐ走る ・最後まで駆け抜ける ・友達と競争する</p> <p>折り返しリレー ・思いきり走る、スピードを調整する ・友達と競争する ・終わり方を考える ・人数を考える</p> <p>円周リレー ・円の外側を走る、スピードを調整する、バトンを渡す ・チームで対戦する、作戦を考える、勝敗をつける ・チームの人数をそろえる</p> <p>水に触れての遊び：砂場、水たまり、池等 ・流す、ためる、遊ぶ、掘る ・冷たい、気持ちいい ・流れ方等について考える</p> <p>水遊び：プール、シャワー、スプリンクラー等 ・歩く、走る、泳ぐ、顔をつける ・安全に遊ぶ約束を守る ・水の中は動きにくい、浮く ・冷たい、気持ちいい</p> <p>雪、氷、霜に触れての遊び ・固める、丸める、転がす、滑る、掘る ・冷たい、寒い、いたい、やわらかい ・形づくり、見立てる</p> <p>おにごっこ：増えおに、色おに、高おに、しっぽとり等 ・素早く逃げる、追いかける、よける(身をかわす)、相手を見る ・友達と一緒に、仲間を集めて ・ルールを考える、話し合う、決める、守る</p> <p>ボール蹴り：的当て、的入れ、相手に向かって等 ・まっすぐ蹴る、的や相手に向かって蹴る ・踏み切る、踏み込む</p> <p>サッカー ・蹴る、パスをする、ねらう ・チームをつくる、対戦する、作戦を考える、勝敗をつける ・ルールを考える、話し合う、決める、守る</p> <p>ころがしドッジボール ・転がす、よける(身をかわす)、ねらう ・ルールを考える ・コートや広さや形を考える</p> <p>円ドッジボール ・投げ、よける(身をかわす)、ねらう ・チームをつくる、対戦する ・ルールを考える、話し合う、決める、守る</p> <p>方形ドッジボール ・投げ、よける(身をかわす)、捕る、相手にパスをする ・チームをつくる、対戦する、作戦を考える、勝敗をつける ・ルールを考える、話し合う、決める、守る ・チームの人数をそろえる</p> <p>体操、リズム遊び、リトミック、ごっこ遊び ・体のいろいろな部位を動かす ・リズムや曲に合わせる、感じる ・自分の考えたことを表現する、〇〇の真似をする</p>					<p>A 体づくりの運動遊び</p>		<p>B 器械・器具を使った運動遊び</p>		<p>C 走・跳の運動遊び</p>		<p>D 水遊び</p>	
	<p>ア 体ほぐしの運動遊び ・体を動かすと気持ちいい ・体のいろいろな部位を動かす、意識する ・友達と互いの考えを共有する</p> <p>イ 多様な動きをつくる運動遊び (ア)体のバランスをとる運動遊び *回る、寝転ぶ、起きる、座る、立つ、静止するなど (イ)体を移動する運動遊び *這う、歩く、走る、跳ぶ、はねるなど(姿勢、速さ、リズム、方向などを変えて) (ウ)用具を操作する運動遊び *一定の速さでのかけ足など (エ)カ試しの運動遊び *用具をつかむ、持つ、回す、転がす、運ぶ、用具をくぐる、投げる、捕る、用具に乗るなど *人を押す、引く、運ぶ、支える、力比べをするなど</p>					<p>ア 固定施設を使った運動遊び(雲梯、登り棒等(実情に応じて)) *登り下り、ぶら下がりが、懸垂移行、渡り歩き、跳び下り、逆さの姿勢など</p> <p>イ マットを使った運動遊び *転がる、逆立ちをする、移動する、体を反らせる ゆりかご、前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がりなど 背支持倒立、うさぎ跳び、かえるの足打ち、かえるの逆立ちなど</p> <p>エ 跳び箱を使った運動遊び *跳び乗りや跳び下り、馬跳びやタイヤ跳び</p>		<p>ア 走の運動遊び *30～40m程度のかけっこ、折り返しリレー遊び、低い障害物を用いてのリレー遊び ・コースに沿って、まっすぐ走る ・腕、足を動かす ・リズムよく走る</p> <p>マラソン・長距離走(実情に応じて) ・自分のペースで走る</p> <p>イ 跳の運動遊び *幅跳び遊び、ケンパー跳び遊び、ゴム跳び遊び</p>		<p>ポイント ○小学校学習指導要領(体育編)には、「体づくりの運動遊び」の内容として、「幼児期に経験させたい36の動き」と同じ動きが掲載されている。 ○様々な種類の基本的な動きや、基本的な動きに変化を加えた動きが経験できるようにする。 【レパートリーとバリエーション】</p>			
	<p>ア 水の中を移動する運動遊び(実施期間:6月～7月) *水かけっこ、まねっこ遊び、電車ごっこ、リレー遊び、鬼遊び ・水を体にかける、いろいろな方向に飛ばす、歩く、走る、泳ぐ、水中で息を吐く</p> <p>イ もぐる・浮く運動遊び *じゃんけん、にらめっこ、石拾い、輪くぐり、くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮き、パプリング、ポビング</p>					<p>ア ボールゲーム(園での取組内容を踏まえて) *的当てゲーム、シュートゲーム、投げ入れるゲーム、打ったり蹴ったりするゲーム ・転がす、投げる、蹴る、的に当てる ・投げ入れる、捕る、止める ・よける(身をかわす)、攻める守る ・ルールを考える、守る ・友達と協力する ・勝敗をつける</p> <p>イ 鬼遊び *一人鬼、手つなぎ鬼、子増やし鬼、宝取り鬼、ボール運び鬼 ・速く走る、曲がる、身をかわす、移動する、駆け込む、追いかける ・ルールを考える、守る ・友達と協力する ・勝敗をつける</p>		<p>ア 表現遊び *鳥や昆虫、動物など(多様な感じの動きを含むもの) *飛行機、遊園地の乗り物など(速さに変化のあるもの) ・特徴を捉える、なりきる ・友達と一緒に楽しむ、見せ合う</p> <p>イ リズム遊び *弾んで踊る(ロック、サンバ) *ジェンカ、キンダーポルカ、タタロチカなどのフォークダンス ・曲やリズムに合わせて、心地よさを感じる ・友達と合わせる</p>		<p>体を動かすことには、メリットがいっぱい!</p>			
	<p>＜「運動あそびプログラム」による運動あそび＞</p> <p>側転【支持力】：いぬ・ねこ歩き → くま歩き → さつまいも(丸太ころがり) → 新幹線くま → 片足くま → くもの巣渡り(支持での川跳び) → あざらし歩き → 大きい片足くま → かえるの足打ち → ひよこの逆立ち(かえるの逆立ち) → 側転 短縄連続跳び【跳躍力】：うさぎジャンプ → カンガルージャンプ → じぐざぐジャンプ → 足きり遊び → ケンケン跳び・ケンパ跳び → 縄のプロペラ回し → ぐーちよきばー跳び → 小波跳び・大波跳び → いじわる縄跳び → 短縄ジャンプ → 短縄連続跳び(連続両足跳び) 跳び箱開脚跳び越し【支持力・跳躍力】：あまがえるジャンプ → 小さいかえる → 跳び乗り・跳び下り → うしがえる → 小さいかえる乗り(支持で跳び乗り) → 大きいかえる乗り → かえるのひと休み(支持でまたぎ乗り) → かえるの足打ち → 開脚跳び越し 鉄棒逆上がり【懸垂力】：へびさん → わに歩き → さるのぶら下がり → ぶたの丸焼き → ふとん干し → 跳び上がり・跳び下り → 前回り下り → すずめ(ツバメ) → 両手同時つきわに歩き → りんご → こうもり → 逆上がりキック → 忍者前回り下り → 逆上がり ※()内は、小学校学習指導要領体育編に出てくる技名で、園で経験する動きと似ているもの。 ※体の力を育む動きと、道具に慣れるための動きが入っている。多少順番は変わってよい。</p>					<p>日頃使わない筋肉を動かせる</p> <p>できたことが自信になる</p> <p>「もっとやってみよう」という意欲がわく</p> <p>人とのかわりが豊になる</p>							